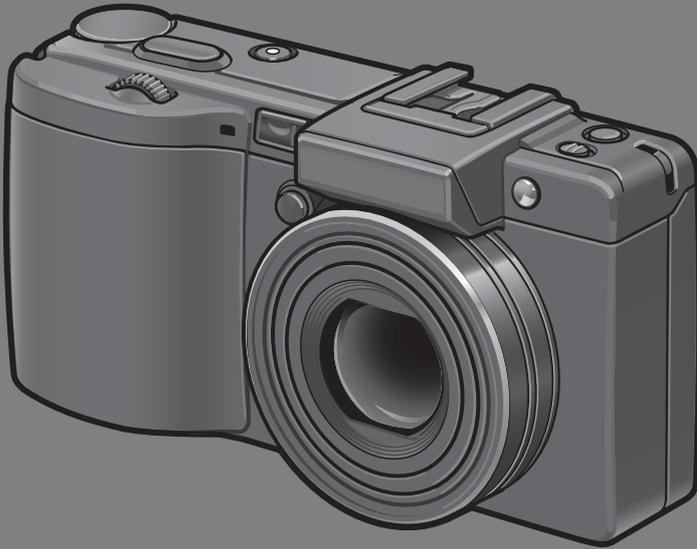
RICOH

Caplio GX100 VF KIT

使用説明書　カメラ・導入編

本書は、Caplio GX100 VF KITの使用説明書です。Caplio GX100 VF KITには、液晶ビューファインダー（VF-1）が同梱されています。

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

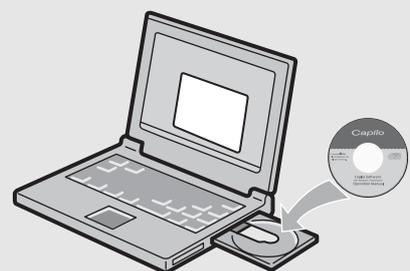
応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

お願い

カメラとパソコンを接続するのは、ちょっとお待ちください。

付属のソフトウェアをパソコンにインストールする前に、カメラとパソコンをUSB ケーブルで接続すると、カメラとパソコンを接続するためのソフトウェアが適切にインストールされない場合があります。付属のソフトウェアをインストールしたあと、カメラとパソコンを接続してください。（☞P.161）

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

＊ 本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

＊ 各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

＊ 本サービスは、日本国内のみ有効です。

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。
http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。ひきとり料金（2000円）がかかりますので、予めご了承ください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。
1)10：00～12：00　2)12：00～14：00　3)14：00～16：00
4)16：00～18：00　5)18：00～20：00
＊リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、Caplio News（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする <電波障害自主規制について> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

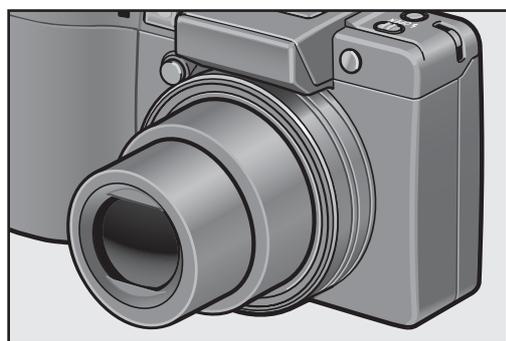
使用説明書の構成について

Caplio GX100 VF KITには、次の2種類の使用説明書が付属しています。

	『使用説明書（カメラ・導入編）』（本書）
	カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。 ※ 英語版の『使用説明書（カメラ・導入編）』はPDFファイルで、付属のCD-ROMに収録されています。
	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）
	付属のソフトウェアを使って、カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。 『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の次のフォルダに収録されています。 Caplio CD-ROM (D:) Caplio Manual Chinese_Simplified Chinese_Traditional English English_Camera_Manual French German Italian Japanese Korean Spanish 英語版の『使用説明書（カメラ・導入編）』（PDFファイル） 各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。 使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。

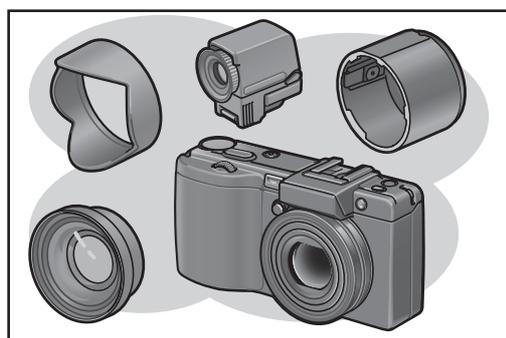
本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェアIrodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使い方については、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studioについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

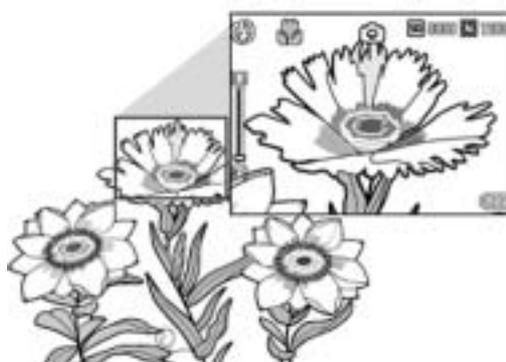
株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター
TEL：06-6633-3900
FAX：06-6633-2992
〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日10：00～17：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで､Irodio Photo & Video Studioの最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html

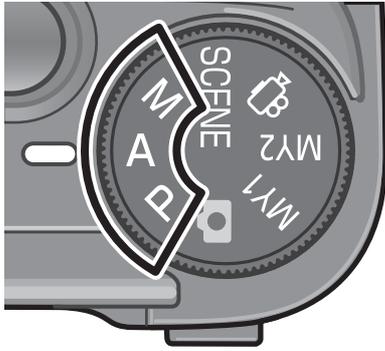
このカメラでできること

広い範囲を写しこむワイドズームレンズ

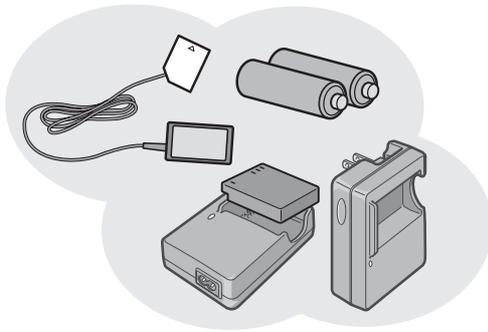
厚さ25mmの薄型コンパクトボディに、24〜72mm*の広い撮影領域をカバーする光学3倍ワイドズームレンズを搭載。広い画角で建造物や風景、人物の集合写真等、さまざまな撮影シーンに対応できます。
*35mm判カメラ換算値です。

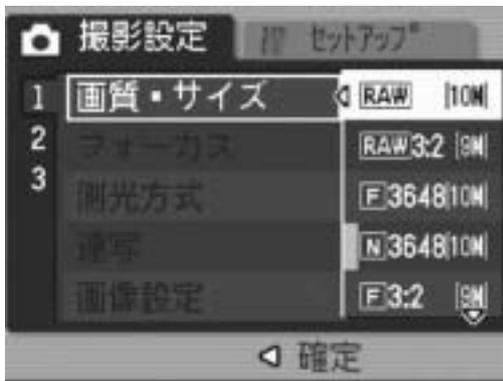
手ブレ補正機能で、手ブレを抑えた安心撮影（P.103）

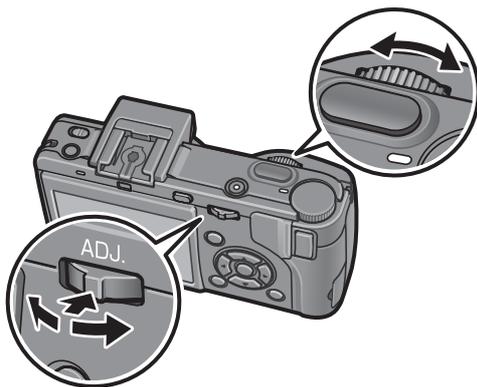
手ブレ補正機能を装備。室内や夜景などの手ブレしやすい場面でも、手ブレを抑えた撮影ができます。

表現力を刺激する豊かな拡張性（P.16）

フード＆アダプターと19mmワイドコンバージョンレンズを使用すると、さらにワイドな世界を実現します。また、ケーブルスイッチなどの多彩なオプション品で、撮影する楽しみが広がります。ホットシューを装備していますので、外部フラッシュも装着できます。

1cm マクロ対応（P.42）、また望遠時15cm、広角時20cm対応の近接フラッシュ（P.43）

被写体まで1cm（レンズ先端より）の超アップで撮影可能な接写機能を搭載。
フラッシュは望遠時15cm、広角時20cmの近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。

絞り優先モード、マニュアル露光モード、プログラムシフトモード搭載のハイエンド仕様

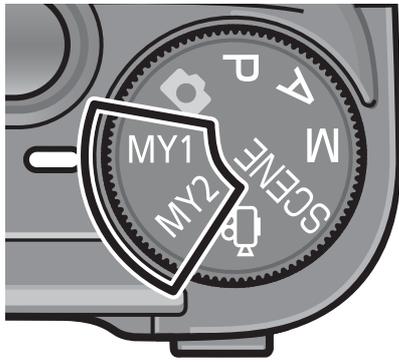
絞り値やシャッタースピードを自分で設定することができます。小型・軽量・薄型化を実現した、デジタル一眼レフにも負けないハイエンド機です。

撮影タイミングに合わせた 3 電源方式 (P.25)

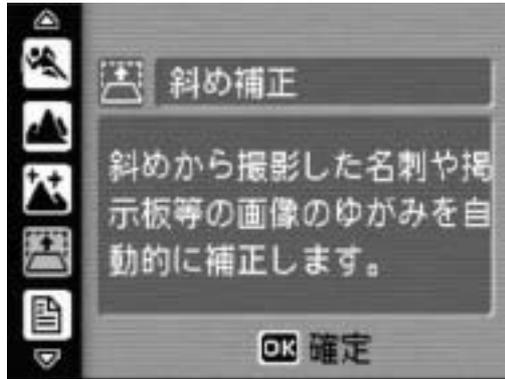
長時間駆動の大容量リチャージャブルバッテリー（同梱）、外出先でも入手しやすいアルカリ乾電池、パソコンへの転送時などに便利なACアダプターの3種類の電源が利用できるので、旅先での撮影に便利です。

有効画素数1001万画素CCDと最高画質の撮影を実現する RAW モードを搭載 (P.77)

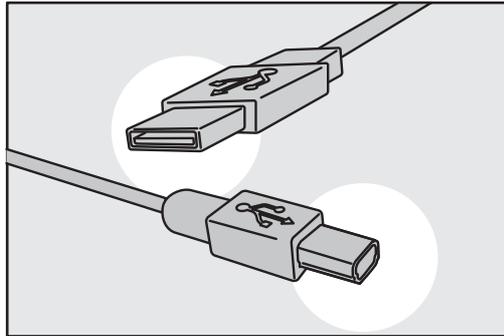
有効画素数1001万画素CCDの搭載により、クオリティの高い精細な画像を実現します。また、RAWモードでは、撮影したままの状態の生データ（.DNGファイル）を保存します。JPEGファイルより画質の劣化が少なく、パソコンで思いどおりに加工できます。DNGファイルを元にしたJPEGファイルも同時記録されます。

アップダウンダイヤルとADJ.レバーで簡単スピーディー操作（P.20）

アップダウンダイヤルと ADJ. レバーを使って、撮影時の設定や各種メニュー操作などが、簡単にすばやく行えます。
また、ADJ.レバーを押すとADJ.モードに移行し（P.62）、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定ができます。

1秒間に30フレーム／15フレームの高画質・音声付き動画（P.105）

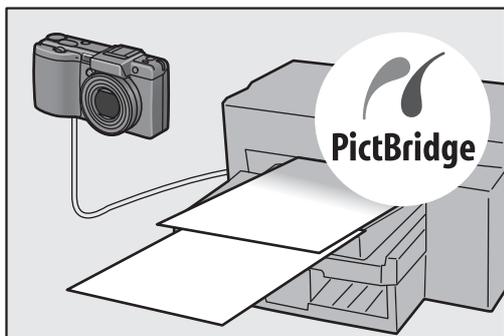
640×480ピクセルの高画質、1秒間に30フレームのなめらかな音声付き動画が撮影できます。

簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載（P.73）

オリジナルの設定を2種類登録することができます。モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができ、便利です。

ゆがみを簡単に補正する斜め補正モード搭載（P.45）

斜めから撮影した四角い被写体を、正面から撮影したように補正する「斜め補正モード」を搭載。簡単なボタン操作で補正ができ、掲示板や展示パネル、名刺など、さまざまな被写体の撮影に活躍します。

USBケーブルでパソコンへ一発転送

付属ソフトウェアをパソコンにインストールしておけば、カメラとパソコンをUSBケーブル（付属）でつなぐだけで、自動的にパソコンに画像が転送できます。
USB Ver.2.0に対応しているので、転送も非常に高速です。（パソコン側が対応している必要があります）

ブラウザ、ビューワ、画像ビデオエディタ機能を持つ多機能ソフト「Irodio Photo & Video Studio」を標準装備（P.173）

撮影した画像の閲覧、管理、編集はもちろんのこと、ビデオエディタ機能を使うと、静止画やビデオクリップ、オーディオ、音楽ファイルから動画を作成することも可能です。

パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能（P.124）

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。
帳票印刷も可能です。

もくじ

応用編　61

目的に応じて必要なときにお読みください

1　いろいろな撮影　62

2　動画を撮影・再生する　105

3　いろいろな再生　109

4　ダイレクトプリントで印刷する　124

5　カメラの設定を変える　131

6 画像をパソコンに取り込む 161

7　付録　182

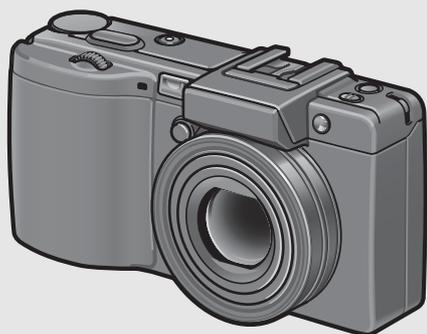
基本編

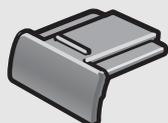
はじめてお使いのときは必ずお読みください

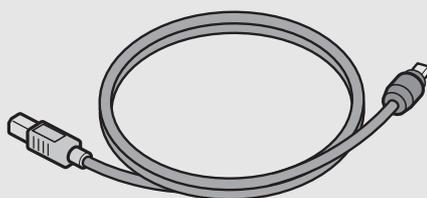
パッケージを確認する

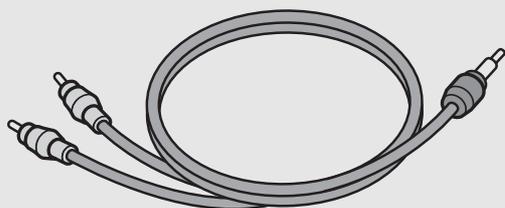
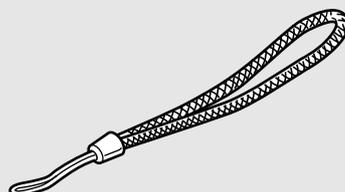
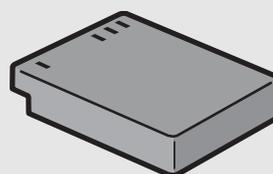
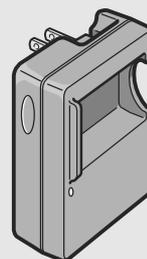
パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。

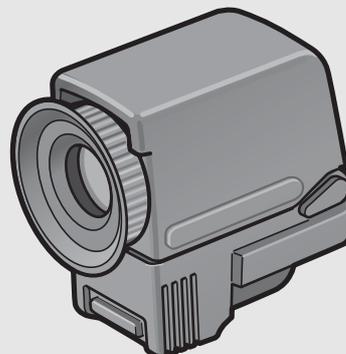
Caplio GX100

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

ホットシューカバー

カメラ本体に装着されています。

USBケーブル（miniBタイプ）

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。

ハンドストラップ

リチャージャブルバッテリー

バッテリーチャージャー

液晶ビューファインダー(VF-1)

液晶ビューファインダーを取り付けるときは、カメラの電源をオフにしてください。
使用方法は、VF-1の使用説明書を参照してください。

VF-1のケース
VF-1の使用説明書
VF-1の保証書

レンズキャップ
レンズキャップ用ひも

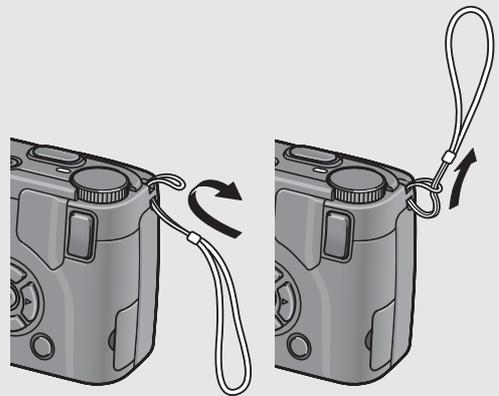
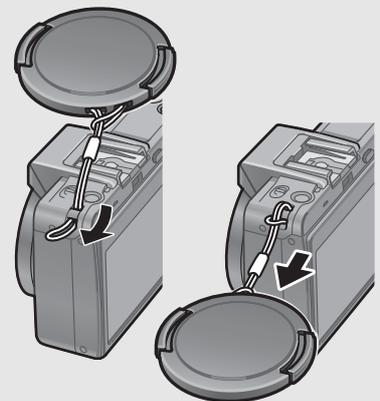
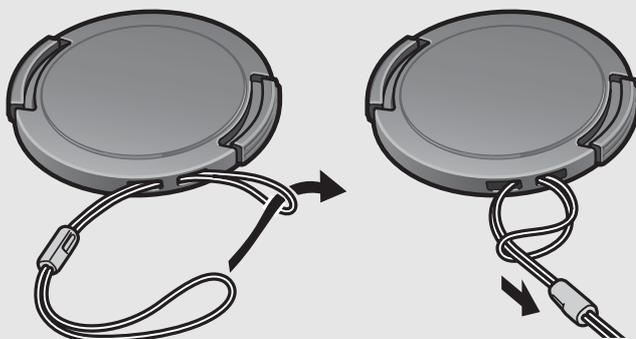
使用説明書
（カメラ・導入編）

（本書）

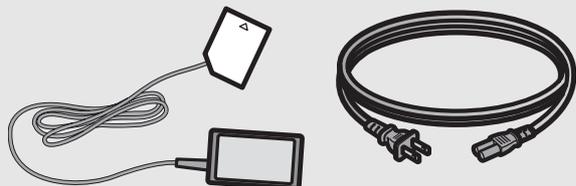
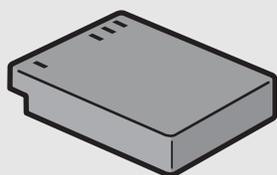
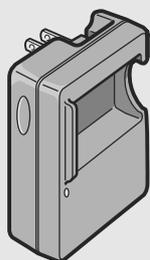
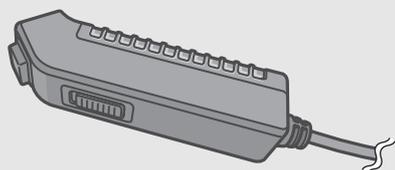
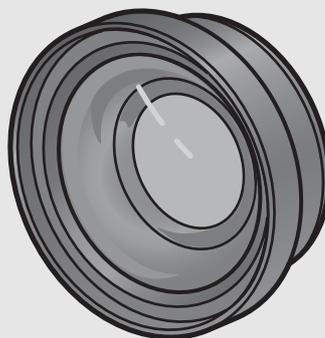
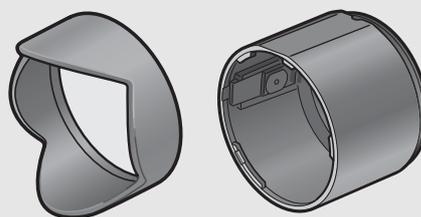
安全上のご注意

Caplio Software CD-ROM
ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

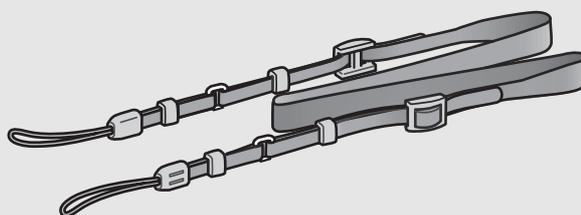
メモ

ハンドストラップのつけかた
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

レンズキャップ用ひものつけかた

別売り品について

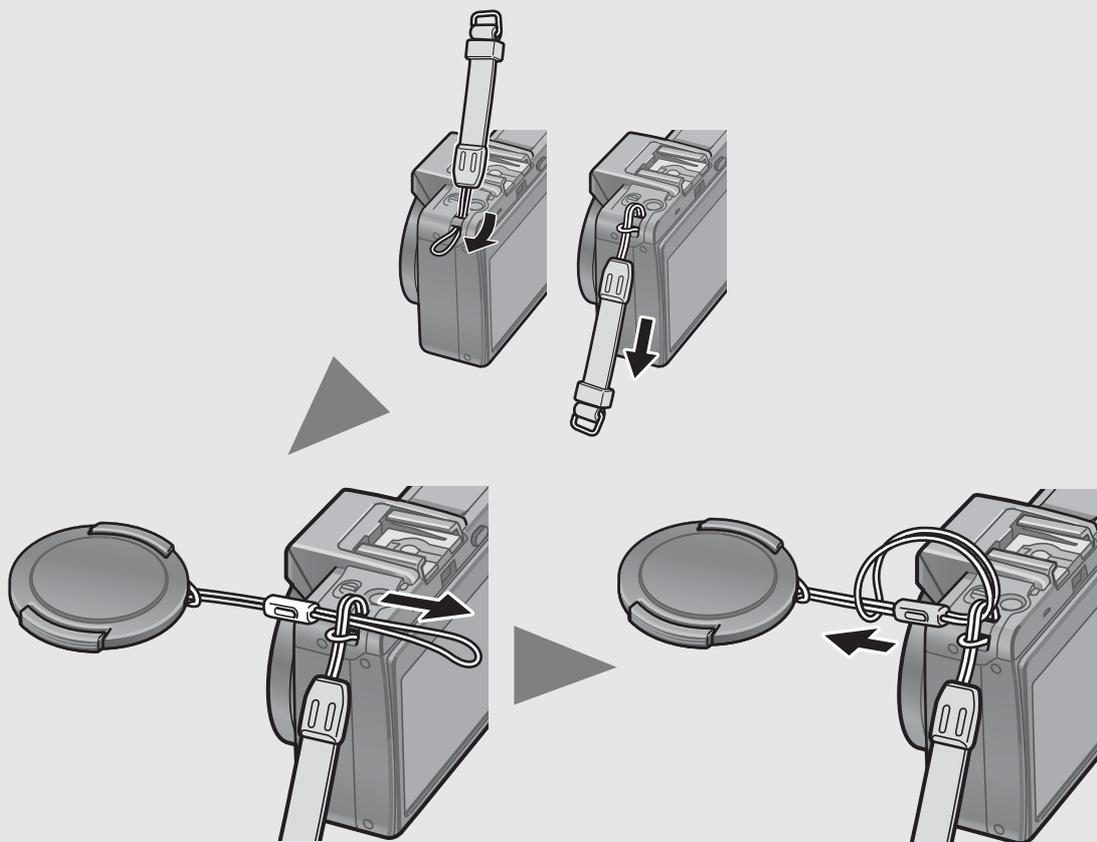
ACアダプター（AC-4c）

家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。

リチャージャブルバッテリー（DB-60）

バッテリーチャージャー（BJ-6）

ケーブルスイッチ（CA-1）

ワイドコンバージョンレンズ（DW-6）

フード＆アダプター（HA-2）

ソフトケース（SC-45）

ネックストラップ（GS-1）

ST-1は使用できません。

メモ

ネックストラップとレンズキャップのつけかた

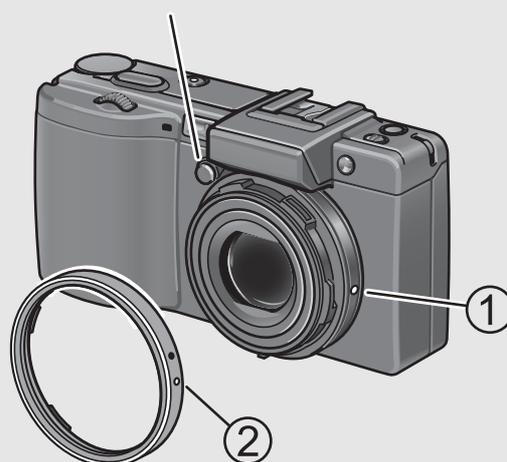
ネックストラップ（GS-1）の先端を結合部より外し、図の様に取り付けます。

メモ

- 別売り品の詳細については、P.194をご覧ください。
- 別売り品の最新情報については、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc）をご覧ください。

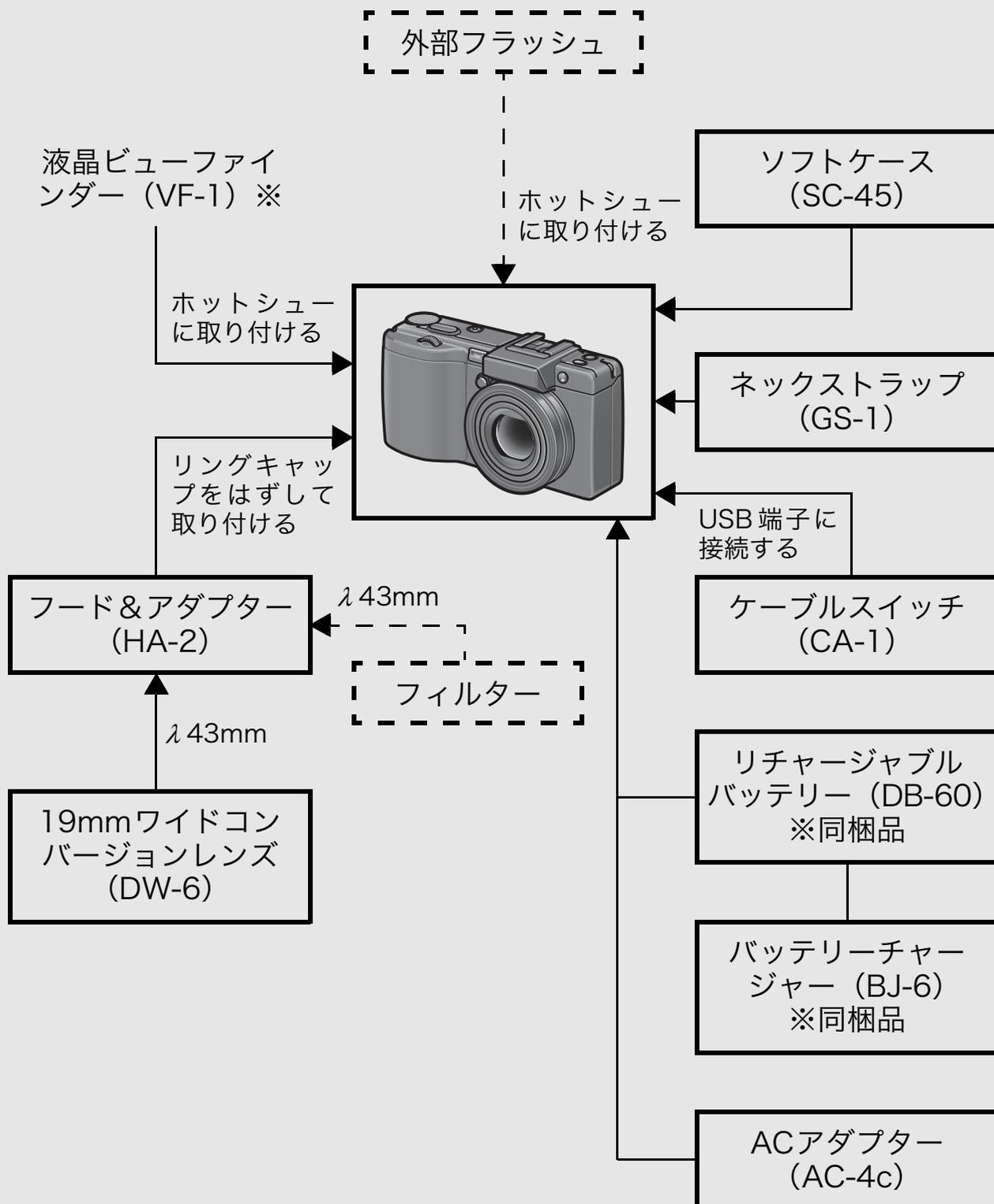
リングキャップの取り付け・取り外し方

ワイドコンバージョンレンズやフード＆アダプターを使用するときは、リングキャップを取り外します。

リングキャップの取り外し方

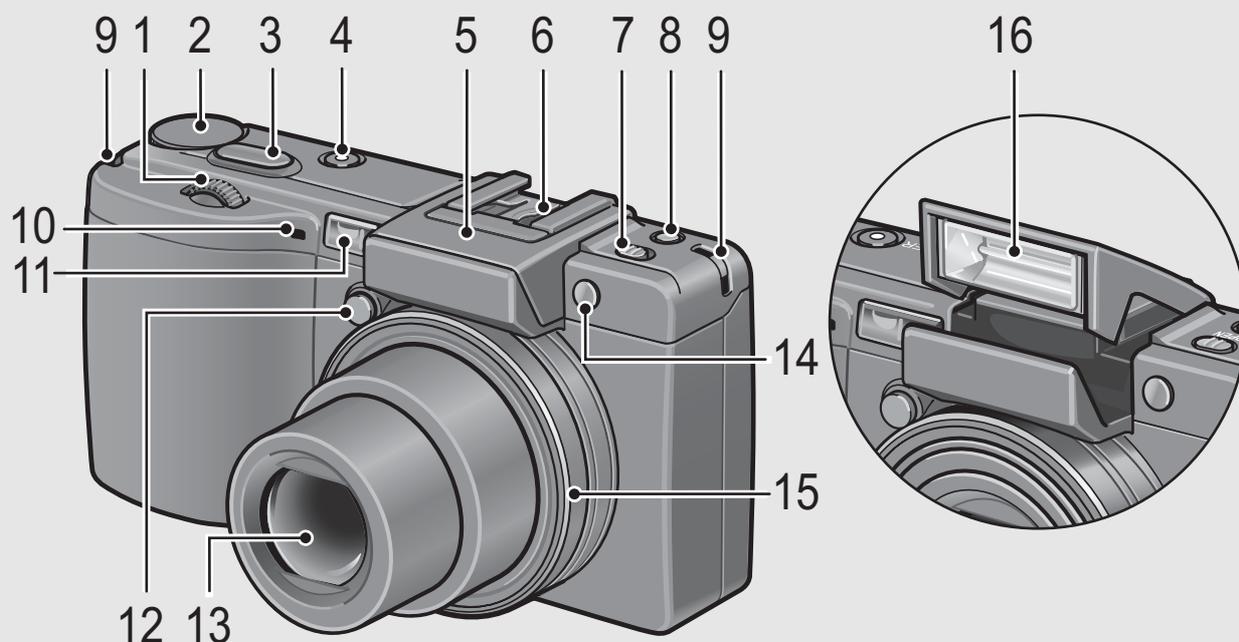
カメラ本体の電源がオフの状態で、リングキャップ取外しボタンを押しながら、リングキャップを反時計回りに回し、カメラ本体から取り外します。

リングキャップの取り付け方

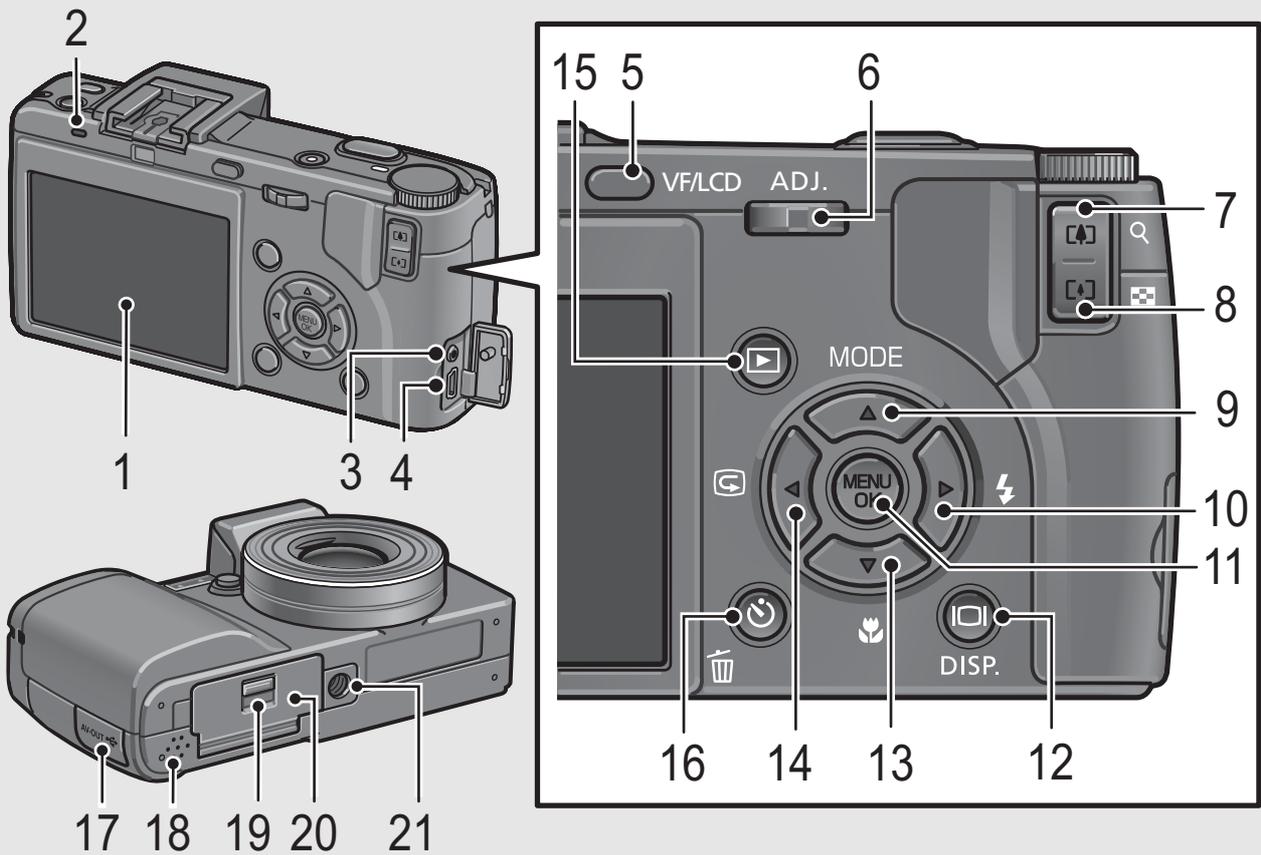
カメラ本体の電源がオフの状態で、カメラ本体の目印①にリングキャップの目印②を合わせ、「カチッ」と音がする位置まで時計方向に回します。

カメラのシステム構成図

※ 液晶ビューファインダー（VF-1）は同梱されています。使用方法は、VF-1の使用説明書を参照してください。

カメラの各部の名称

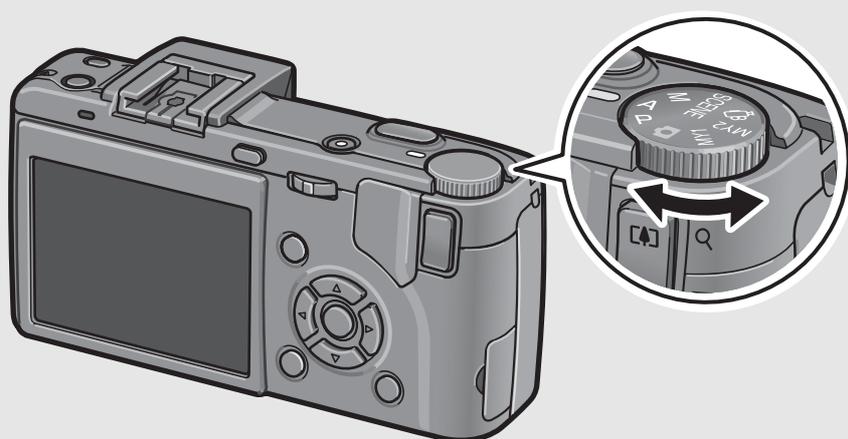
カメラ本体

前面

	名称	参照先
1	アップダウンダイヤル	P.20
2	モードダイヤル	P.19
3	シャッターボタン	P.35
4	POWER（電源）ボタン	P.32
5	フラッシュカバー	P.43
6	ホットシュー	P.16、197
7	⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチ	P.43
8	Fn（ファンクション）ボタン	P.65
9	ストラップ取り付け部	P.13
10	マイク	－
11	AF窓	－
12	リングキャップ取外しボタン	P.15
13	レンズ	P.35
14	AF補助光	P.49、148
15	リングキャップ	P.15
16	フラッシュ発光部	P.43

背面

	名称	参照先
1	液晶モニター	P.22
2	オートフォーカス／フラッシュランプ	P.37、41
3	AV出力端子	P.122
4	USB端子	P.125、174
5	VF/LCDボタン	P.58
6	ADJ.レバー	P.62
7	[♠]（望遠）／🔍（拡大表示）ボタン	P.41、52
8	[♠]（広角）／▦（サムネイル表示）ボタン	P.41、52
9	▲／MODEボタン	P.45
10	▶／⚡（フラッシュ）ボタン	P.43
11	MENU/OKボタン	P.76、109、132
12	I▢I（DISP.）ボタン	P.58
13	▼／🌷（マクロ）ボタン	P.42
14	◀／⟲（クイックレビュー）ボタン	P.50
15	▶（再生）ボタン	P.51
16	🗑（削除）／⏲（セルフタイマー）ボタン	P.55、49
17	端子カバー	P.122、125
18	スピーカー	P.108
19	解除レバー	P.30、195
20	バッテリー／カードカバー	P.30、195
21	三脚ネジ穴	P.191

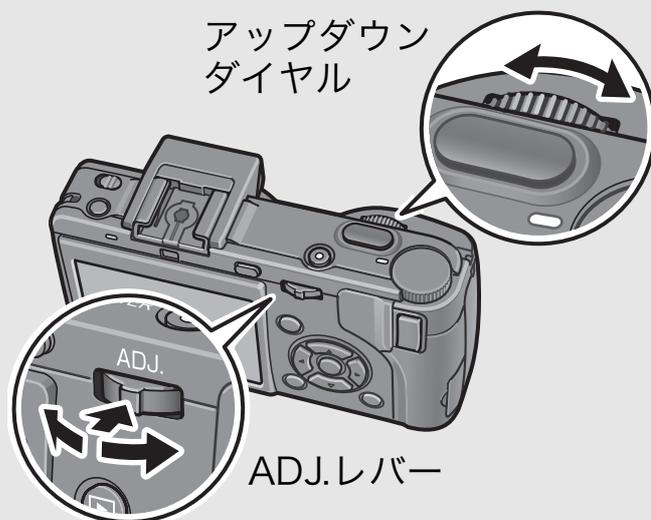
モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き
(カメラマーク)	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。
P	プログラムシフトモード	絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できます。
A	絞り優先モード	絞り値を手動で設定でき、その絞り値に合わせて自動的にシャッタースピードが設定されます。
M	マニュアル露光モード	絞り値とシャッタースピードを手動で設定できます。
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。
(動画マーク)	動画モード	音声付き動画を撮影します。
MY1、MY2	マイセッティングモード	［マイセッティング登録］で設定した内容で撮影します。

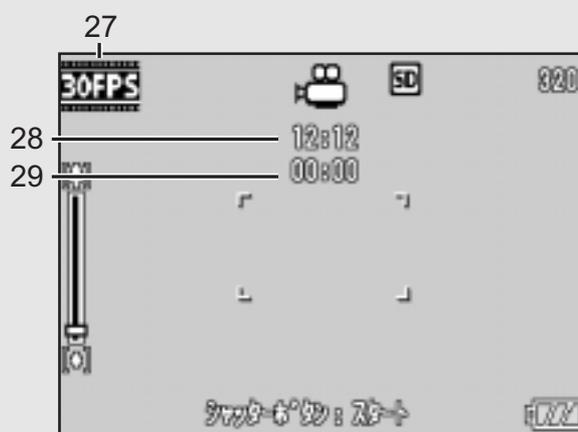
アップダウンダイヤル／ADJ.レバーの使い方

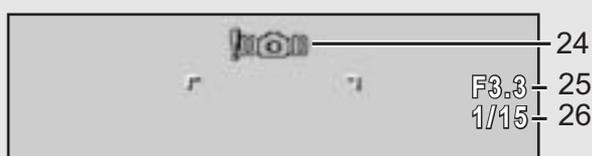
アップダウンダイヤル、ADJ.レバーを使うと、▲▼◀▶ボタンで行うさまざまな操作を簡単に行うことができます。
アップダウンダイヤルは図のように回して操作します。
ADJ.レバーは中央を押したり、左右に押して操作します。

アップダウンダイヤル／ADJ.レバーでできる操作は、次のとおりです。

モード／画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
ADJ.モードに移行	ー	中央を押す：ADJ.モードに移行	P.62
ADJ.モード	▲▼ボタンと同じ	左右に押す：◀▶ボタンと同じ 中央を押す：MENU/OKボタンと同じ（確定）	P.62
絞り優先モード（A）	絞り値（F値）の変更	ー	P.68
マニュアル露光モード（M）	絞り値（F値）の変更	シャッタースピードの変更	P.69
プログラムシフトモード（P）	絞り値（F値）とシャッタースピードの組み合わせの変更	ー	P.71
撮影／再生／セットアップメニュー	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.74、109、131
シーンモード（シーンモード選択画面）	▲▼ボタンと同じ	ー	P.45

モード／画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
再生モード（通常再生画面）	◀▶ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.51
再生モード（3コマ表示画面）	◀▶ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.52
再生モード（一覧表示画面）	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.52
再生モード（拡大再生画面）	表示倍率の変更	前の画像／次の画像を表示 ※拡大再生画面で、前の画像／次の画像を表示すると、通常表示（100%）になります。	P.54

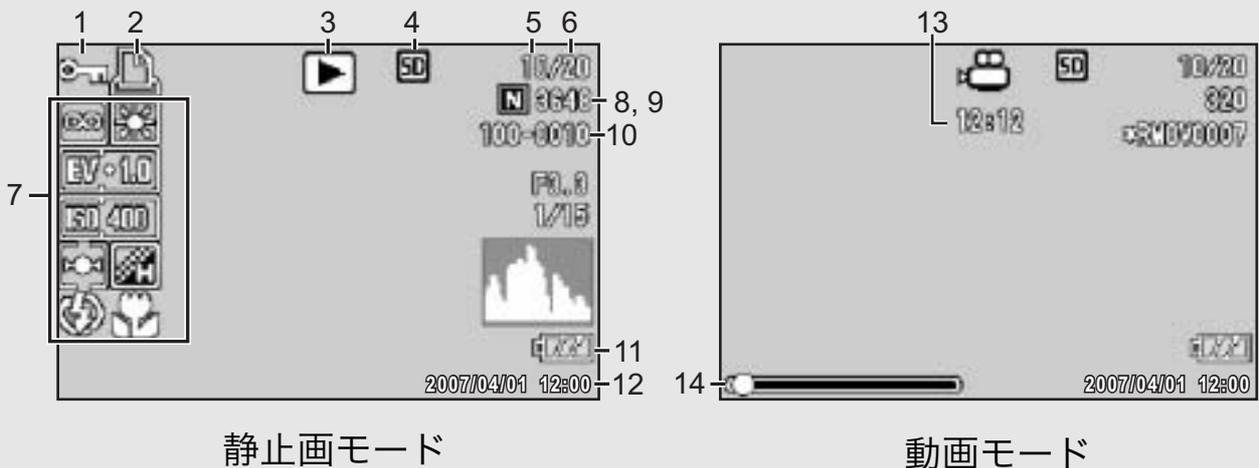
液晶モニターの表示

撮影するときの画面

静止画モード

動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュ	P.43	16	ISO感度	P.101
2	マクロ撮影	P.42	17	日付入れ撮影	P.96
3	セルフタイマー	P.49	18	フォーカス	P.80
4	シーンモード	P.45	19	AEロック	P.67
5	モードの種類	P.19、45	20	インターバル撮影	P.93
6	記録先	P.27	21	ヒストグラム表示	P.60
7	残り記録枚数	P.193	22	手ブレ補正	P.103
8	画質	P.77	23	電池マーク	P.24
9	画像サイズ	P.77	24	手ブレ注意マーク	P.36
10	ズームバー	P.41	25	絞り値	P.191
11	ホワイトバランス	P.98	26	シャッタースピード	P.69、71
12	測光方式	P.83	27	フレームレート	P.106
13	オートブラケット	P.90	28	残り記録時間	P.193
14	画像設定	P.88	29	記録時間	P.193
15	露出補正	P.97			

メモ

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード　　　　動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	プロテクト	P.111	8	画質	P.77
2	DPOF	P.114	9	画像サイズ	P.77
3	モードの種類	−	10	ファイル番号	−
4	再生元	P.51	11	電池マーク	P.24
5	再生ファイル数	−	12	撮影した日付	P.96、158
6	総ファイル数	−	13	記録時間または経過時間	−
7	撮影時（記録時）の設定	−	14	インジケーター	−

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

液晶モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ十分あります。
緑色	電池の容量が減りはじめました。充電または新しい電池に交換することをお勧めします。
オレンジ	電池の残量がわずかになりました。充電または新しい電池に交換してください。

注意

- 単四形ニッケル水素電池、単四形オキシライド乾電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては表示が出なかったり、表示や表示がすぐに出ることがあります。あらかじめ、お手持ちの電池でご確認の上、ご使用ください。
- AC アダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

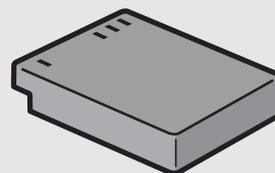
準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ

- すでにお使いのお客様は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.32をご覧ください。

電池について

リチャージャブルバッテリーDB-60（付属）
リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。持続時間が長いので、旅行のときなどに便利です。

メモ

以下の電池も使用できます。

- **単四形アルカリ乾電池（市販）**
  どこでも入手しやすいので、旅行のときなどに便利です。
  ただし、寒冷地などの低温環境では、撮影可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。
- **単四形オキシライド乾電池（市販）**
  充電式ではありませんが、デジタルカメラで使用した場合、単四形アルカリ乾電池に比べて持続時間が長く、便利です。
- **単四形ニッケル水素電池（市販）**
  充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電には市販の充電器をご使用ください。

撮影可能枚数

- 撮影可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチャージャブルバッテリー（DB-60）	約340枚*1
単四形アルカリ乾電池（市販）	約30枚*2

*1 液晶ビューファインダーを使用した場合は約290枚になります。
*2 液晶ビューファインダーを使用した場合は約25枚になります。

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。
（温度23℃、液晶モニターオン、30秒ごとに望遠端と広角端で交互に撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ／オンを繰り返し）
- 単四形アルカリ乾電池の撮影可能枚数は、松下電池工業株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用したときの枚数です。
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。

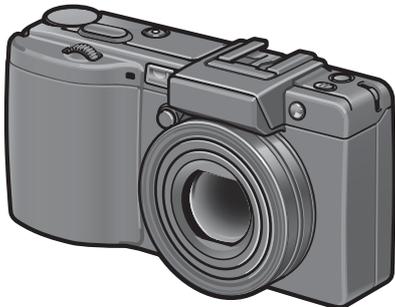
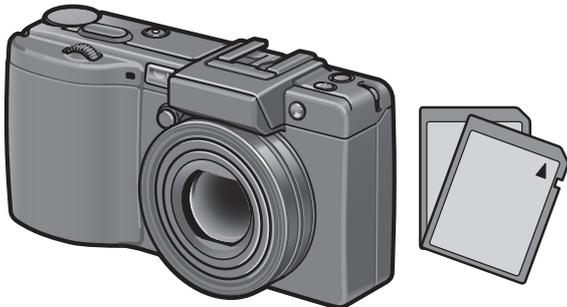
注意

- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があり、そのときには電池本来の性能が発揮されません。このような場合には2～3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないでいるときも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用の前には再度充電を行ってください。
- 単四形アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-60）をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

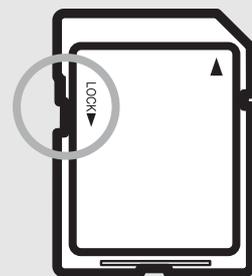
記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、26MBです。
静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

記録先について

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

注意

- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す)、削除も初期化もできるようになります。
大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。
なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

メモ

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.51をご覧ください。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。（☞P.193）
- 新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。（☞P.134）
- 本カメラ以外で使用したSDメモリーカードを使用する場合は、必要なデータを保存の上、初期化してからお使いください。（☞P.134）
- SDHCメモリーカード（4GB）も使用できます。

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは充電されていません。

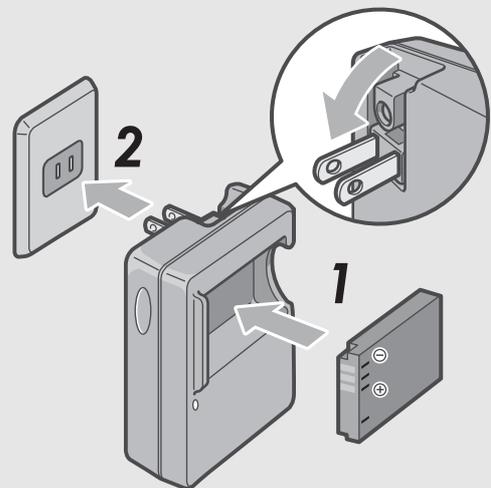
1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

注意 --

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

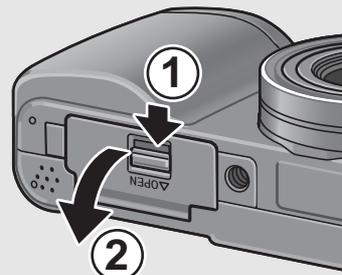
- 充電には専用バッテリーチャージャー(BJ-6)をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常(バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください。)

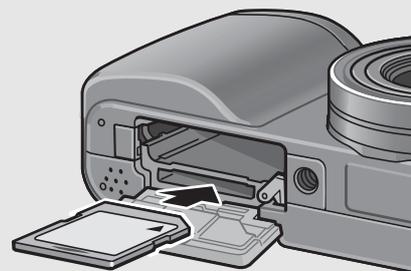
- バッテリーの残量により充電時間は異なります。

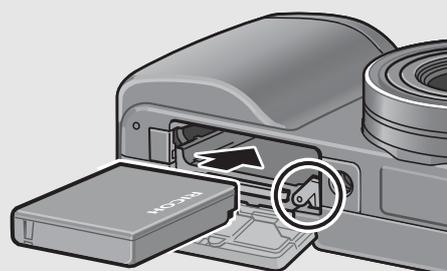
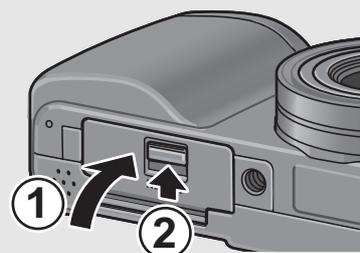
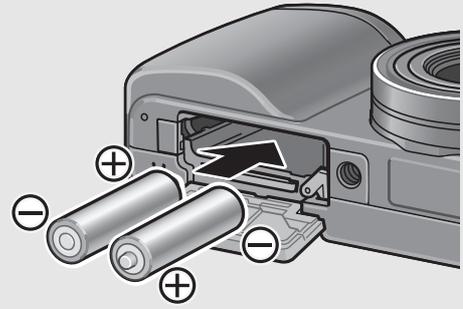
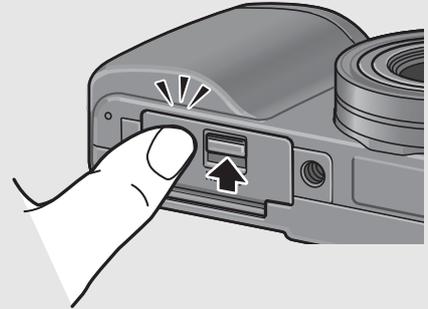
リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-60	約2時間（25°C）

バッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリー（DB-60）は、本カメラで使用できる充電池です。持続時間が長く、充電により繰り返し使用でき便利です。すでにお使いのお客様は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

2 SD メモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- バッテリー側面でロックツメを挿入部の外側に押しながら奥まで入れます。
- セットすると、ロックツメでロックされます。

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

単四形アルカリ乾電池（市販）の場合
電池の向きに気をつけて、図のように挿入します。

指で電池の入った箇所をふたの上から押さえながら解除レバーをスライドしてバッテリー／カードカバーを閉じてください。

SDメモリーカードを取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

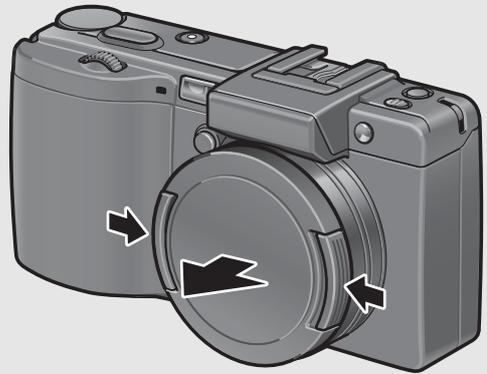
乾電池を取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けて、乾電池を取り出します。このとき、乾電池が落下しないよう十分に注意してください。

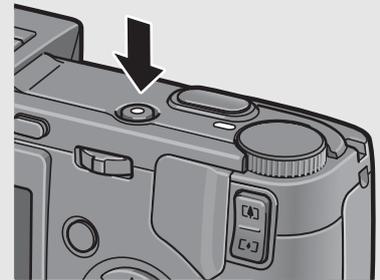
注意

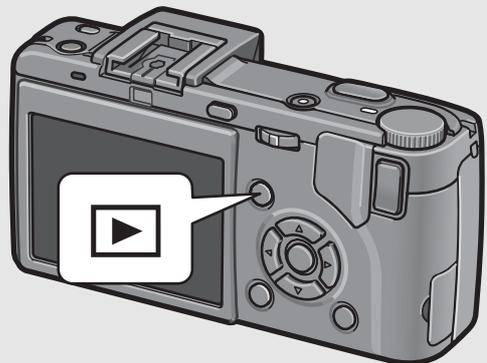
- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

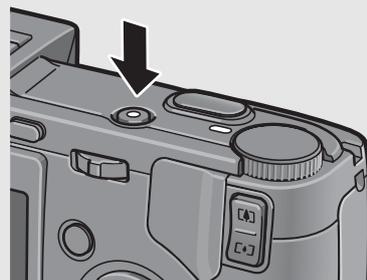
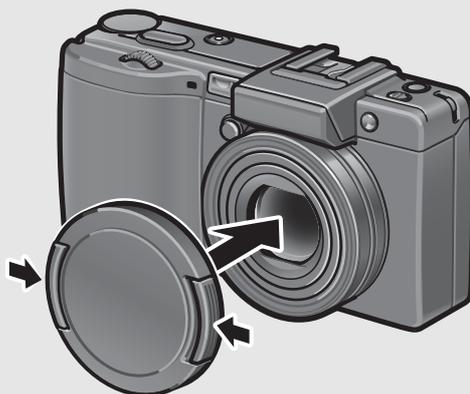
電源をオン／オフする

電源をオンにする

1 レンズキャップの両側のつまみを押しながら、レンズキャップを外す

2 POWER（電源）ボタンを押す

- 起動音が鳴り、オートフォーカス／フラッシュランプが数秒間点滅します。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けると、再生モードの状態で電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- ▶（再生）ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度▶（再生）ボタンを押すと、記録モードになります。

電源をオフにする

1 POWER（電源）ボタンを押す

2 レンズキャップの両側のつまみを押しながら、レンズキャップをはめる

注意 --

- 電源をオンにする前にレンズキャップを外してください。レンズキャップを外す前に電源をオンにすると、メッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。
- フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

オートパワーオフについて --

- 設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.141）

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。

出荷時の設定

2 [書式] で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されます。
- この画面でDISP.ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。

メモ--

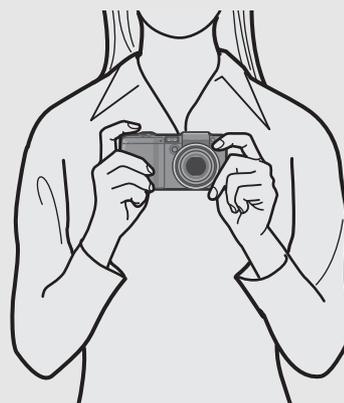
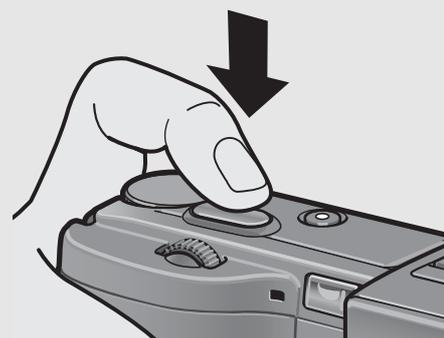
- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(☞P.158)
- 日時を入れて撮影することができます。(☞P.96)

撮影する

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

2 シャッターボタンに指を当てる

注意

指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

手ブレを防ぐには

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に撮れません（手ブレ）。
次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る
- 露光時間を長くして撮る（☞P.69）

液晶モニターに マークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

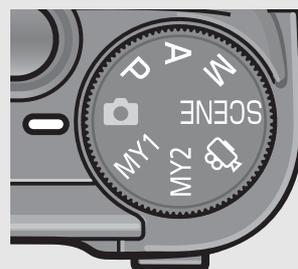
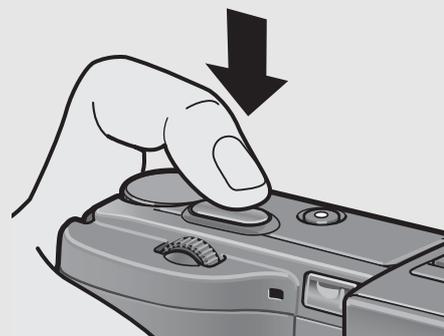
- 手ブレ補正機能を使う（☞P.103）
- フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.43）
- ISO感度を上げる（☞P.101）
- セルフタイマーを使う（☞P.49）

撮る

シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。一気にシャッターボタンを押しきる操作を「一気押し」、半分まで押す操作を「半押し」といいます。

シャッターチャンスを逃さず撮る（一気押し）

高速でピント調整が行われ、撮りたい瞬間を逃さず撮影できます。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷に合わせる

2 液晶モニターを見ながら構図を決め、被写体を中央に合わせてシャッターボタンを静かに押しきる（一気押し）

- 撮影した画像が液晶モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

注意

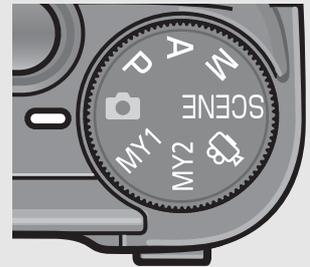
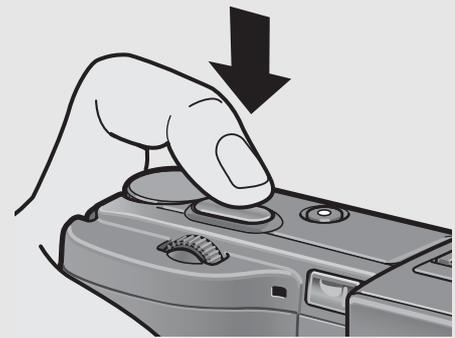
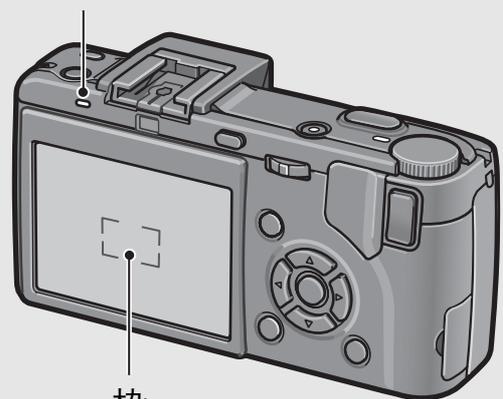
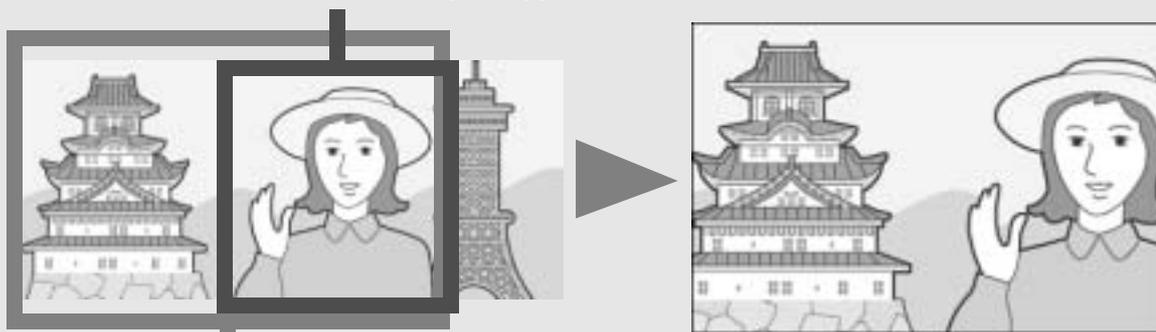
一気押しで撮影すると手ブレを起こしやすくなります。カメラを両手でしっかりと持って撮影してください。なお、手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。（☞P.103）

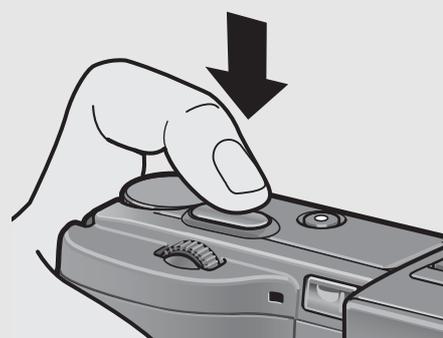
メモ

撮影後、液晶モニターに画像が表示される時間を設定することができます。表示しないこともできます。（☞P.144）

ピント合わせを確認して撮る（半押し／フォーカスロック）

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷に合わせる

2 液晶モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出、ホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、液晶モニター中央部の枠が赤く点滅し、オートフォーカス／フラッシュランプが緑色に点滅します。
- 最大5点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が液晶モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

ピント合わせについて ---

- ピント合わせの状態は、液晶モニター中央の枠の色とオートフォーカス／フラッシュランプで確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス／フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合ったとき	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤点滅	緑点滅

- 次のような被写体は、ピントを合わせられないことがあります。
  - コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
  - 横線だけで、凹凸のないもの
  - 動きの速いもの
  - 暗いところのもの
  - 強い逆光および反射光があるもの
  - 蛍光灯などのちらつきのあるもの

  このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定してから撮影してください。

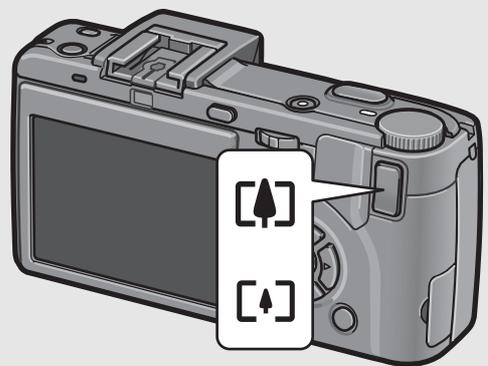
メモ

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレを起きにくくすることができます。（☞P.103）
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。

ズームを使って撮る

[♠](望遠)ボタンを押すと、被写体を大きく写すことができます。
[♠](広角)ボタンを押すと、広い範囲を写すことができます。

1 撮影できる状態で、[♠](望遠)ボタンや[♠](広角)ボタンを押す

- 液晶モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押しきる

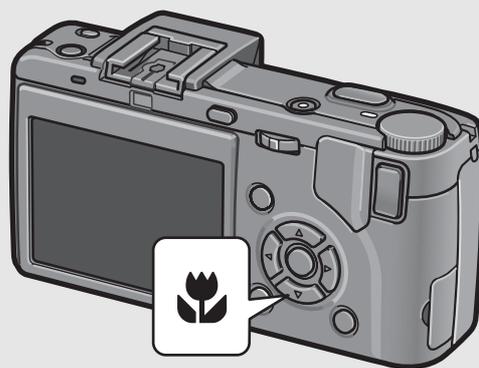
デジタルズームを使う

デジタルズームを行うと、[♠](望遠)ボタンを押して設定した拡大倍率(最大3.0倍)より、さらに被写体を拡大できます(最大4.0倍まで)。
デジタルズームを使うには、ズームバー表示が[♠](望遠)側の端まできたらいったん[♠](望遠)ボタンから指を離し、再び[♠](望遠)ボタンを押し続けます。
[デジタルズーム切替]で[オートリサイズ]を選択することもできます。(☞P.150)
[画質・サイズ]がRAWモードのとき、デジタルズームは使用できません。(☞P.77)

接写で撮る（マクロ撮影）

（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。
最短約1cm（レンズ先端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 撮影できる状態で、（マクロ）ボタンを押す

- 液晶モニター中央に一瞬 が大きく表示され消えた後、上部に が表示されます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- マクロモードを解除するには、もう一度（マクロ）ボタンを押します。

メモ

- ズームを使用しているときには、次の距離までのマクロ撮影ができます。

	距離	撮影範囲
広角時	約1cm （レンズ先端より）	約29×22mm
望遠時	約4cm （レンズ先端より）	約25×19mm （デジタルズーム未使用時）
		約6.3×4.8mm （デジタルズーム4.0倍時）

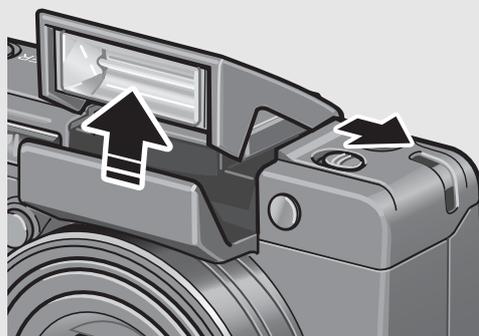
- マクロ撮影では、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができるAFターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。（☞P.64）
- マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの［ズームマクロ］を使います。（☞P.45）

フラッシュを使って撮る

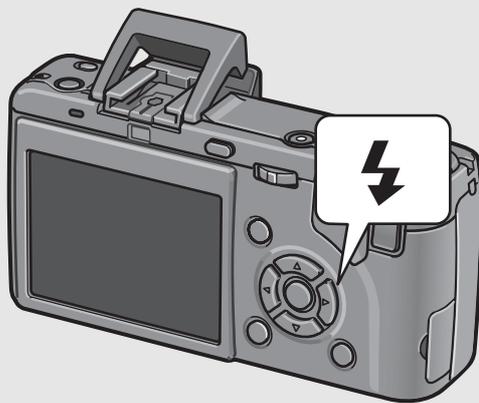
フラッシュを使うときは、⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを外側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げます（ポップアップ）。ポップアップしないと、フラッシュは発光しません。ポップアップした状態で、⚡（フラッシュ）ボタンを使うと、フラッシュモードを切り替えることができます。ポップアップ時の初期設定は、［AUTO］です。
フラッシュの光が届く距離（レンズ先端より）は、ISO感度の設定が［AUTO］の状態で、約0.2～5.0m（広角）、約0.15～3.0m（望遠）です。

フラッシュモードの種類

(発光禁止アイコン)	発光禁止	フラッシュを発光しません。
⚡AUTO	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
(赤目軽減アイコン)	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
⚡	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
⚡SLOW	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。
⚡SOFT	ソフト発光	フラッシュの発光量を抑えます。マクロ撮影等の近距離撮影に適しています。

1 ⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを外側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げる

2 モードダイヤルを📷に合わせる

はじめてお使いのときは必ずお読みください

3 ⚡（フラッシュ）ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える

- 液晶モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、オートフォーカス／フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

メモ

- フラッシュを使用しない場合は、フラッシュカバー中央部を指で押して戻します。
- ⚡（フラッシュ）ボタンを押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写では、発光禁止になります。
- 単四形アルカリ乾電池、オキシライド乾電池、ニッケル水素電池をお使いの場合、フラッシュ充電中は液晶モニターがオフになります。
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- 外部フラッシュをご使用の場合は（☞P.197）、カメラの内蔵フラッシュを使用することはできません。

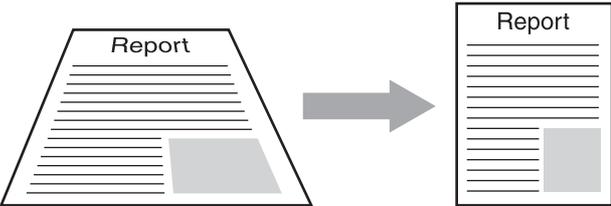
注意

- ワイドコンバージョンレンズまたはフードをご使用の場合、カメラの内蔵フラッシュは使用できません。
- 液晶ビューファインダーを傾けているときは、内蔵フラッシュは使用できません。液晶ビューファインダー装着時に内蔵フラッシュを使用する場合は、液晶ビューファインダーの角度を元に戻してください。

撮影シーンに合わせて撮る

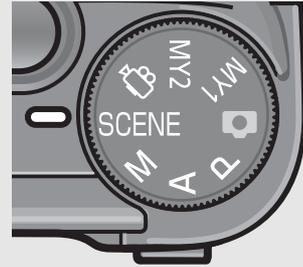
シーンモードを使うと、8種類の静止画モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類

モード	説明
ポートレート	人物を撮るときに使います。
スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
夜景	夜景を撮るときに使います。 人物を入れた撮影もできます。 夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。（フラッシュポップアップ時） • フラッシュ設定が［AUTO］のとき • 周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき • 近い距離に人物などの被写体があるとき
斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。詳しい操作手順はP.47で説明しています。 Report → Report 斜め補正モードでは、［画質・サイズ］は、［N1280］、［N640］から選択できます。（☞P.77）
文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。（☞P.63） 画像サイズは、3648×2736、2048×1536から選択できます。（☞P.77）
ズームマクロ	通常のマクロ撮影よりも、被写体をより大きく撮影したい場合に使います。デジタルズームを使うことによって通常のマクロ撮影よりも、被写体をより大きく撮影できます。 詳しい操作手順はP.48で説明しています。 光学ズームは使用できません。

 高感度	薄暗い場所で撮るときに使います。液晶モニターも見やすくなります。

 メモ--

シーンモード時の撮影設定メニュー項目や、機能の制限については、付録を参照してください。（☞P.201）

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

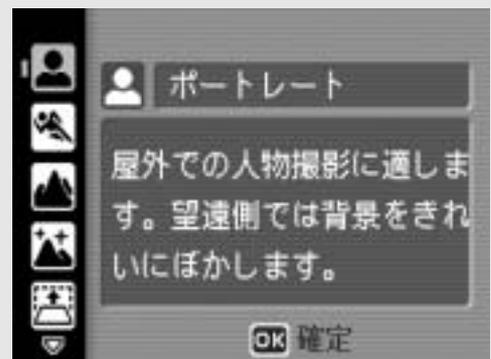
2 シーンモードを変更したい場合は、MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ ボタンを押して、シーンモードを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 液晶モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

通常の撮影モードに戻るには

1 モードダイヤルを📷に合わせる

斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、[斜め補正]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

[斜め補正]に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体がなるべく大きくなるように、被写体の全体が液晶モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンぼけの画像
  - 被写体の4辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。
- [斜め補正]では、セットアップメニューの[デジタルズーム切替]を[オートリサイズ]に設定していても、デジタルズームが有効になります。

メモ

- 撮影済みの静止画を後から斜め補正することもできます。（☞P.120）
- RAW モード（☞P.77）で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルが斜め補正されます。DNGファイルは斜め補正されません。

ズームマクロで撮影するには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が液晶モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、［ズームマクロ］を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 [ ]（望遠）ボタンや[ ]（広角）ボタンを押す

- 液晶モニターに倍率が表示されます。

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押しきる

注意

- ズームを使用しているときには、次の距離までのマクロ撮影ができます。

約1cm	撮影範囲：約17×13mm（デジタルズーム未使用時）
	撮影範囲：約4.2×3.2mm（デジタルズーム4.0倍時）

- ［デジタルズーム切替］を［オートリサイズ］に設定していると、オートリサイズズームが有効になります。（☞P.150）

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。
手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

1 モードダイヤルをに合わせる

2 （セルフタイマー）ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある［10］は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- （セルフタイマー）ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→･･･と切り替わります。

3 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され､セルフタイマーがスタートするとAF補助光が発光します。

メモ

- 撮影した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、（セルフタイマー）ボタンを押して、［セルフ オフ］に切り替えます。
- 2秒の場合は、AF補助光は発光しません。

再生する

撮った静止画をすぐ確認する（クイックレビュー）

撮った静止画は、液晶モニターを使ってすぐに見ることができます。うまく撮れていなかったときは、その場で削除できます。

1 撮影モードのまま、[クイックレビューアイコン]（クイックレビュー）ボタンを押す

- 液晶モニターに最後に撮った静止画が表示されます。

クイックレビュー時の動作	
[クイックレビューアイコン]ボタン	撮影モードに戻ります。
[拡大アイコン]ボタン	静止画を拡大表示します。 拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
[サムネイルアイコン]ボタン	[拡大アイコン]ボタンで拡大した静止画を縮小表示します。
MENU/OKボタン	[拡大アイコン]ボタンで拡大した静止画を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、全体表示に戻します。
[削除アイコン]ボタン	表示中のファイルを削除することができます。[削除アイコン]ボタンを押すと削除を確認する画面が表示されますので、[削除］を選びMENU/OKボタンを押してください。
DISP.ボタン	ハイライト表示画面に切り替わります。もう一度DISP.ボタンを押すと、クイックレビュー画面に戻ります。

メモ--

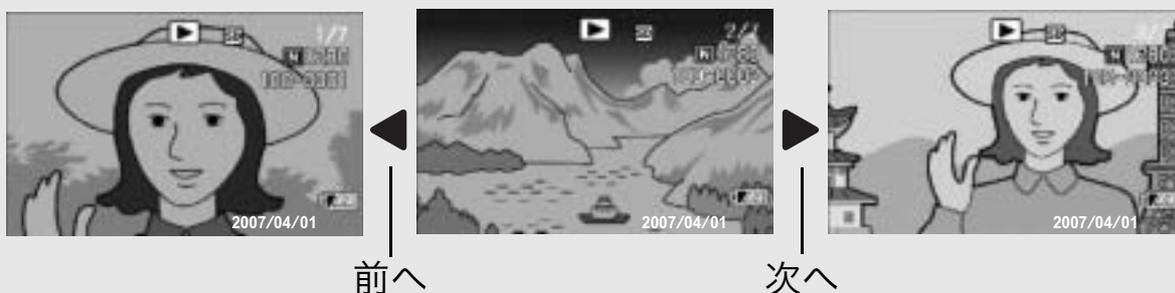
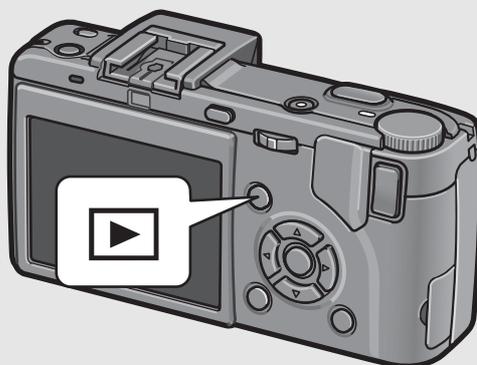
- いったん電源をオフにすると、撮影モードで[クイックレビューアイコン]（クイックレビュー）ボタンを押しても、撮影した静止画は表示されません。
- シーンモードの［文字］（☞P.45）で撮影した静止画をクイックレビューで表示すると、実際に記録された静止画より若干画質が低い状態で表示されることがあります。

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮った静止画が表示されます。
- ◀▶ボタンで、順番に静止画を見ることができます。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度▶（再生）ボタンを押します。

前へ　次へ

注意

[画質・サイズ] をRAWモードに設定して撮影した場合（☞P.77）、DNGファイルと関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されます。JPEGファイルをパソコン等で削除してしまった場合、カメラではDNGファイルのサムネイルは表示されますが、サムネイルを拡大することはできません。

メモ

- [画質・サイズ]をRAWモードに設定して撮影した画像(RAW3648/RAW3:2) を再生すると、同時記録されたJPEGファイルが表示されます。画面には、RAWモードを示すマークが表示されます。
- 液晶ビューファインダー装着時に▶（再生）ボタンを押すと、撮影した静止画がカメラの液晶モニターに表示されます。もう一度▶（再生）ボタンを押すと、液晶ビューファインダーに切り替わります。

再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態で▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けると、電源がオンになり、再生モードの状態で起動します。
▶（再生）ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度▶（再生）ボタンを押すと、撮影モードになります。

再生元について

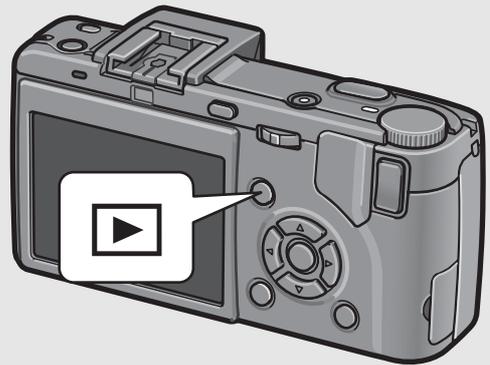
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから再生されます。

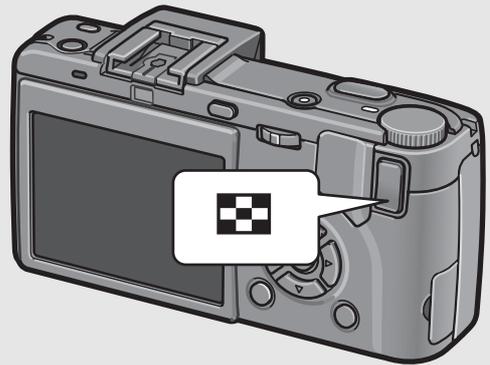
3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）

再生画面は3コマ表示または一覧表示（12枚ずつ）にすることができます。3コマ表示／一覧表示では、静止画を選択して、その静止画を1枚表示にしたり、削除することができます。

再生画面は次のように切り替わります。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ⊞（サムネイル表示）ボタンを押す

- 3コマ表示に変わります。中央の大きなコマが現在選択されている静止画です。

3 3コマ表示時に再度▣（サムネイル表示）ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

1枚表示するには

● 3コマ表示の場合

1 ◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 🔍（拡大表示）ボタンを押す、またはMENU/OKボタンを押す

● 一覧表示の場合

1 ▲▼◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 🔍（拡大表示）ボタンを2回押す

メモ---

3コマ表示で次の操作を行うと、通常の再生画面（1枚表示）に戻って操作を実行します。

- 削除する（☞P.55）
- メニューを表示する（☞P.109）
- 動画を再生する（☞P.108）

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

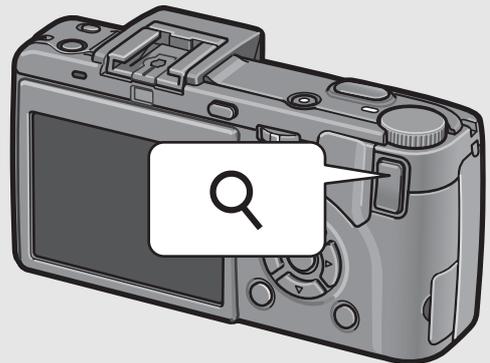
画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536	16倍
1280×960	6.7倍
640×480	3.4倍

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ◀▶ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3 🔍（拡大表示）ボタンを押す

- 静止画が拡大されます。

画像拡大時の動作	
🔍ボタン	静止画を拡大表示します。 拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
⊞ボタン	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
MENU/OKボタン	拡大表示中にMENU/OKボタンを押すと、静止画を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、元の大きさに戻します。

メモ

- クイックレビュー時にも拡大表示できます。
- 動画は拡大表示することができません。

削除する

不要なファイルや失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除することができます。

1ファイルを削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

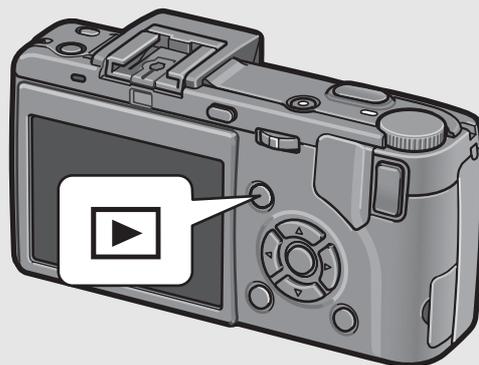
2 ◀▶ ボタンを使って削除したいファイルを表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す

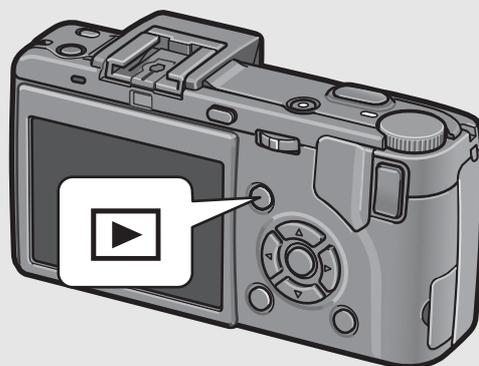
4 ▲▼ボタンを押して、[1ファイル削除] を選ぶ

- ◀▶ ボタンを使って削除するファイルを変更できます。

5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。

すべてのファイルを削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 🗑（削除）ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[全削除]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されるので、▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押します。

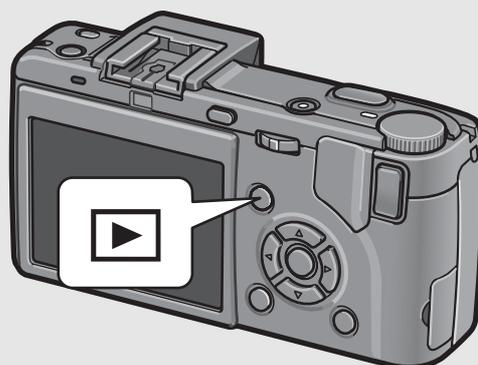
メモ

3コマ表示の状態（☞P.52）で、🗑（削除）ボタンを押しても、ファイルを削除できます。

複数のファイルを一度に削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ⊞（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したいファイルを選び、🗑（削除）ボタンを押す

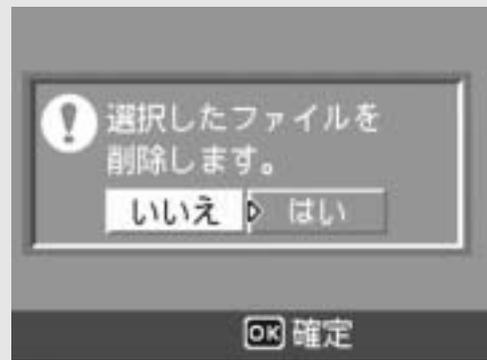
- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

4 手順3を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して🗑（削除）ボタンを再度押すと解除できます。

5 MENU/OKボタンを押す

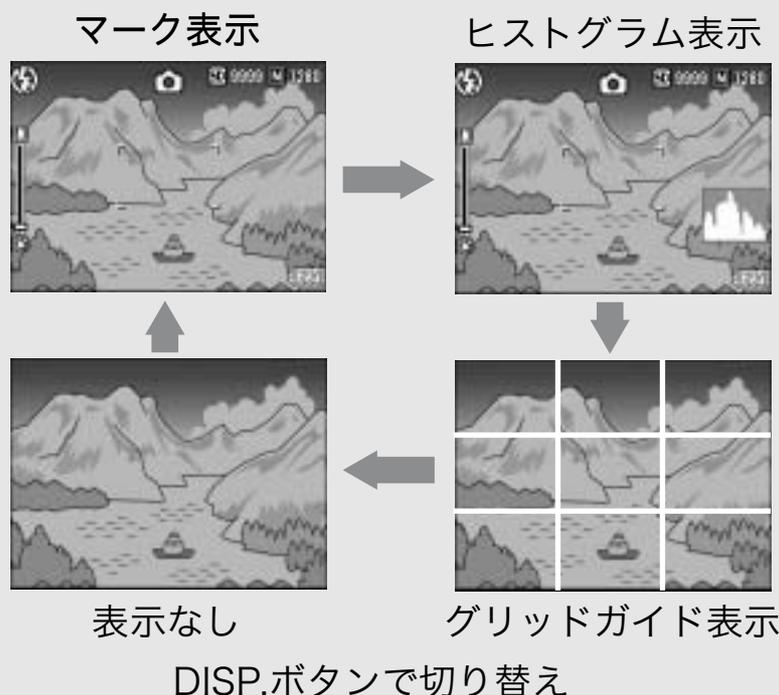
◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

● 撮影モード時

DISP.ボタンは1回押すごとに、ヒストグラム表示→グリッドガイド表示→表示なし→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。

DISP.ボタンで切り替え

グリッドガイド表示

液晶モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

液晶モニターをオン／オフするには

液晶モニターが点灯しているときにVF/LCDボタンを押すと、液晶モニターがオフになります。液晶モニターがオフのときは、カメラ操作の一部ができません。もう一度VF/LCDボタンを押すと、液晶モニターがオンになります。

また、液晶ビューファインダー装着時にVF/LCDボタンを押すと、液晶ビューファインダーと液晶モニターが切り替わります。

メモ

［撮影アイコン拡大］をオンにした場合（☞P.153）、マーク表示では次のものが表示されません。

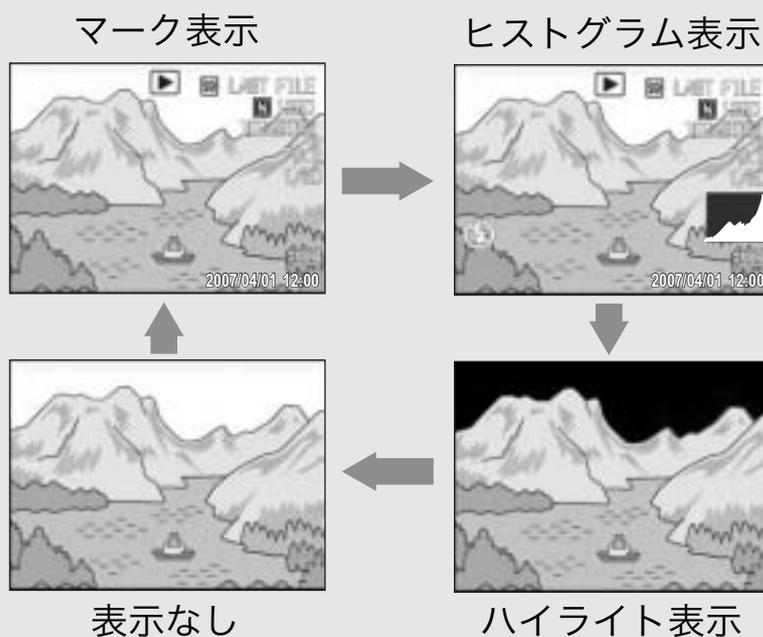
ズームバー／フォーカスバー、日付入れ撮影、シャープネス、色の濃さ

● クイックレビュー時

DISP.ボタンを押すと、ハイライト表示画面に切り替わります。ハイライト表示画面では、ハイライト部分が黒く点滅します。もう一度DISP.ボタンを押すと、クイックレビュー画面に戻ります。

DISP.ボタンで切り替え

● 再生モード時

DISP.ボタンを1回押すごとに、ヒストグラム表示→ハイライト表示→表示なし→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。

DISP.ボタンで切り替え

ハイライト表示 ---

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。直射日光を避ける、露出を－側に補正する（☞P.97）などして、撮り直すことをお勧めします。

メモ ---

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

画面の輝度を最大にする

DISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。
輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、LCD輝度調節（☞P.136）で設定した明るさに戻ります。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、液晶モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。
ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる液晶モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白飛びや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もないとすると、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

左側だけにグラフの山があると、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。

メモ

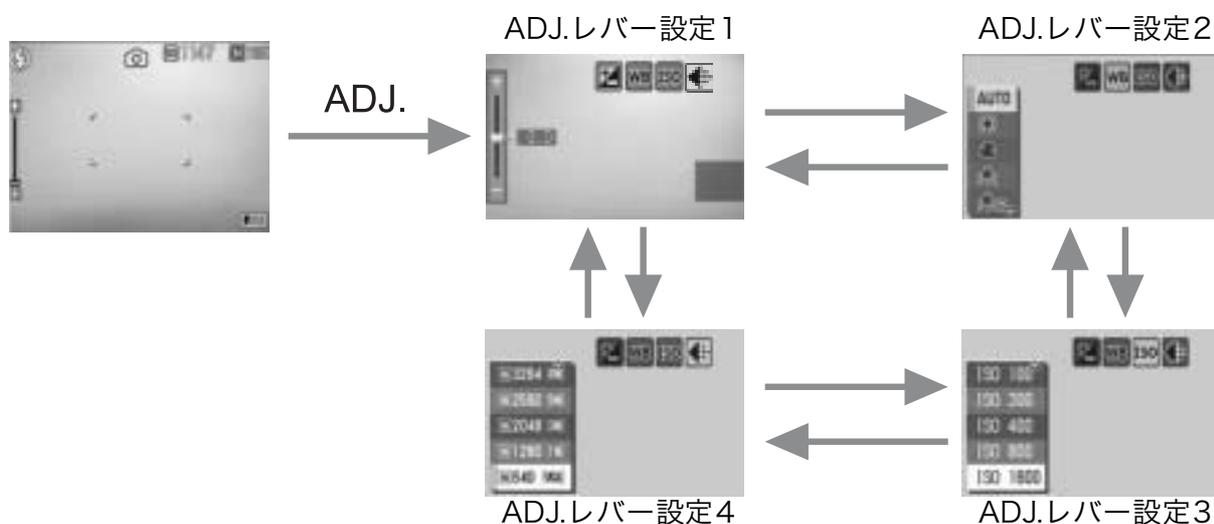
- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.97を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

ADJ.レバーの使い方

ADJ.モードについて

ADJ.レバーを押してADJ.モードに入ると、簡単な操作で、撮影に関するいろいろな設定ができます。ADJ.モードでは、4種類の機能を登録することができます。機能を登録する操作は、セットアップメニューで行います（☞P.145）。使用頻度の高い機能を登録しておくと、簡単な操作で設定ができて便利です。

上記の画面は、［ADJ.レバー設定1］～［ADJ.レバー設定4］に［露出補正］、［ホワイトバランス］、［ISO］、［画質］の機能を登録した場合の画面例です。ADJ.レバーを左右に押して、設定したい機能の画面を表示します。▲▼ボタンで値を選択し、MENU/OKボタンまたはADJ.レバーを押して確定します。

モード別設定可能な機能について

シーンモード、動画モード時は、ADJ.レバーで設定できる機能が静止画モード時と異なります。ADJ.レバーで設定できる項目は、以下のとおりです。

モード	設定できる項目
静止画モード	［ADJ.レバー設定］で登録した機能
動画モード	ホワイトバランス
シーンモード［文字］	文字濃度
シーンモード［文字］以外	露出補正、ホワイトバランス

［ADJ.レバー設定］で登録できる機能

露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光方式、連写、オートブラケット、音声付

文字濃度を変える（シーンモード）

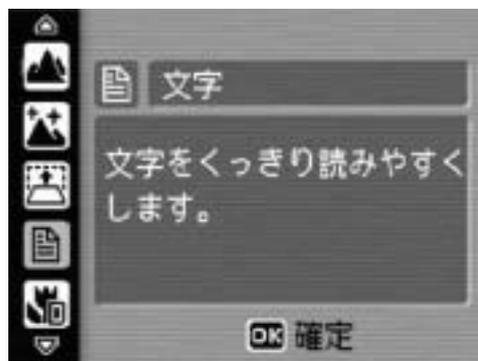
シーンモードの［文字］で撮影する（☞P.45）場合の、文字の濃淡を変更することができます。
濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.76）、「シーンモードの撮影設定メニュー」（☞P.202）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ ボタンを押して、［文字］を選び、MENU/OKボタンを押す

4 ADJ.レバーを押す

- 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 MENU/OKボタンを押す

- 文字濃度の設定値は画面上には表示されません。

AFターゲットを移動する（マクロ）

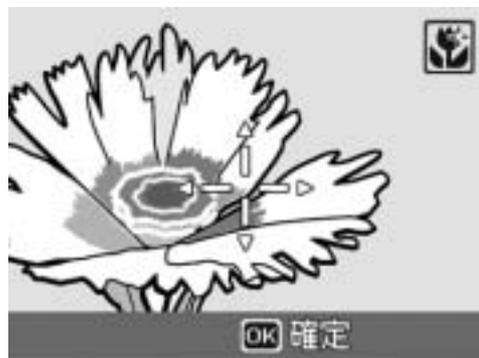
マクロ撮影時にADJ.レバーを押すと、カメラを動かすことなく、カメラの▲▼◀▶ボタンでAFターゲットを移動することができます。AFターゲットを移動した位置でフォーカスロック（☞P.38）を行い、撮影ができます。三脚を使った撮影時に便利です。

◀ボタンでAFターゲットを移動した場合

1 撮影できる状態で、🌷（マクロ）ボタンを押す

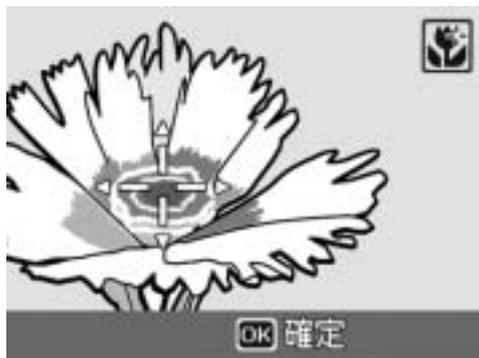
- 画面にマクロモードのマークが表示されます。

2 ADJ.レバーを押す

3 AF ターゲット移動画面（画面中央の十字）が表示されるまで、ADJ.レバーを左右に押す

4 ▲▼◀▶ ボタンでピントを合わせたい被写体に十字を移動する

5 MENU/OKボタンを押す

6 シャッターボタンを半押しする

- 十字の位置にピント合わせが行われます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

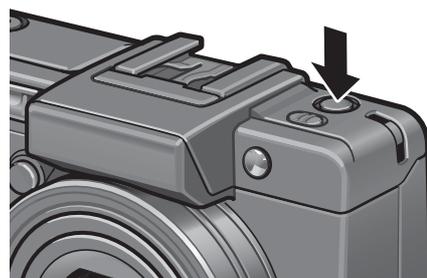
- 以降、マクロモードを解除するまで、AF ターゲット移動機能で設定した位置にピント合わせが行われます。

ファンクションボタンの使い方

Fn（ファンクション）ボタンに、以下の機能から1種類登録して設定することができます。機能を登録する操作は、セットアップメニューで行います（☞P.147）。

- オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える（AF/MF）
- 露出を固定する（AEロック）
- 撮影設定メニューの機能（☞P.62）

1 Fn（ファンクション）ボタンを押す

- ［AF/MF］を登録している場合は、P.66を参照してください。
- ［AEロック］を登録している場合は、P.67を参照してください。
- ［AF/MF］、［AEロック］以外を登録している場合は、ADJ.レバーを押したときと同じ画面が表示されます。操作方法は、P.62を参照してください。

モード別設定可能な機能について

シーンモード、動画モード時は、Fn（ファンクション）ボタンで設定できる機能が静止画モード時と異なります。Fn（ファンクション）ボタンで登録できる項目は、以下のとおりです。

	静止画	動画	シーンモード（文字）	シーンモード（遠景）	シーンモード（斜め補正）	シーンモード（ズームマクロ）	左記以外のシーンモード
AF/MF	○	○				○	
AEロック	○		○	○	○	○	○
露出補正	○			○	○	○	○
ホワイトバランス	○	○		○	○	○	○
ISO感度	○				○	○	
画質・サイズ	○	○	○	○	○	○	○
フォーカス	○	○			○	○	○
画像設定	○				○	○	
測光方式	○				○	○	
連写	○					○	
オートブラケット	○					○	
音声付	○		○	○	○	○	○

＊ Fn（ファンクション）ボタンに［AEロック］を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fn（ファンクション）ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える（AF/MF）

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/MF］を登録する（☞P.147）と、撮影時にFn（ファンクション）ボタンを押して、オートフォーカス（AF）とマニュアルフォーカス（MF）を切り替えることができます。Fn（ファンクション）ボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fn（ファンクション）ボタンを押す
マルチAF	MF→マルチAF→MF・・・
スポットAF	MF→スポットAF→MF・・・
MF	（マルチAF／スポットAF）＊→MF→（マルチAF／スポットAF）＊・・・

＊ 最後に設定したAFモード（マルチAF／スポットAF）に切り替わります。

1 撮影できる状態で、Fn（ファンクション）ボタンを押す

- ［MF］に切り替わると、画面右上に［MF］マークが表示されます。
- ［マルチAF］または［スポットAF］に切り替わると、［MF］マークが消えます。

注意

［フォーカス］の設定が［スナップ］または［∞］の場合、Fn（ファンクション）ボタンを押してもAF/MFを切り替えることはできません。

メモ

- マニュアルフォーカスの操作方法は、P.81を参照してください。
- ［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.80）
- Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録するには、セットアップメニューを使います。（☞P.147）
- Fn（ファンクション）ボタンを押してAF/MFを切り換え、フォーカスロックした位置でピントを固定する（AFロック）ことができます。操作手順は以下の通りです。
  1（オートフォーカスの状態で）シャッターボタンを半押しして距離を合わせたいものにピントを合わせます。（フォーカスロック）

2 シャッターボタンから指をはなして Fn（ファンクション）ボタンを押します。
3 MFに設定され、フォーカスロックをした位置で撮影距離が固定されます。
   • AFに戻すには、再度Fn（ファンクション）ボタンを押してください。

露出を固定する（AEロック）

Fn（ファンクション）ボタンに［AEロック］を登録する（☞P.147）と、撮影時にFn（ファンクション）ボタンを押して、露出の固定（AEロック）、解除を切り替えることができます。

1 撮影できる状態にする

2 液晶モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fn（ファンクション）ボタンを押す

• 露出が固定され、画面に AEL マーク、絞りF値、シャッタースピードが表示されます。
• もう一度Fn（ファンクション）ボタンを押すと、AEロックが解除されます。

メモ

• AEロックで撮影した後も、AEロックは保持されます。
• Fn（ファンクション）ボタンに［AEロック］を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fn（ファンクション）ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。
• Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録するには、セットアップメニューを使います。（☞P.147）

絞り値を設定して撮影する（A：絞り優先モード）

モードダイヤルをA（絞り優先モード）に合わせると、絞り値を手動で設定できます。絞り値を設定すると、カメラが自動的に適正なシャッタースピードを設定して撮影します。

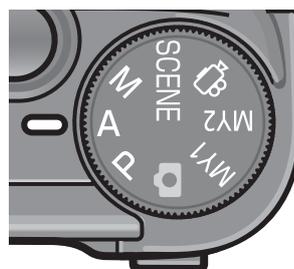
ズームの位置によって選択できる絞りF値が異なります。

広角時のF値　2.5～9.1

望遠時のF値　4.4～15.8

絞りF値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかして被写体をハッキリ強調させることができます。絞りF値を大きくする（絞りを閉じる）と、手前から奥までクッキリと写した奥行きのある画像が撮影できます。

絞り優先モードの設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをAに合わせる

- 液晶モニターにモードのマークが表示され、画面右端に現在のF値がオレンジ色で表示されます。

2 アップダウンダイヤルを回して、F値を変更する

3 シャッターボタンを半押しする

- シャッタースピードが決定され、画面に表示されます。

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 半押しせずに撮影することもできます。

メモ

絞り動作は、シャッターボタンを押しきったときに行われます。

絞り値とシャッタースピードを設定して撮影する（M：マニュアル露光モード）

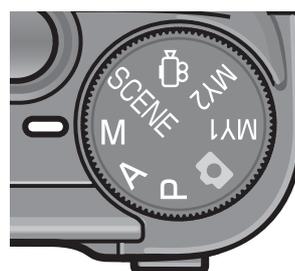
モードダイヤルをM（マニュアル露光モード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードを手動で設定して撮影できます。
設定できる絞り値は、P.68を参照してください。
シャッタースピードは、以下から選択できます。

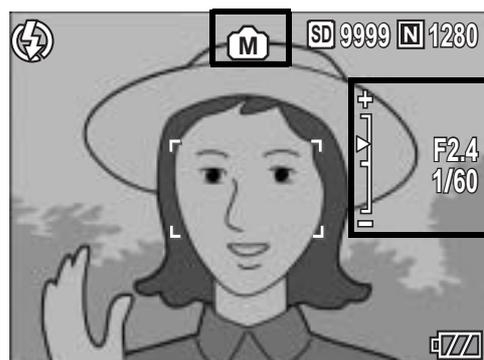
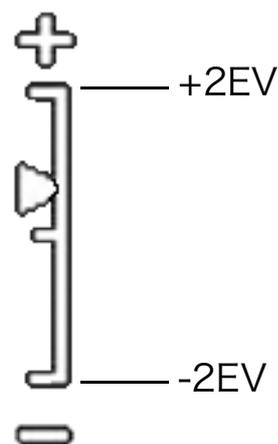
1/2000	1/1600	1/1250	1/1000	1/800	1/640
1/500	1/400	1/320	1/250	1/200	1/160
1/125	1/100	1/80	1/60	1/50	1/40
1/30	1/25	1/20	1/15	1/13	1/10
1/8	1/6	1/5	1/4	1/3	1/2.5
1/2	1/1.6	1/1.3	1	2	4
8	15	30	60	120	180

メモ--

絞り値によって、設定できないシャッタースピードもあります。

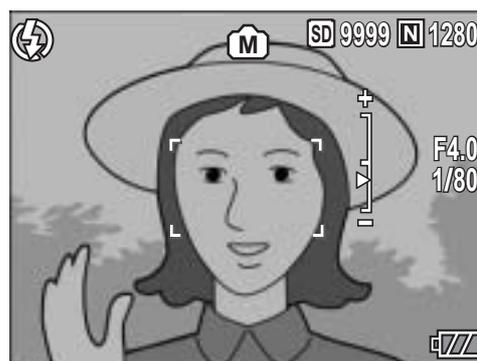
シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体が、一瞬止まったように撮影できます。シャッタースピードを遅くすると、動きを流れるように表現でき、動く被写体の軌跡を撮影できます。
絞り値の設定は、アップダウンダイヤルを使います。
シャッタースピードの設定は、ADJ.レバーを使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

- 液晶モニターにモードのマークが表示され、画面右側に現在のF値、シャッタースピード、露出値のインジケーターが表示されます。

1
いろいろな撮影

- 露出値が -2EV から +2EV の範囲にあるときは、露出値に応じて液晶モニターが変化します。
- 露出値が -2EV から +2EV の範囲を超えると、インジケーターの色がオレンジ色になり、液晶モニターは変化しません。

2 アップダウンダイヤルを回してF値を変更する

3 ADJ.レバーを左右に押して、シャッタースピードを変更する

4 シャッターボタンを半押しする

5 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

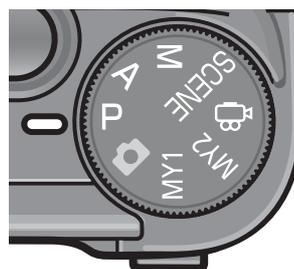
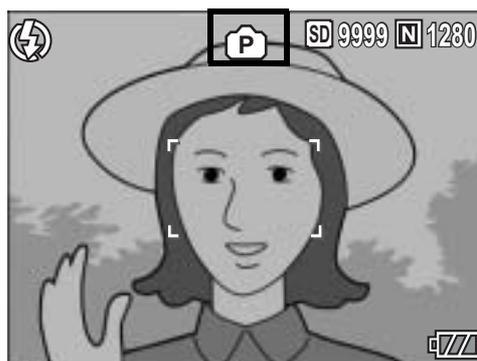
- 露光時間を長くしたいときは、シャッタースピードを遅く設定します。その場合、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させるか、三脚等を使用して撮影してください。
- シャッタースピードを遅く設定して撮影した場合、撮影中は液晶モニターがオフになります。
- マニュアル露光モードでISO感度を［AUTO］または［AUTO-HI］に設定した場合、ISO100に固定されます。
- Fn（ファンクション）ボタンに［AE ロック］を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fn（ファンクション）ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

注意

- シャッタースピードを15秒以上に設定した場合、画像のノイズを除去する機能が働きます。そのため、画像の記録完了までに、設定したシャッタースピードの約2倍＋約8秒の時間がかかります。
- シャッタースピードを1秒以上に設定した場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でシャッタースピードを1秒以上に設定すると、が に切り替わります。

絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影する（P：プログラムシフトモード）

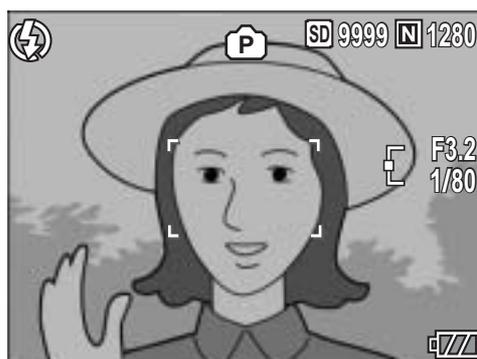
モードダイヤルをP（プログラムシフトモード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して、撮影できます。
プログラムシフトモードでの設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをPに合わせる

- 液晶モニターにモードのマークが表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

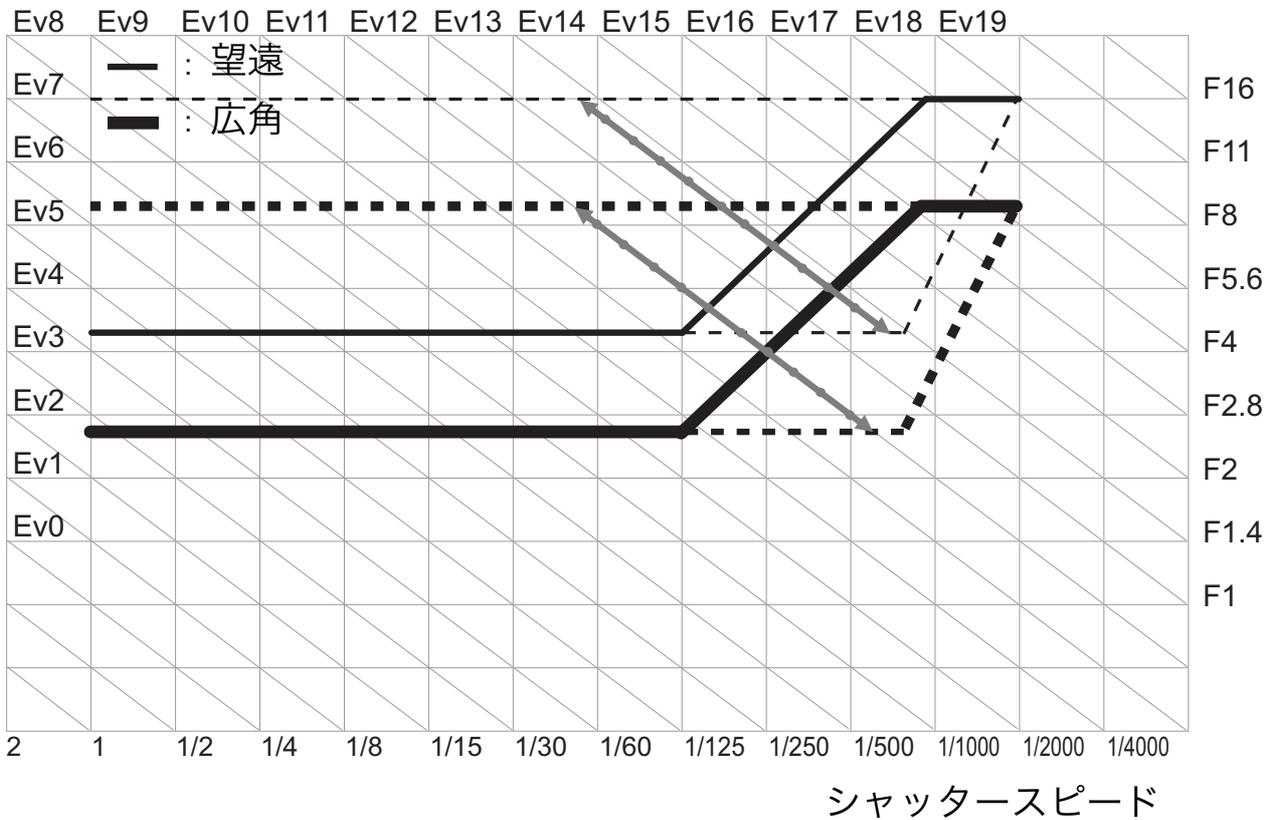
- 画面に現在のF値とシャッタースピードの組み合わせが表示されます。

3 シャッターボタンから指を離す

4 アップダウンダイヤルを回して、F値とシャッタースピードの組み合わせを変更する

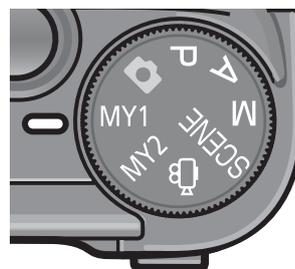
- F値とシャッタースピードの組み合わせの表示は、10秒間表示されます。その間にアップダウンダイヤルで値を変更します。

5 シャッターボタンを半押しまたは一気押しで撮影する

メモ

- プログラム線図は以下のとおりです。
- フラッシュモードを［発光禁止］、ISO感度を［ISO 100］に設定した場合の例です。
- グレーの部分はシフト可能な範囲の目安です。Ev（露出値）によって変化します。

自分好みの設定で撮影する（MY1、MY2：マイセッティングモード）

モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2の設定は、セットアップメニューの［マイセッティング登録］で登録します。（☞P.137）

1 **モードダイヤルをMY1/MY2に合わせる**

- MY1に合わせると、［マイセッティング登録］の［設定１］の設定になります。
- MY2に合わせると、［マイセッティング登録］の［設定2］の設定になります。

2 **シャッターボタンを半押しまたは一気押しで撮影する**

［マイセッティング登録］で登録した撮影モードのマーク

メモ

マイセッティングモード時に、カメラの設定を変更することができます。モードを切り替えるか電源をオフにすると、もとのMY1、MY2の設定に戻ります。

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENU/OKボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

モードダイヤルが📷/P/A/M/SCENE/MY1/MY2のとき

- モードダイヤルがSCENEのときは、選択できる項目が限られます。（☞P.202）

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	RAW(10M)、RAW3:2(9M)、F3648(10M)、[N3648(10M)]、F3:2(9M)、N3:2(9M)、F1:1(7M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.77
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.80
測光方式	[マルチ]、中央、スポット	P.83
連写	[OFF]、連写、S連写、M連写	P.84
画像設定	硬調、[普通]、軟調、白黒、セピア、設定1、設定2	P.88
オートブラケット	[OFF]、ON ±0.3、ON ±0.5、WB-BKT	P.90
インターバル撮影	[0秒]、5秒～3時間	P.93
音声付き撮影	[OFF]、ON	P.95
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.96
露出補正*	-2.0～+2.0	P.97
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)、(手動設定)	P.98
ISO感度	[AUTO]、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.101
手ブレ補正	OFF、[ON]	P.103
撮影設定初期化**	――――	P.104

* モードダイヤルがMのときは、選択できません。

** モードダイヤルが📷のときのみ選択できます。

1 いろいろな撮影

モードダイヤルがのとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
動画サイズ	640、[320]	P.77
フレームレート	[30コマ／秒]、15コマ／秒	P.106
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.80
ホワイトバランス	[AUTO]、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)、(手動設定)	P.98

メモ

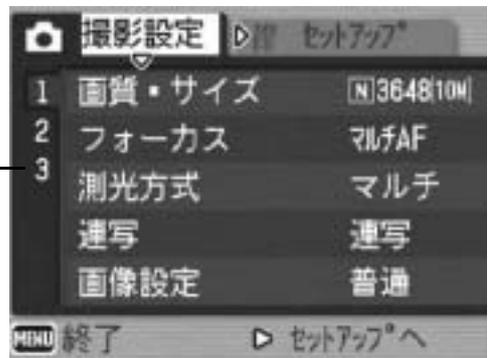
撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（P.131）

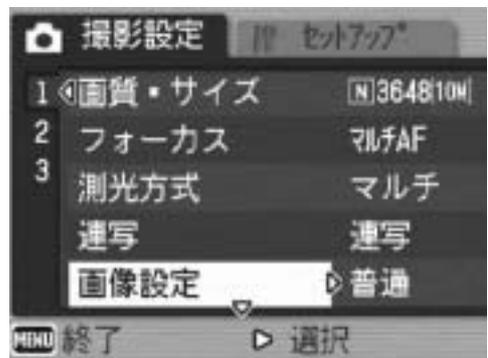
メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

1 撮影モードでMENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

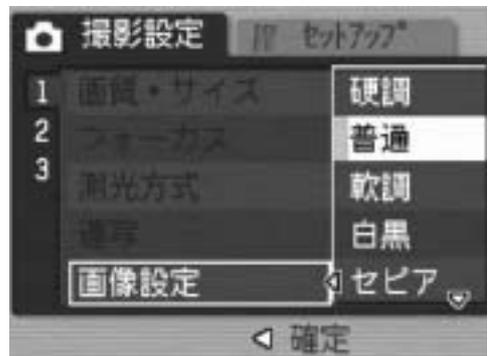
設定画面が3画面あることを示しています。

2 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で▼ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

3 ▶ボタンを押す

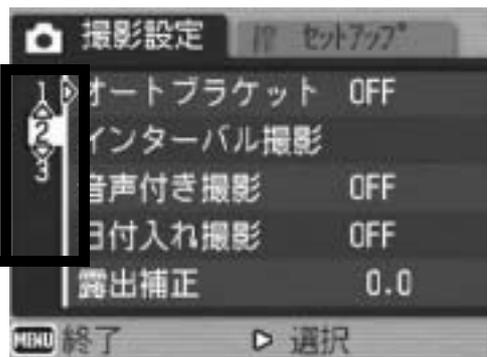
- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 設定が確定します。
- 撮影設定メニューが消え、撮影できる状態になります。

画面の切り替え ---

画面番号で画面を切り替えることができます。

1 ◀ボタンを押すと、画面左にある画面番号が選択できる状態になります。
2 ▲▼ボタンを押して画面を切り替えます。
3 ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。

画質モード／画像サイズを選ぶ（画質・サイズ）

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
3648×2736	RAW	RAW(10M)	• 劣化の少ない画像を生成する • パソコンに取り込んで高度な画像補正・編集を行う
3648×2432		RAW3:2(9M)	
3648×2736	F (Fine) N (Normal)	F3648(10M) N3648(10M)	• パソコンに取り込んで画像を補正する • 大きくプリントする
3648×2432	F (Fine) N (Normal)	F3:2(9M) N3:2(9M)	
2736×2736	F (Fine)	F1:1(7M)	
3264×2448	N (Normal)	N3264(8M)	
2592×1944	N (Normal)	N2592(5M)	• プリントする
2048×1536	N (Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N (Normal)	N1280(1M)	• 枚数を多く撮る
640×480	N (Normal)	N640(VGA)	• 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、1280 × 960、640 × 480から選択できます。
- シーンモードの［文字］の場合は、3648×2736、2048×1536から選択できます。
- ［RAW3:2］、［F3:2］、［N3:2］に設定すると、撮影範囲に合わせて、液晶モニターの上下に黒い帯部分が付加されます。
- ［F1:1］に設定すると、撮影範囲に合わせて、液晶モニターの左右に黒い帯部分が付加されます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。（☞P.106）

メモ

- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ] によって異なります。(☞P.193)
- 画質モードはNormalモード（N)、Fineモード（F)、RAWモードの3種類があります。

Normalモード： 画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。

Fineモード： 画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。

RAWモード： 撮影したままの生データがRAW形式ファイル(.DNGファイル）として保存されます。同時にJPEG形式のファイルも記録されます。撮影時の高品質を保ったまま、画像処理ソフト等で好みの画像に加工することができます。

RAWモードで撮影する

通常、撮影した画像はカメラ内で画像処理され、圧縮してファイルサイズの小さいJPEG形式で保存されます。JPEG形式は、ファイルサイズが小さいかわりに、圧縮のため画質が劣化してしまいます。
RAWモードで撮影した場合は、カメラ内で画像処理が行われません。RAWモードで撮影したときに作成されるDNGファイルには、カメラのセンサーから取り込んだ生データが保存されます。DNGファイルとは、RAW画像ファイル形式の1つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。このオリジナルに近いデータを、DNGファイル形式に対応した画像ソフトを使用して、パソコンで加工することができます。Windowsをご使用の場合は、付属のIrodio Photo & Video StudioでDNGファイルを加工することができます。Macintoshをご使用の場合は、Irodio Photo & Video Studioを使用することができません。DNGファイルを加工できる市販のソフトウェアをご使用ください。

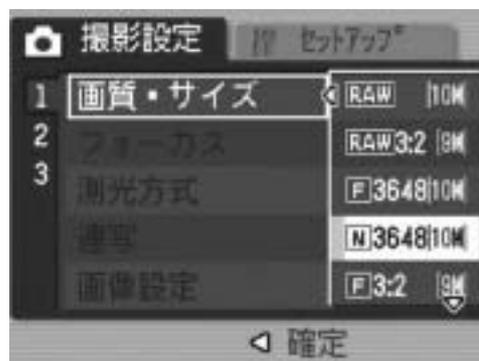
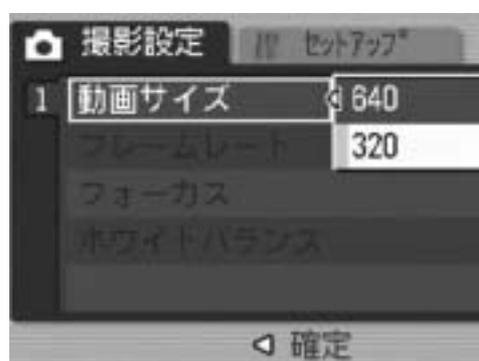
RAWモードで撮影する場合は、以下の点にご注意ください。

- RAWモードでは、連写、オートブラケット、デジタルズーム、音声付き撮影はできません。
- [日付入れ撮影] を設定した場合、DNGファイルに日付は入りません。同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。
- RAWモードで撮影すると、撮影メニューで設定した［画像設定］は、同時記録されるJPEGファイルにのみ反映されます。
- RAW モード時に同時記録される JPEG ファイルは、セットアップメニューの［RAW同時記録設定］で、画質・サイズを変更することができます。(☞P.149)

1 撮影できる状態で、MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

2 ▼ボタンを押して［画質・サイズ］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

静止画の場合

動画の場合

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。
ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

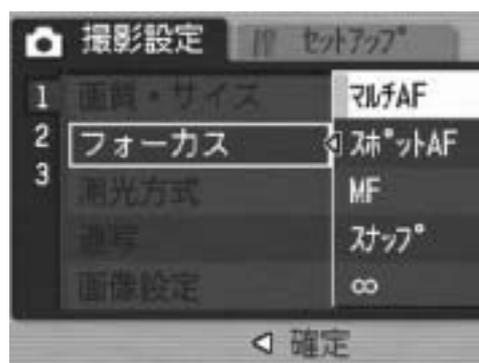
マーク	方式	内容
なし	マルチAF	17箇所のAFエリアから自動的に最大5箇所を測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	このAFエリアを液晶モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。
S	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。 無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 撮影できる状態で、MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

2 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/MF］を登録する（☞P.147）と、Fn（ファンクション）ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます（☞P.65）。

手動でピントを合わせて撮影する（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。
マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。

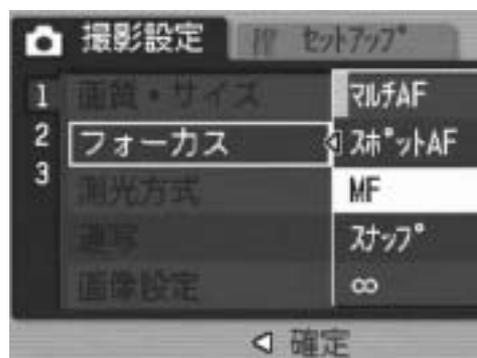
メモ

- シーンモードでは、［ズームマクロ］と［斜め補正］のときのみマニュアルフォーカスが使用できます。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。
- Fn（ファンクション）ボタンに［AF/MF］を登録する（☞P.147）と、Fn（ファンクション）ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます（☞P.65）。

1 撮影できる状態で、MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

2 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、［MF］を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 画面に［MF］とフォーカスバーが表示されます。
- フォーカスバーに表示される距離は、あくまでも目安です。

1 いろいろな撮影

5 必要に応じて、◀ボタンを押す

- ◀ボタンを押すと拡大表示になり、ピントが合わせやすくなります。

6 ▲▼ボタンを押してピントを合わせる

- ▲ボタンを押すと遠距離方向に移動します。
  ▼ボタンを押すと近距離方向に移動します。

7 シャッターボタンを押して撮影する

測光方式を変える（測光方式）

露出値を決めるときの測光方式（どの範囲で測光するか）を変更することができます。
測光方式には、次の3種類があります。

選択できるモードの種類

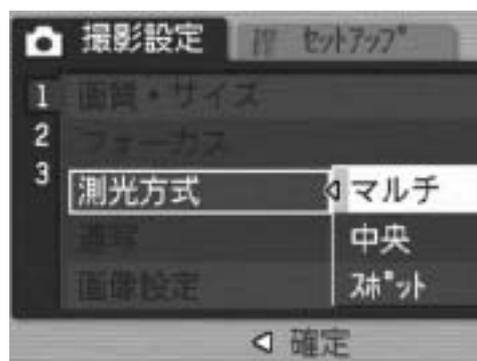
マーク	モード	内容
（マーク表示なし）	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1 モードダイヤルを/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［測光方式］を選び、▶ボタンを押す

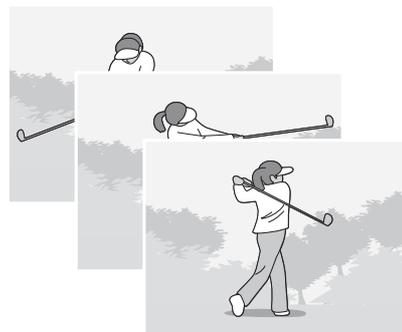
4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

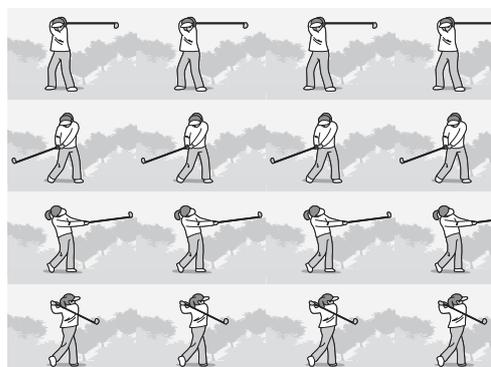
- 画面にマークが表示されます。

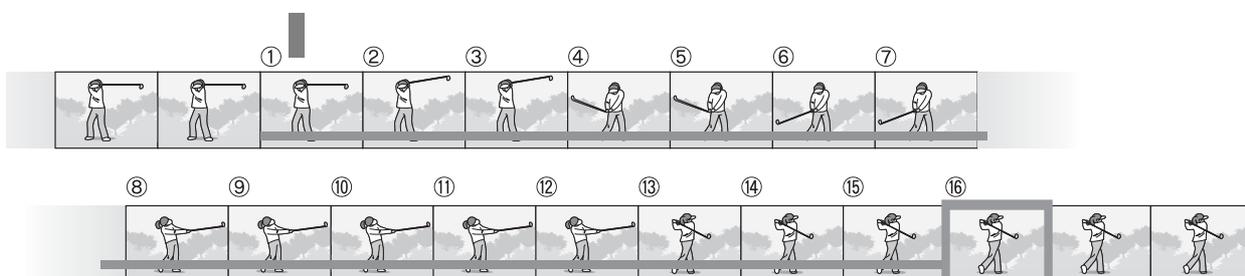
連写で撮る（連写／S連写／M連写）

連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

連写

シャッターボタンを押している間､連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。

S（ストリーム）連写

シャッターボタンを押しきった瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚（約2秒間）連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして､1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

M（メモリー逆戻り）連写

シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

注意

- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写では、セットアップメニューの［デジタルズーム切替］を［オートリサイズ］に設定していても、デジタルズームが有効になります。

メモ

- 液晶ビューファインダー（VF-1）を使用している場合、連写／S連写／M連写中は撮影画像が表示されません。
- 液晶モニターを使用している場合、連写中のみ撮影画像が表示されます。S連写及びM連写中は撮影画像が表示されません。
- S連写／M連写のときは、ISO感度を［ISO 80］、［ISO 100］に設定しても［AUTO］になります。
- 連写を使って撮影するときの連続撮影可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続撮影可能枚数は、下記の表のとおりです。

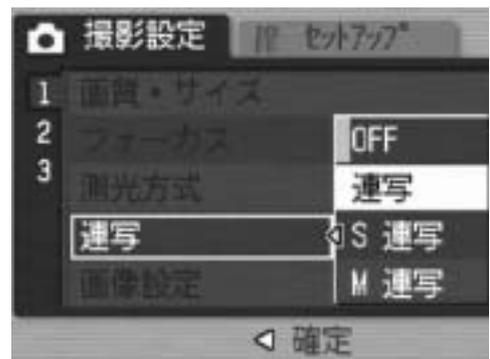
画像サイズ	連続撮影可能枚数
3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536	4枚
1280×960、640×480	10枚

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［連写］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［連写］、［S連写］、［M連写］のいずれかを選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

1

いろいろな撮影

連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

7 シャッターボタンを離して連写を終了する

- 連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして(☞P.51)、◀▶ボタンで再生したい静止画を選択します。

S連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- 自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- カメラが被写体を記憶（メモリー）します。

7 シャッターボタンを離す

- 連写が終了し、直前の約2秒間（16枚）を1枚の静止画として記録します。

メモ

- 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、上記の手順1～3を行い、手順4で［OFF］を選択してMENU/OKボタンを押します。
- M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから、2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- フラッシュは、発光禁止になります。
- 連写を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定すると、手ブレ補正オンマークが手ブレ補正オフマークに切り替わります。(☞P.103)

S連写／M連写した静止画を拡大して見る

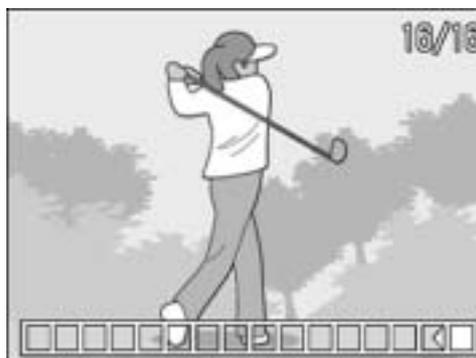
S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。
S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンを使ってS連写またはM連写で撮影した静止画を表示する

3 🔍（拡大表示）ボタンを押す

- 連写した先頭の1コマが拡大表示されます。液晶モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、MENU/OKボタンを押します。

メモ---

DISP.ボタンを押すたびに、液晶モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（☞P.58）

画質を設定する（画像設定）

コントラスト、シャープネス、色の濃さなど画像の画質を変更します。
画質は、以下の7種類から選択できます。

選択できる画像設定の種類

種類	内容
硬調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
普通	通常の画質です。
軟調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを低めにすることによって、軟らかい感じの画質にします。
白黒	白黒の画像です。
セピア	セピア調の画像です。
設定1 設定2	コントラスト、シャープネス、色の濃さを5段階から選択できるオリジナルの画質設定です。必要に応じて設定します。

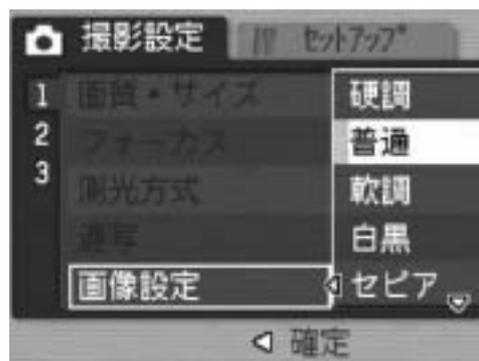
1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、画質を選ぶ

- ［設定1］、［設定2］の場合は、値を設定します。（☞P.89）
すでに［設定1］、［設定2］に値を設定している場合は、［設定1］または［設定2］を選択するだけで、画質が設定できます。

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- ［普通］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

1

いろいろな撮影

オリジナルの画質を設定する（設定1、2）

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［設定1］または［設定2］を選ぶ

5 ▶ボタンを押す

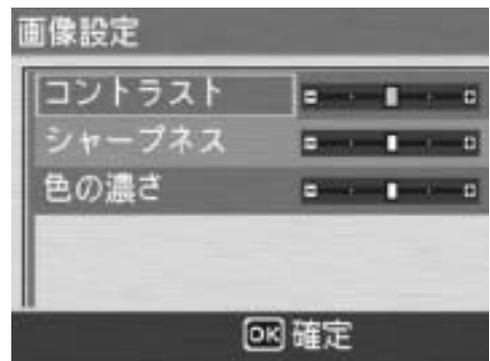
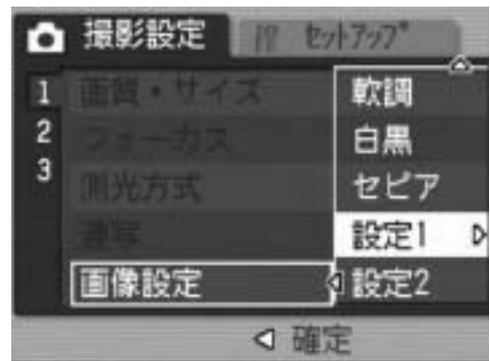
- ［画像設定］画面が表示されます。

6 ▲▼ ボタンを押して、［コントラスト］、［シャープネス］、［色の濃さ］を選び、◀▶ボタンを押して値を設定する

7 MENU/OKボタンを押す

- ［設定 1］または［設定 2］の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

8 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

露出を変化させて連続撮影する（オートブラケット）

オートブラケットは、設定されている露出を基準に3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。露出差は「-0.3EV、±0、+0.3EV」と「-0.5EV、±0、+0.5EV」の2種類から選ぶことができます。

メモ

- 音声付き撮影時は、使用できません。
- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。

1 **モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる**

2 **MENU/OKボタンを押す**

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 **▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す**

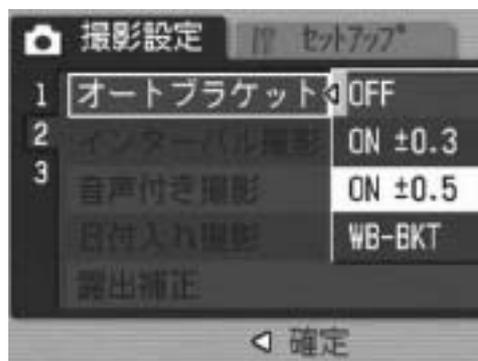
4 **▲▼ボタンを押して､[ON ±0.3]または［ON ±0.5］を選ぶ**

5 **MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す**

- 画面に［AB］が表示されます。

6 **シャッターボタンを押して撮影する**

- 右は［ON ±0.5］を選択したときの画面です。
  設定されている露出補正値を基準に、-0.5EV、±0、+0.5EVで3枚連続撮影されます。
  撮影直後に液晶モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.5EV（暗い）、基準の補正値、+0.5EV（明るい）です。

メモ

露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.97）

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット）

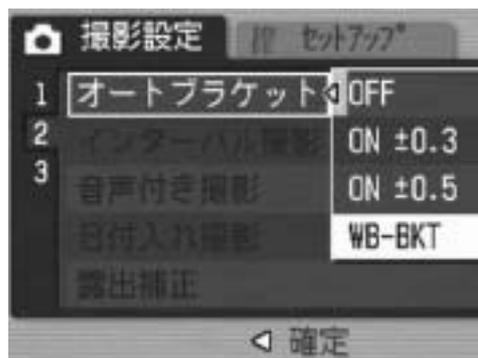
設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

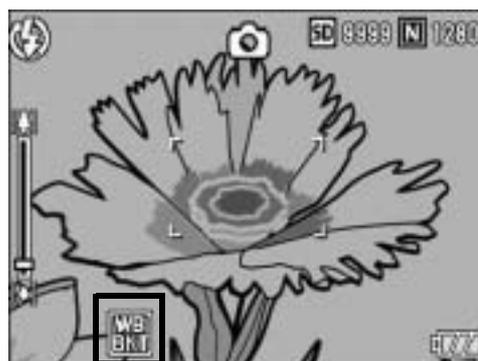
1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

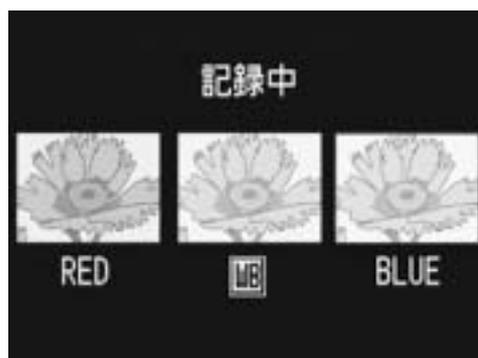
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[WB-BKT]を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。

メモ

- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写撮影時（☞P.84）、オートブラケット撮影時（☞P.90）では使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［画像設定］を［白黒］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが、動作しません。
- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.98）

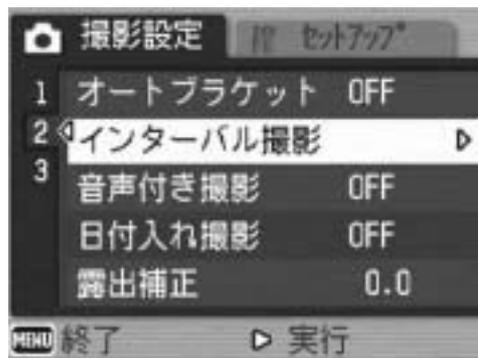
一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒～3時間の間で5秒単位で設定できます。

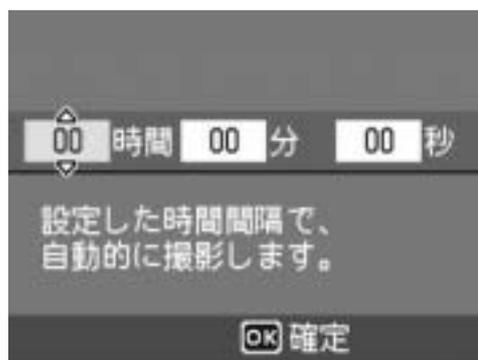
1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［インターバル撮影］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して時間を設定する

5 ▶ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する

- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

6 ▶ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する

7 MENU/OKボタンを押す

- 画面に［インターバル］と表示されます。

8 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

9 撮影を中止するときには、MENU/OKボタンを押す

1

いろいろな撮影

注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。

メモ

- 電池残量によっては、途中でバッテリー切れになることがあります。ACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が［連写］または［M連写］に設定されていても、自動的に［OFF］に切り替わります。

音声付き撮影をするには（音声付き撮影）

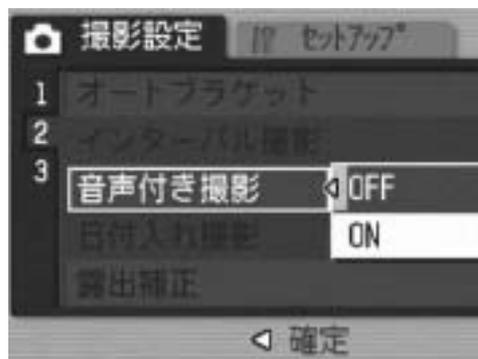
静止画に音声を付けて撮影することができます。最大8秒まで記録できます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［音声付き撮影］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- 撮影後、録音が開始されます。

7 シャッターボタンを押して録音を終了する

- シャッターボタンを押さなくても、8秒経過すると、録音は自動的に終了します。

メモ--

- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。
- 音声付きの静止画を再生する場合は、通常の音声なしの静止画と同じ操作で静止画を表示して（☞P.51）、ADJ.レバーを押すと音声が再生されます。
- 音声再生中に▲▼ボタンを押すと、音量調整バーが表示され、▲▼ボタンの操作で音量調整ができます。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

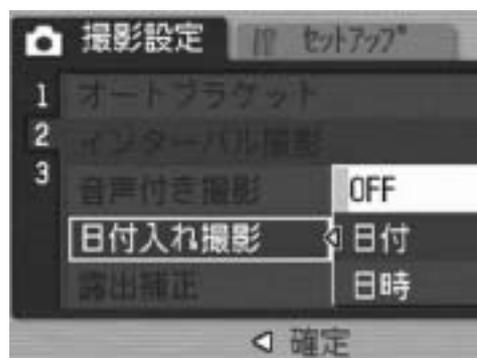
静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ

- 日付・時刻が設定されていないと［日付入れ撮影］はできません。まず、日付・時刻を設定してください。（☞P.158）
- 動画に日付を入れることはできません。
- RAWモードで撮影した場合、DNGファイルに日付を入れることはできません。DNGファイルと同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。

1 いろいろな撮影

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。
次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0～+2.0の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。
スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。ADJ.レバーに登録する機能は変更することができます。（☞P.145）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.76）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷/P/A/SCENEに合わせる

2 ADJ.レバーを押して、露出補正バーが表示されるまで◀▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 MENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

注意

- マニュアル露光モードでは使用できません。
- 明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスは［オート］（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日影等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
[M]	手動設定	手動設定を行います。

設定の変更は、撮影メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。ADJ.レバーに登録する機能は変更することができます。（☞P.145）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.76）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷/P/A/SCENEに合わせる

2 ADJ.レバーを押して、ホワイトバランスのメニューが表示されるまで◀▶ボタンを押す。

3 ▲▼ボタンを押して、［M］以外の設定を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

1 モードダイヤルを📷/P/A/SCENEに合わせる

2 ADJ.レバーを押して、ホワイトバランスのメニューが表示されるまで◀▶ボタンを押す。

3 ▲▼ボタンを押して、[M] を選ぶ

4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

5 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

6 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順５で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順4と5を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ---

手動設定を解除するには、上記の手順3で［M］以外を選択します。

撮影感度を設定する（ISO感度）

ISO感度は、フィルムの光に対する敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。
ISO感度は、次の設定から選択できます。

AUTO、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

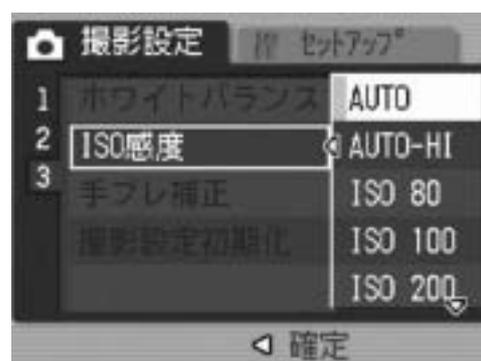
ISO感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／ズーム／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、［AUTO］のままで撮影します。
［AUTO-HI］（高感度設定オート）も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、［AUTO］よりも感度が高めになります。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが［AUTO］より速くなりますので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。［AUTO-HI］は、セットアップメニューで設定したISO感度まで、自動的に感度を上げます。（☞P.140）
ISO感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］、［AUTO-HI］以外を選択します。

設定の変更は、撮影メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。ADJ.レバーに登録する機能は変更することができます。（☞P.145）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.76）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 ADJ.レバーを押して、ISO感度のメニューが表示されるまで◀▶ボタンを押す。

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

1

いろいろな撮影

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

メモ--

- ISO感度を［AUTO］に設定しているときにフラッシュを使用すると、ISO160相当の感度になります。画像サイズが3648×2736の場合、フラッシュを使用しないと、ISO100相当になります。
- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ［AUTO］に設定した場合のISO感度の範囲は下表のとおりです。

フラッシュを使用しない場合

画素数	定常感度	最小感度	最大感度
640	100	80	283
1280	100	80	238
2040	100	80	176
2592	100	80	154
3264	100	80	154
3648	100	80	154

フラッシュを使用する場合

ズーム	定常感度	最小感度	最大感度
Wide	100	100	400
Tele	308	100	400

手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ（手ブレ補正）

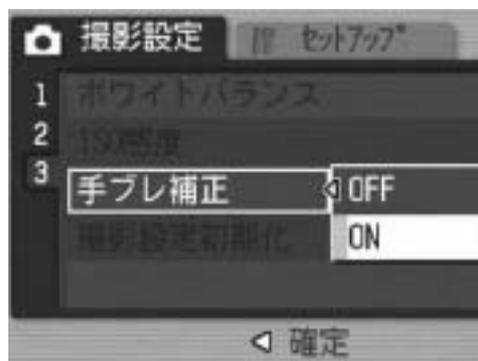
手ブレ補正機能をオンにすると、手ブレが起きにくくなります。購入時は、手ブレ補正機能がオンに設定されています。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［手ブレ補正］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

注意 --

- 連写、またはマニュアル露光モードでシャッタースピードを1秒以上に設定した場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定した場合、またはマニュアル露光モードでシャッタースピードを1秒以上に設定した場合、(手ブレ補正マーク)が(手ブレ補正オフマーク)に切り替わります。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを(動画モードマーク)（動画モード）に合わせると、(手ブレ補正マーク)の表示が消えます。
- 被写体ブレ（被写体が風などで揺れてぶれる）は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ --

手ブレがしやすい状態だと(手ブレ警告マーク)マークが表示されます。（☞P.36）

撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

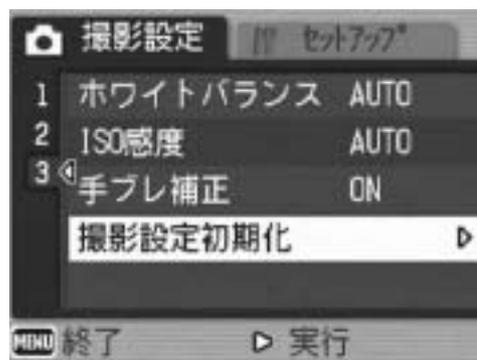
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して［撮影設定初期化］を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ［はい］が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

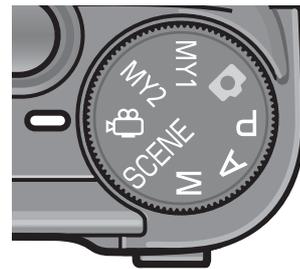
- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。

メモ

電源をオフにしても設定値が保持される機能については、付録を参照してください。（☞P.199）

1 いろいろな撮影

動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。
画像サイズは、640×480、320×240のいずれかが選択できます。
また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレーム、15フレームのいずれかが選択できます。
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルを （動画モード）に合わせる

2 シャッターボタンを押す

- 動画の撮影が開始されます。
  次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

3 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、お使いのカードにより異なります。（☞P.107）また撮影可能時間内でも、お使いのカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを（動画モード）に合わせると、の表示が消えます。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます。(☞P.41)
- 手順2でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズ(☞P.77)やフレーム数(☞P.106)は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。(☞P.75)
- 長時間撮影される場合は高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する(フレームレート)

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数(フレームレート)を設定します。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

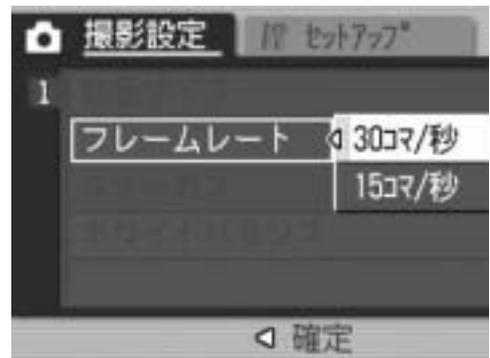
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して[フレームレート]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[30コマ/秒]または[15コマ/秒]を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

 動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたは SD メモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録時間目安は、下表のようになります。

	内蔵	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
640×480（15コマ／秒）	24秒	57秒	1分56秒	3分51秒	7分46秒	14分57秒	30分24秒	59分42秒
640×480（30コマ／秒）	12秒	28秒	58秒	1分56秒	3分55秒	7分31秒	15分19秒	30分4秒
320×240（15コマ／秒）	1分16秒	2分58秒	5分59秒	11分57秒	24分5秒	46分19秒	94分11秒	184分57秒
320×240（30コマ／秒）	39秒	1分31秒	3分4秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	94分40秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ◀▶ボタンで見たい動画にする

- ▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。

3 ADJ.レバーを押す

- 再生が始まります。
  液晶モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中に[♠]ボタンを押す
巻き戻し	再生中に[♤]ボタンを押す
一時停止／再生	ADJ.レバーを押す
スロー再生	一時停止中に[♠]ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に[♤]ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に[♠]ボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中に[♤]ボタンを押す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す

再生設定メニューについて

再生モードでMENU/OKボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
スライドショー	――――――――	P.110
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.111
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.114
画像サイズ変更	1280、640	P.117
CARDへコピー	――――――――	P.119
斜め補正	――――――――	P.120

 メモ---

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（☞P.131）

メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。

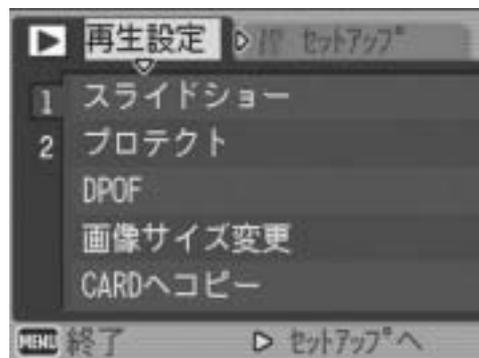
1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

4 ▶ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に液晶モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

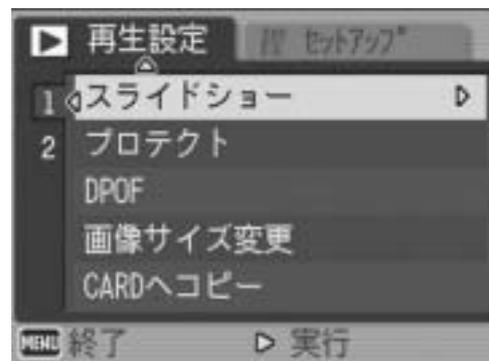
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[スライドショー]を選び、▶ボタンを押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。
  中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。
- 音声付きの静止画は、音声も再生されます。

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

注意 --

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1ファイルをプロテクトする

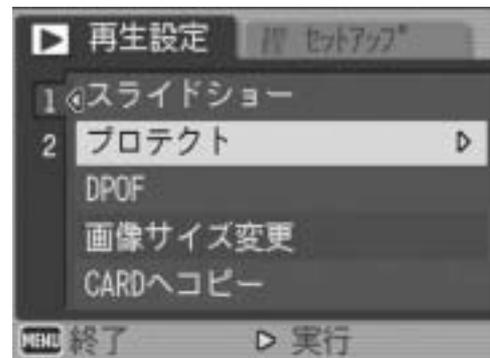
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンを押してプロテクトしたいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ --

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3〜5を行います。

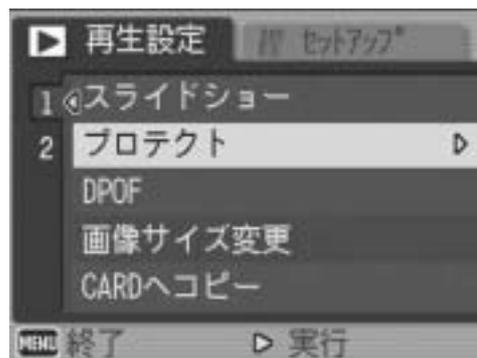
すべてのファイルをプロテクトする

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5 [選択]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ--

すべてのプロテクトを解除するには、手順5で[解除]を選択します。

3

いろいろな再生

複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ⊞（サムネイル表示）ボタンを2回押す

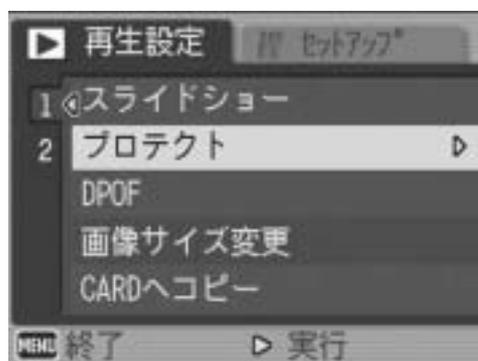
- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。

6 ▲▼◀▶ ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、MENU/OK ボタンを押す

7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態で MENU/OK ボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ---

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。（☞P.112）
- 一覧表示の詳細については、P.52をご覧ください。

プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。
DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。一覧表示でDPOF設定を行うと、印刷枚数を指定することもできます。（☞P.116）

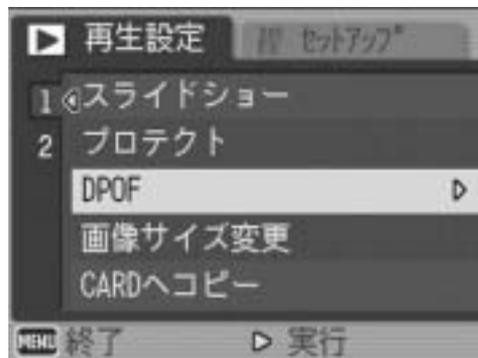
表示している静止画にDPOF設定する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを押して設定したい静止画を表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、[DPOF] を選び、▶ボタンを押す

5 [1ファイル] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

- DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。
- RAWモードで撮影した画像は、JPEGファイルにのみDPOF設定されます。

すべての静止画にDPOF設定する

すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

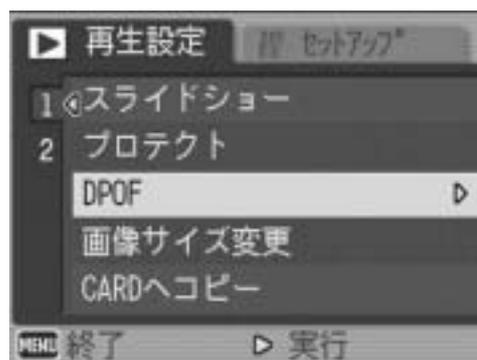
2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ ボタンを押して、［DPOF］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、［全ファイル］を選ぶ

5 ［選択］が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ---

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で［解除］を選択します。

3

いろいろな再生

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ⊞（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ ボタンを押して、［DPOF］を選び、▶ボタンを押す

6 ▲▼　ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

9 手順7〜8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

10 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ

- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定してMENU/OKボタンを押します。
- 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。（☞P.115）

3 いろいろな再生

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3648／N3648／F3:2／N3:2／F1:1／N3264／N2592／N2048	N1280	N640
N1280	N640	

注意

- 画像サイズ変更ができるのは、静止画および音声付きの静止画です。動画は、画像サイズ変更ができません。
- RAWモードで撮影した画像は、画像サイズ変更ができません。

メモ

- ［F3:2］、［N3:2］の画像は、横と縦の比率が3:2です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（☞P.77）
- ［F1:1］の画像は、横と縦の比率が同じです。この画像をリサイズした場合、左右に黒い帯部分を付加した４:3の比率の画像にして縮小されます。

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

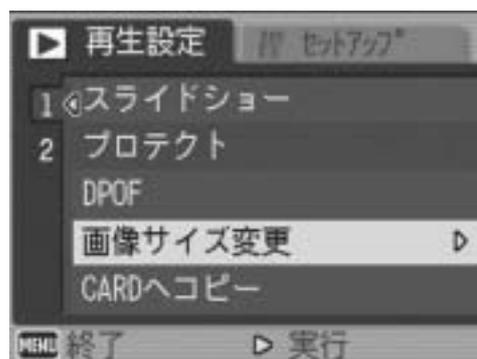
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンを押して画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、［画像サイズ変更］を選び、▶ボタンを押す

3 いろいろな再生

5 ▲▼ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の画像が記録されます。変更前の画像も残ります。

3

いろいろな再生

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする（CARDへコピー）

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

1 電源をオフにする

2 SDメモリーカードをセットする

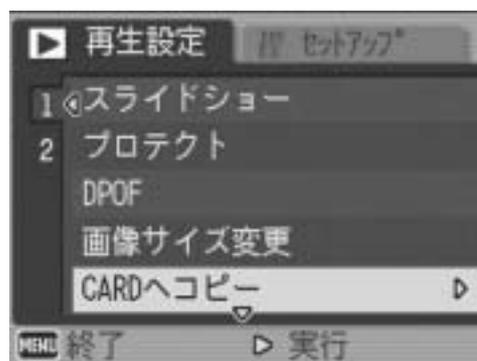
3 電源をオンにする

4 ▶（再生）ボタンを押す

5 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ▼ボタンを押して、［CARDへコピー］を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。

メモ

- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、［はい］を選んでMENU/OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、［いいえ］を選んでMENU/OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）

斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。

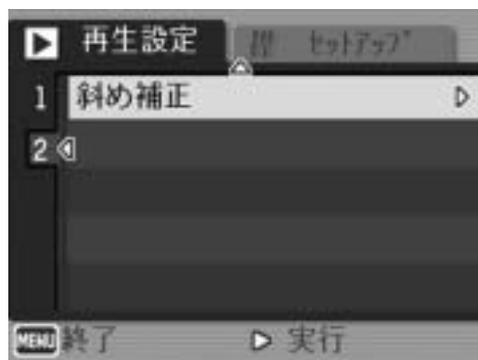
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、[斜め補正]を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

- 動画の場合、斜め補正することはできません。
- RAW モード（☞P.77）で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルが斜め補正されます。DNGファイルは斜め補正されません。

メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.117）、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

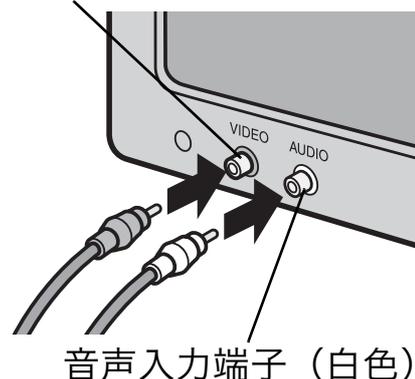
画像サイズ	補正時間
3648×2738	約52秒
3624×2448	約41秒
2592×1944	約26秒
2048×1536	約15秒
1280×960	約6秒
640×480	約2秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（☞P.45）

テレビの画面で見る

撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には液晶モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るには、次のように操作します。

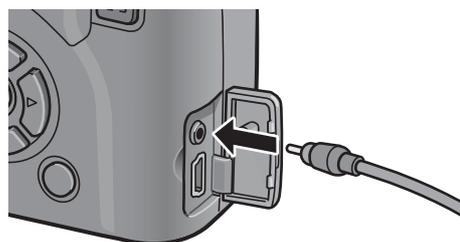
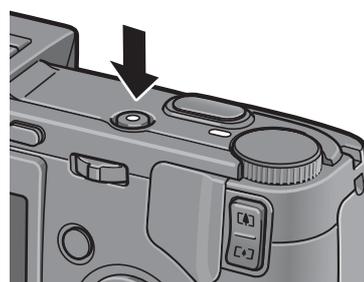
1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

- AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 端子カバーを開ける

4 AV 出力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

5 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

6 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けて、電源をオンにする

注意

AVケーブルで本機を接続している間は液晶モニター及び液晶ビューファインダーの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。

メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。
  購入時の設定は、仕向け地によって異なります。（☞P.160）

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意 --

- 動画（.AVI）は、印刷できません。音声付き静止画（.JPG と .WAV）の場合は、静止画（.JPG）のみ印刷されます。
- RAWモードで撮影した画像は、同時記録されたJPEGファイルが印刷されます。DNGファイルは印刷できません。

メモ --

- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。
- カメラのセットアップメニュー［USB 接続］（☞P.154）が［マスストレージ］に設定されていると、ご使用のプリンターによってはダイレクトプリントできない場合があります。その場合は、［オリジナル］を選択してください。

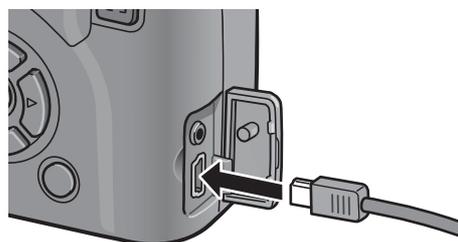
カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 端子カバーを開ける

3 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。

メモ---

カメラとプリンターの接続を外すときは、カメラの電源がオフになっていることを確認し、USBケーブルをカメラから外してください。

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。

注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ

送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する

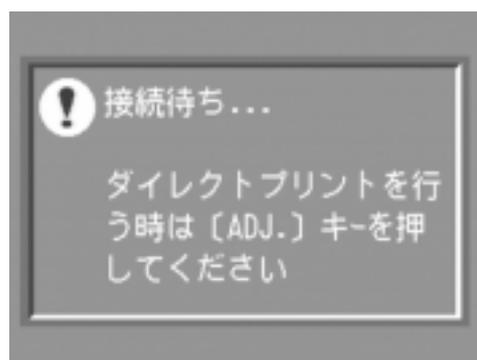
1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する
- ［接続待ち...］画面が表示されます。

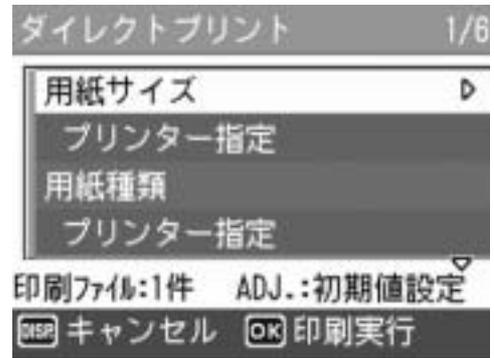
2 ADJ.レバーを押す
- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンで、印刷したい静止画を表示する

4 ADJ.レバーを押す

5 ▲▼ ボタンを押して、［1ファイル］または［全ファイル］を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す
- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

7 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

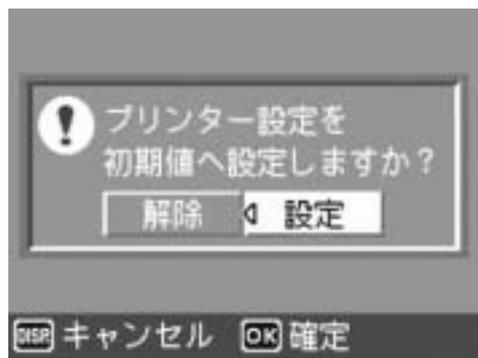
- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると［接続中･･･］が消え、［ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ表示されます。
  ※印の項目は、帳票印刷に対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ表示されます。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。

8 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

メモ

- 手順7の画面でADJ.レバーを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値に設定することができます。右の画面が出たら、◀▶ボタンを押して［設定］を選び、MENU/OKボタンを押してください。
- ［解除］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

10 MENU/OKボタンを押す

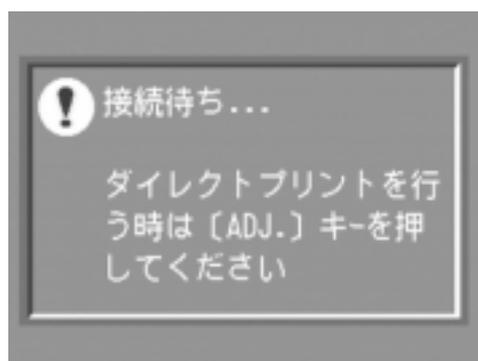
- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ.レバーを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 (サムネイル表示)ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

6 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して次に印刷したい静止画を選ぶ

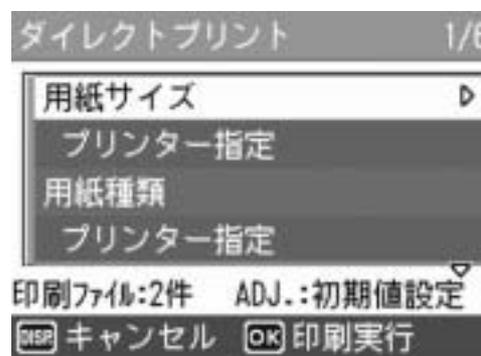
8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、［ダイレクトプリント］と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.127をご覧ください。

12 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

14 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

メモ

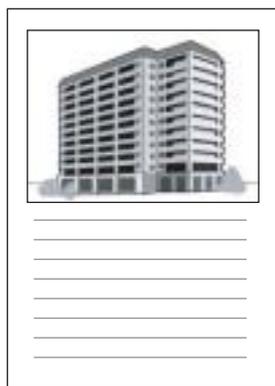
- プリンターのマーク（🖶）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

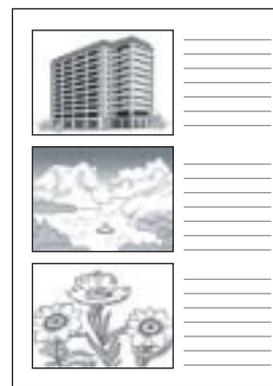
帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。[帳票印刷]はメニュー画面で[用紙サイズ]を[A4]に設定したあと、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ、選択することができます。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。
選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1コマ罫線あり	2コマ罫線あり	3コマ罫線あり	4コマ罫線あり
1コマ罫線なし	2コマ罫線なし	3コマ罫線なし	4コマ罫線なし
工事写真1	記事欄付1		

帳票印刷の例

1コマ罫線あり

2コマ罫線あり

工事写真1

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.74）や再生設定メニュー（☞P.109）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
初期化［カード］	――――――	P.134
初期化［内蔵メモリー］	――――――	P.135
LCD輝度調節	――――――	P.136
マイセッティング登録	［設定1］、設定2	P.137
ステップズーム	ON、［OFF］	P.139
ISO AUTO-HI 設定	［AUTO 400］、AUTO 800、AUTO1600	P.140
オートパワーオフ	OFF、［1分］、5分、30分	P.141
ブザー音	［すべて］、シャッター音	P.142
操作音音量設定	なし（□□□）、小（■□□）、中［(■■□)］、大（■■■）	P.143
画像確認時間	OFF、［0.5秒］、1秒、2秒、3秒、30秒	P.144
ADJ.レバー設定1*1 ADJ.レバー設定2*2 ADJ.レバー設定3*3 ADJ.レバー設定4*4	［OFF］*4、［露出補正］*1、［ホワイトバランス］*2、［ISO］*3、画質、フォーカス、画像設定、測光方式、連写、オートブラケット、音声付	P.145
ADJシャッターボタン確定	ON、［OFF］	P.146
ファンクションボタン設定	OFF、［AF/MF］、AEロック、露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光方式、連写、オートブラケット、音声付	P.147
AF補助光	［ON］、OFF	P.148
RAW同時記録設定	［FINE］、NORMAL、N640	P.149
デジタルズーム切替	［通常］、オートリサイズ	P.150
撮影設定警告	［ON］、OFF	P.152
撮影アイコン拡大	ON、［OFF］	P.153
USB接続	［マスストレージ］、オリジナル	P.154
CARD連続NO.	［ON］、OFF	P.156
日時設定	――――――	P.158
LANGUAGE／言語*	日本語、ENGLISH、DEUTSCH、FRANÇAIS、ITALIANO、ESPAÑOL、简体中文、繁体中文、한국어	P.159
ビデオ方式*	NTSC、PAL	P.160

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

セットアップメニューの操作方法

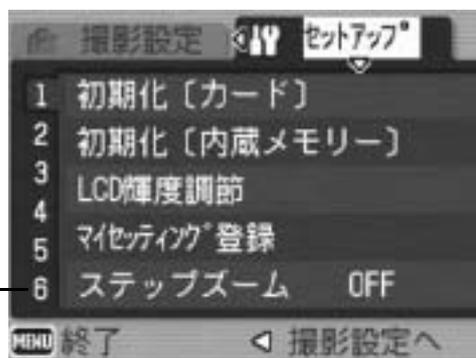
各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

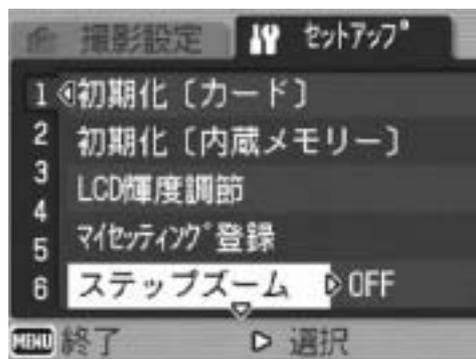
1 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ▶ボタンを押す

- セットアップメニューが表示されます。

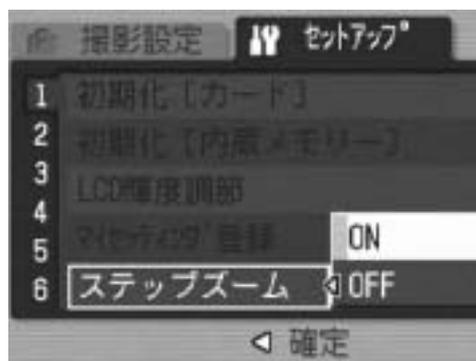
設定画面が6画面あることを示しています。

3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で▼ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

4 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度MENU/OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。

メモ

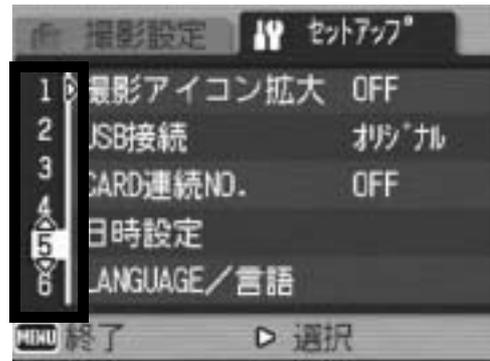
機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

画面の切り替え

画面番号で画面を切り替えることができます。

1 ◀ボタンを押すと、画面左にある画面番号が選択できる状態になります。
2 ▲▼ボタンを押して画面を切り替えます。
3 ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。

5

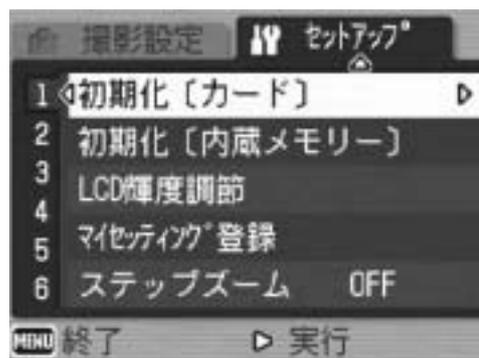
カメラの設定を変える

SDメモリーカードを使えるようにする（初期化［カード］）

［使用できないCARDです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンなど他の機器で使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。
初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。

注意
画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［カード］］を選び、▶ボタンを押す
- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す
- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SD メモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENU/OKボタンを押す

誤って画像を消さないようにするには
- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります。(☞P.27)
- 解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。

5 カメラの設定を変える

内蔵メモリーを初期化する（初期化［内蔵メモリー］）

［内蔵メモリーを初期化してください。］というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。

注意

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されているデータはすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。（☞P.119）

初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

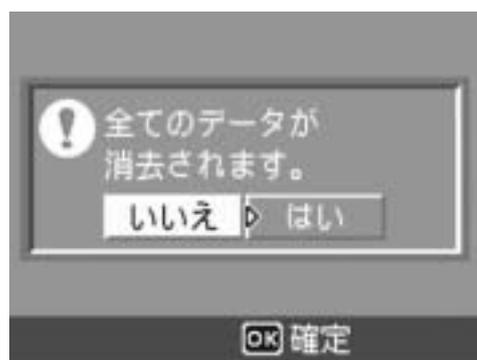
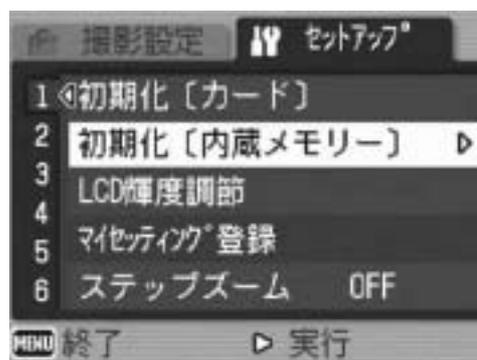
- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［内蔵メモリー］］を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

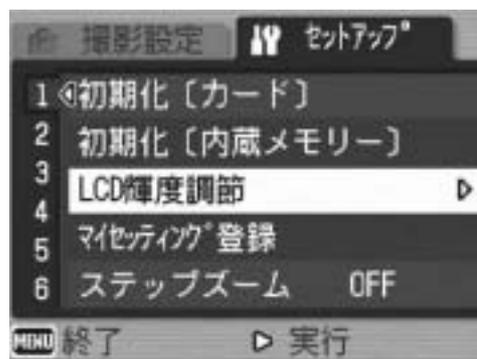
4 MENU/OKボタンを押す

液晶モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）

液晶モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[LCD輝度調節] を選び、▶ボタンを押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、明るさを調節する

- LCD 輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。

4 設定したい明るさになったら、MENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

注意 --

液晶ビューファインダー装着時は、液晶モニターの明るさを調節することはできません。

DISP.ボタンで明るさを調整するには ---------------------------

撮影時にDISP.ボタンを押し続けると、画面の輝度が最大になります。輝度が最大のときにDISP.ボタンを押し続けると、[LCD輝度調節] で設定した明るさに戻ります。

自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）

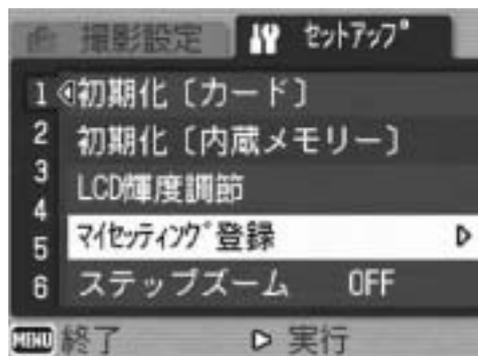
マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。
マイセッティングは2種類登録できます。モードダイヤルをMY 1に合わせると、［設定１］で登録した設定で撮影できます。モードダイヤルをMY2に合わせると、［設定2］で登録した設定で撮影できます。（☞P.73）
現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

1 カメラの設定を、マイセッティングとして登録したい値に変更する

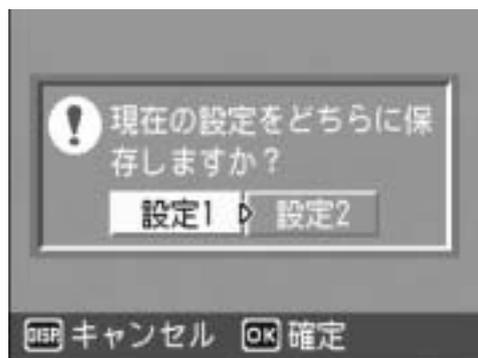
2 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

3 ▼ボタンを押して、［マイセッティング登録］を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ［設定1］または［設定2］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。

5 MENU/OKボタンを押す

マイセッティングで保存される設定

撮影モード（/P/A/M/SCENE/）
画質・サイズ
フォーカス
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
測光方式
連写
露出補正
音声付き撮影
日付入れ撮影
ホワイトバランス
ISO感度
手ブレ補正
ズーム位置
マクロ
フラッシュモード
セルフタイマー
DISP.モード
ステップズーム
デジタルズーム切替
撮影アイコン拡大

ステップズームの設定を変更する（ステップズーム）

ズームの焦点距離を、5段階（24mm、28mm、35mm、50mm、72mm：35mmフィルムカメラ換算）に固定する設定をステップズームといいます。

設定できる値
ON（ステップズームを使用する）
OFF（ステップズームを使用しない）※購入時の設定

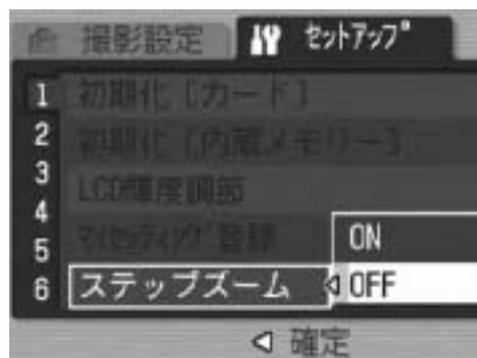
ステップズームを設定するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ステップズーム] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

ワイドコンバージョンレンズ装着時のズーム焦点距離は、19mm、22mm、28mm、40mm、57mmになります。

ISO AUTO-HI の設定を変える（ISO AUTO-HI 設定）

撮影設定メニューの［ISO感度］で設定する［AUTO-HI］（高感度設定オート）（☞P.101）のISO感度の上限を変更することができます。

設定できる値
AUTO 400　※購入時の設定
AUTO 800
AUTO1600

高感度設定オートの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ISO AUTO-HI 設定]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ---

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

5

カメラの設定を変える

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
1分 ※購入時の設定
5分
30分

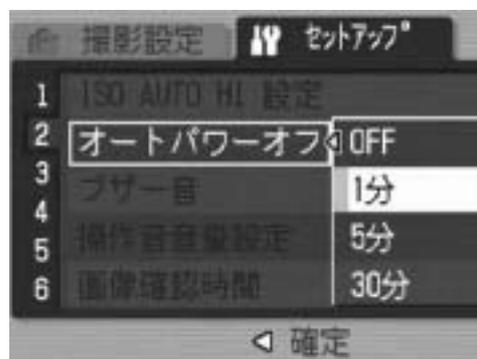
オートパワーオフの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［オートパワーオフ］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

- オートパワーオフで電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフは、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、［オートパワーオフ］の設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

ブザー音の設定を変える（ブザー音）

カメラの操作中は、起動音、シャッター音、フォーカスが合ったときの音、警告音の4種類のブザー音が鳴ります。

起動音	： カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	： シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音	： シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	： 実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。

設定できる値
すべて（すべて鳴らす）※購入時の設定
シャッター音（シャッター音、警告音のみ鳴らす）

ブザー音の設定を変更するには、次のように操作します。

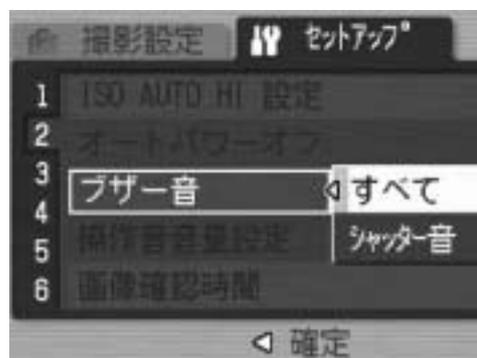
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［ブザー音］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5

カメラの設定を変える

ブザー音の音量を変える（操作音音量設定）

ブザー音の音量を変更できます。

設定できる値
□□□（なし）
■□□（音量小）
■■□（音量中）※購入時の設定
■■■（音量大）

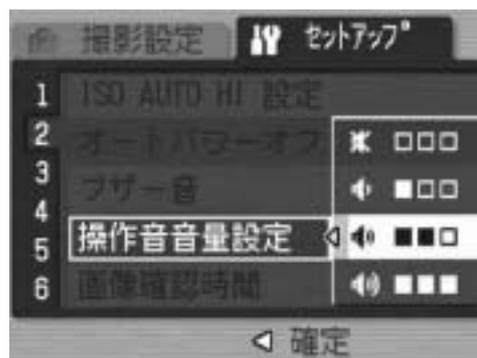
ブザー音の音量を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［操作音音量設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（確認のための表示を行わない）
0.5秒　※購入時の設定
1秒
2秒
3秒
30秒

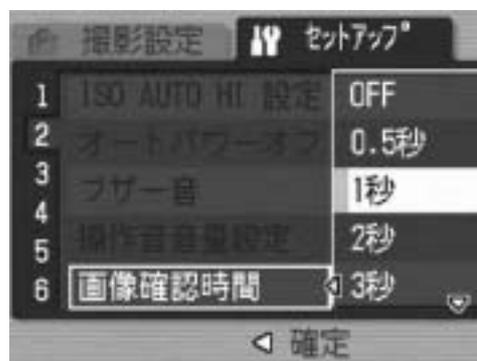
確認時間を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

注意

画像確認時間を0.5秒に設定した場合は、確認のための画像が表示されている間、ズームバー等のマークも表示されたままになります。

メモ

[30秒]に設定すると、確認時間が十分に取れて便利です。特に液晶ビューファインダーを使用する場合に便利です。[30秒]に設定していても、シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻り、撮影することができます。

5 カメラの設定を変える

ADJ.レバーに機能を登録する（ADJ.レバー設定）

ADJ.レバーに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。
［ADJ.レバー設定1］～［ADJ.レバー設定4］で、ADJ.レバーを押して表示できる機能を登録します。

設定できる値		参照先
OFF	※購入時［ADJ.レバー設定4］の設定	ー
露出補正	※購入時［ADJ.レバー設定1］の設定	P.97
ホワイトバランス	※購入時［ADJ.レバー設定2］の設定	P.98
ISO	※購入時［ADJ.レバー設定3］の設定	P.101
画質		P.77
フォーカス		P.80
画像設定		P.88
測光方式		P.83
連写		P.84
オートブラケット		P.90
音声付		P.95

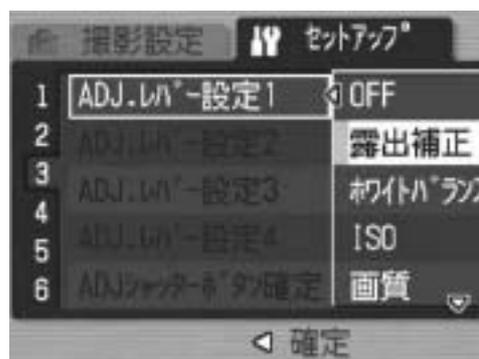
［ADJ.レバー設定1］～［ADJ.レバー設定4］に機能を登録するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［ADJ.レバー設定1］、［ADJ.レバー設定2］、［ADJ.レバー設定3］、［ADJ.レバー設定4］のいずれかを選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ
ADJ.モードでの操作方法は、P.62を参照してください。

5
カメラの設定を変える

シャッターボタンの設定を変える（ADJシャッターボタン確定）

ADJ.モードの場合（☞P.62）、通常はMENU/OKボタンまたはADJ.レバーを押して設定を確定します。
［ADJ.シャッターボタン確定］を［ON］に設定すると、シャッターボタンの半押しでも設定を確定することができます。

設定できる値	
ON	MENU/OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。
OFF ※購入時の設定	MENU/OKボタンを押すと設定が確定します。

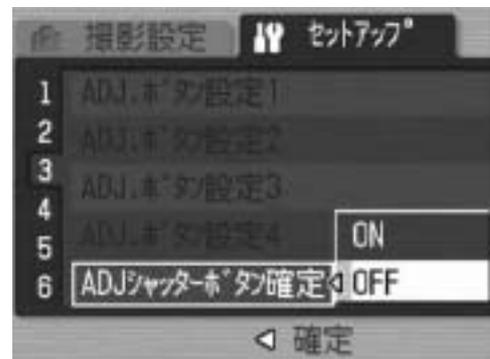
シャッターボタンの設定を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［ADJシャッターボタン確定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5

カメラの設定を変える

ファンクションボタンに機能を登録する（ファンクションボタン設定）

Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録すると、Fn（ファンクション）ボタンを押して、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えたり、露出を固定することができます。また、撮影設定メニューを表示することなく、登録した機能の設定画面を表示することができます。

設定できる値	参照先
OFF	ー
AF/MF ※購入時の設定	P.66
AEロック	P.67
露出補正	P.97
ホワイトバランス	P.98
ISO	P.101
画質	P.77
フォーカス	P.80
画像設定	P.88
測光方式	P.83
連写	P.84
オートブラケット	P.90
音声付	P.95

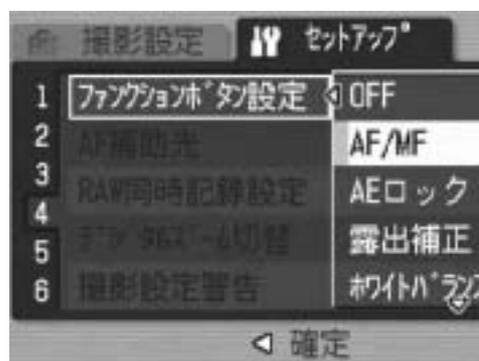
Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ ボタンを押して、［ファンクションボタン設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

Fn（ファンクション）ボタンの操作方法は、P.65を参照してください。

5

カメラの設定を変える

AF補助光の設定を変える（AF補助光）

オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。
［AF補助光］を［ON］に設定すると、撮影時に必要に応じてAF補助光が発光し、AF測距を行います。
AF補助光の設定を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［AF補助光］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

 メモ

- ［AF補助光］を［ON］に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光します。
- ［AF補助光］を［ON］に設定していても、一気押しの場合は、周囲が暗くても発光しないことがあります。

RAWモード時のJPEG画像の設定を変える（RAW同時記録設定）

[画質・サイズ]をRAWモードに設定して撮影した場合（☞P.77）、RAW形式ファイル（.DNGファイル）と関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されます。このJPEGファイルの画質・サイズの設定を変更することができます。

設定できる値	
FINE ※購入時の設定	画質：Fineモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
NORMAL	画質：Normalモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
N640	［画質・サイズ］の［N640］（☞P.77）と同じ画質・サイズで記録します。

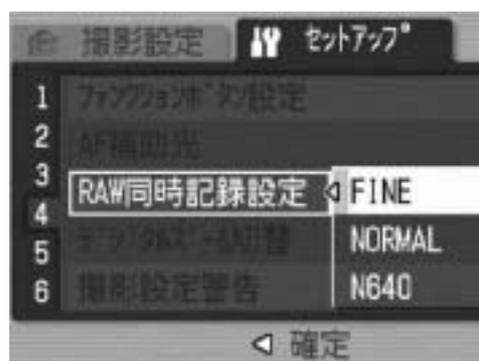
JPEGファイルの画質・サイズの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［RAW同時記録設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す

メモ

[画質・サイズ] が [RAW3:2] のとき、[RAW同時記録設定] を [N640] に設定すると、JPEG画像の上下に黒い帯部分が付加されます。

5 カメラの設定を変える

オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）

撮影した画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、画像の一部を設定した画像サイズまで拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録するので、画像サイズは小さくなりますが画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。
［画質・サイズ］を3648×2736に設定しているときのみ働きます。（☞P.77）

選択できる設定

設定	内容
通常	［画質・サイズ］で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。

メモ
［画質・サイズ］が3648×2736以外の場合、デジタルズームが有効になります。

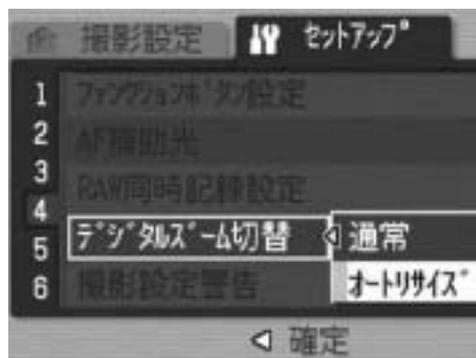
ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

ズーム倍率	画像サイズ
3.0倍	3648×2736（10M）
3.0×約1.1倍	3264×2448（8M）
3.0×約1.4倍	2592×1944（5M）
3.0×約1.8倍	2048×1536（3M）
3.0×約2.9倍	1280×960（1M）
3.0×約5.7倍	640×480（VGA）

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［デジタルズーム切替］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[オートリサイズ]を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5 [♠](望遠)ボタンを押し続け、ズームバー表示が[♠](望遠)側の端まできたらいったん[♠]ボタンから指を離し、再び[♠]ボタンを押す

- さらに[♠]ボタンを押すごとに、1段階ずつ画像サイズを変更して記録されます。
- 記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。

注意 --

- 連写、シーンモードの[斜め補正]の場合は、[オートリサイズ]に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- [画質・サイズ]がRAWモードのときは、使用できません。

設定変更の警告を表示する（撮影設定警告）

次の機能の初期設定を変更した場合に、変更した機能のアイコンを点滅させたり、電源投入時に変更があったことを知らせる警告メッセージを数秒間表示するように設定できます。

　ホワイトバランス、フォーカス、ISO感度、露出補正

アイコン点滅中にカメラのボタン操作を行うと、アイコンは点灯表示になります。警告メッセージ表示中にカメラのボタン操作を行うと、メッセージは消えます。

設定できる値
ON（撮影設定警告を行う）※購入時の設定
OFF（撮影設定警告を行わない）

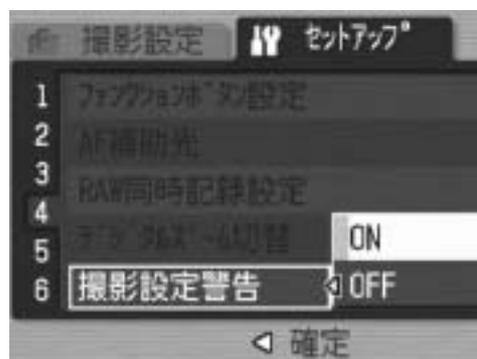
撮影設定警告を設定するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[撮影設定警告]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5

カメラの設定を変える

アイコンを大きく表示する（撮影アイコン拡大）

マーク表示（☞P.58）のときに、撮影画面の次のアイコンを大きく表示することができます。

　フラッシュ、マクロ撮影、セルフタイマー、ホワイトバランス、
　フォーカス、露出補正、ISO感度

アイコンを大きく表示すると、次のものは表示されません。

　ズームバー／フォーカスバー、日付入れ撮影、画像設定

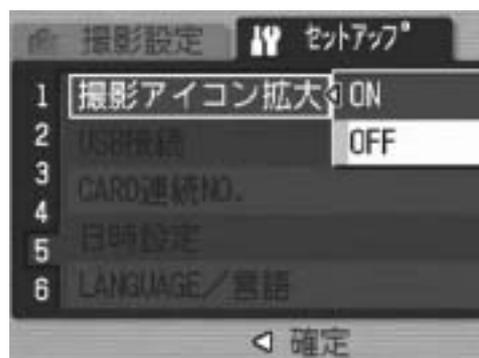
撮影画面のアイコンを大きく表示するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［撮影アイコン拡大］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ--

撮影アイコンが拡大されるのは、マーク表示画面（☞P.58）のみです。ヒストグラム表示画面（☞P.58）では、撮影アイコンは拡大されません。

5 カメラの設定を変える

USB通信方式を変える（USB接続）

ソフトウェアを使って画像を転送する場合は、ご使用のソフトウェアに応じて［USB接続］の設定を変更してください。
［USB接続］で［マスストレージ］を選択してUSB通信方式を変更すると、カメラからパソコンにUSBケーブルを使って画像を転送する際に、付属のアプリケーションやUSBドライバーなどをインストールしなくてもカメラの中のファイルを参照できるようになります。

転送に使用するソフトウェア	USB接続の設定
ソフトウェアを使用しないで、カメラ内のSDメモリーカード／内蔵メモリーをドライブとして認識させる	マスストレージ* ※購入時の設定
RICOH Gate La	マスストレージ ※購入時の設定 オリジナルどちらも可*
Auto Documentリンク	オリジナル

* Windows 98SEをご使用の方は、［オリジナル］に設定してください。［オリジナル］に設定した場合、通信可能なSDHCメモリーカードの容量は最大4GBになります。

注意

- ［マスストレージ］に設定しても、カメラ内の画像の削除はできません。
- マスストレージ接続に設定しても、パソコンからSDカードや内蔵メモリのフォーマットはしないでください。必ずカメラでフォーマットしてご使用ください。
- マスストレージ接続時、必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- パソコンからカメラ内のSDカードへファイル書き込み中に、接続を解除せずにUSBケーブルを外すとファイルが正常に書き込まれません。
- また、本カメラでは内蔵メモリには書き込めません。

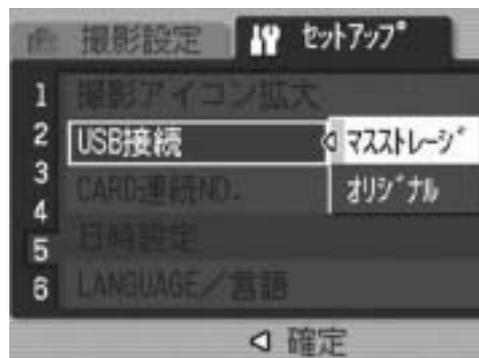
USB通信方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[USB接続]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ--

USBケーブルを使って画像をパソコンに転送する方法はP.174 ～P.179をご覧ください。

5

カメラの設定を変える

ファイル名の設定を変える（CARD連続NO.）

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値	
ON（連番にする） ※購入時の設定	撮影した静止画に、R0010001.jpg〜R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを別のカードに替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない）	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg〜RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 RIMG9999を超えると、それ以上は記録できません。

ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［CARD連続NO.］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5
カメラの設定を変える

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に［CARD連続NO.］が［OFF］の設定の場合と同じにファイル名が付けられます。
- RICOH Gate Laを使ってパソコンに転送する（☞P.177）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、［CARD連続NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（****は番号）で保存されます。

注意

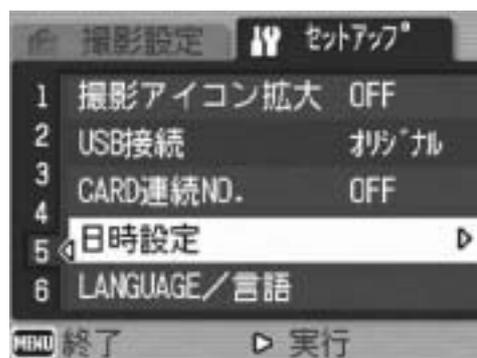
RIMG9999を超えると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[日時設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ◀▶ ボタンを押すと、次の項目へ移動することができます。

4 [書式] で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENU/OKボタンを押す

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える（LANGUAGE／言語）

液晶モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
日本語
ENGLISH（英語）
DEUTSCH（ドイツ語）
FRANÇAIS（フランス語）
ITALIANO（イタリア語）
ESPAÑOL（スペイン語）
简体中文（中国語：簡体字）
繁体中文（中国語：繁体字）
한국어（韓国語）

表示言語を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［LANGUAGE／言語］を選び、▶ボタンを押す

- 言語選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）

付属のAVケーブルでテレビにカメラを接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。（☞P.122）
テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
NTSC
PAL

ビデオ方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.132を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ビデオ方式] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンまたは◀ボタンを押す

- ビデオ方式が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

5

カメラの設定を変える

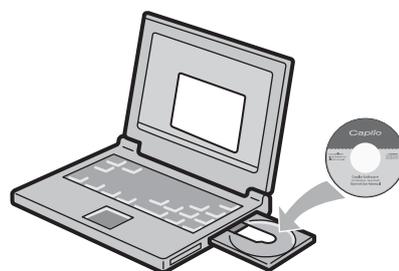
画面の表示は、ご使用のパソコンのOS によって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.180をご覧ください

画像をパソコンに取り込むためのソフトウェアをパソコンに入れます。この操作を「インストール」といいます。
自動的にカメラからパソコンに画像を取り込むためには、インストールが必要です。

注意

- カメラとパソコンをケーブルでつなぐ前に、必ずソフトウェアをパソコンにインストールしてください。(☞P.166)

メモ

- カメラのセットアップメニューの［USB接続］の設定を［マスストレージ］に設定すると、付属のアプリケーションやUSBドライバーなどをインストールしなくてもカメラの中のファイルを参照できます。(☞P.175) ご購入時の設定は［マスストレージ］です。
- 画像をパソコンに取り込む方法については、Caplio Software CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.163を参照してください。

Caplio Software CD-ROMの構成

Caplio Software CD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

項目名	内容	参照先
ソフトウェアの インストール	カメラや画像を取り扱うために必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.166
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.163
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.164
RICOHホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	ー
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	ー
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	ー
Adobe Digital Imaging ホームページへ	アドビシステムズ株式会社のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	ー

［ソフトウェアのインストール］をクリックする（☞P.166）

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	Windows		説明
	XP	98	
RICOH Gate La	○	○	画像を一括して取り込めます。
Irodio Photo & Video Studio	○	○	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。
USBドライバー	−	○	オリジナル接続でカメラとパソコンを接続するときに使います。
WIAドライバー	○	−	オリジナル接続でカメラとパソコンを接続するときに使います。

XP : Windows XP/Vista
98 : Windows 98SE/Me/2000

 メモ--

本機には、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html）を参照してください。

［使用説明書（ソフトウェア編）を見る］をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。

すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。（☞P.169）

［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、［ソフトウェアのインストール］をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをご使用いただけます。
各ソフトウェアのインストールについては、下表の「参照先」に記載したページをご覧ください。

ソフトウェア名	説明	参照先
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。	P.169
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。文書の更新を監視するAuto Documentリンクを使って、カメラ内の画像をRidocに登録することもできます。	P.170

 メモ---

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Auto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- Irodio Photo & Video Studioは「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。

Caplio Software CD-ROMを使うために必要な環境

Caplio Software CD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 98 Second Edition（日本語版） Windows 2000 Professional（日本語版） Windows Me（日本語版） Windows XP Home Edition（日本語版）/ Professional（日本語版） Windows Vista（日本語版）
CPU	Windows 98SE/2000/Me/XP：Pentium® III 500MHz 以上 Windows Vista：Pentium® III 1GHz 以上
メモリー	Windows 98SE：256MB 以上 Windows 2000：256MB 以上 Windows Me：256MB 以上 Windows XP：256MB 以上 Windows Vista：512MB 以上
インストール時のハードディスクの空き容量	Windows 98SE：160MB 以上 Windows 2000：160MB 以上 Windows Me：160MB 以上 Windows XP：160MB 以上 Windows Vista：160MB 以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート

注意

- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお薦めします。
- Windows 98SEをご使用の場合、USB通信方式を［オリジナル］に設定する必要があります。（☞P.154)
- Ridoc Desk Navigator LtはWindows Vistaに対応していません。

カメラや画像を取り扱うためのソフトウェアをインストールする

カメラとパソコンを接続する前に、必要なソフトウェアをインストールしてください。

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- ソフトウェアを入れる前にカメラとパソコンを接続して、[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されてしまった場合には、[キャンセル]をクリックしてカメラとパソコンの接続を外してから、インストールの操作を行ってください。
- 従来機種のCaplio Software CD-ROMからすでにソフトウェアをインストールしている場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、従来機種のソフトウェアをアンインストールしてからインストールするようメッセージが表示されます。
  この場合は、メッセージに従って従来機種のソフトウェアをアンインストールし、新しいソフトウェアをインストールしてください。従来機種のソフトウェアもこれまでと同様にお使いいただけます。
  DU-10がインストールされている場合は、Caplio Viewer(DU-10の機能強化版)に置き換わります。メッセージが表示される前に従来機種のソフトウェアをアンインストールした場合は、新しいソフトウェアをインストールしてもCaplio Viewerはインストールされません。(アンインストール方法☞P.172)
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- RICOH Gate Laはネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- [Autorun.exeの実行]を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合

- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の［許可］を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

3 言語を選択し、［OK］をクリックする

- ［Caplio Software用のInstallShield Wizardへようこそ］画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックする

- ［インストール先の選択］画面が表示されます。

5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする

- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。
  パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

7 ［完了］をクリックする

- Caplio　Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 ［完了］をクリックする

9 パソコンを再起動する

メモ--

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（☞P.172）

その他のソフトウェアをインストールする

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示をするためのソフトウェアです。
Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

1 **パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする**

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 **[CD-ROMの内容を見る]をクリックする**

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 **[Acrobat]フォルダをダブルクリックする**

4 **[Japanese]フォルダをダブルクリックする**

5 **[ar505jpn]（ar505jpn.exe）をダブルクリックする**

- Windows Vistaの場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。[続行]を選択してください。

6 **表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする**

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。
また、文書の更新を監視するAuto Documentリンクを使って、カメラから画像を取り込み、Ridocへ登録することもできます。

メモ

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
  （Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.）
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator LtはWindows Vistaに対応していません。

注意

- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクでカメラから画像を取り込む場合には、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする前に、Caplio Softwareをインストールしてください。（☞P.166）
  Auto Documentリンクを使用するには、Caplio Softwareに含まれるドライバーソフトウェアが必要です。
- Auto Documentリンクの監視先に［Caplioデジタルカメラ］を指定したときは、カメラの［USB接続］を［オリジナル］に設定してください。（☞P.154）

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 ［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 ［Ridoc Desk］フォルダをダブルクリックする

4 ［RDLaunch.exe］をダブルクリックする

5 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。

注意 --

- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- Ridoc Desk Navigator LtのAuto Documentリンクで、カメラから画像を取り込む場合は、RICOH Gate Laの［オプション設定］画面で、［USB接続時、自動保存を行う］のチェックを外してください（☞『使用説明書（ソフトウェア編）』）。またカメラから画像を取り込む前に、カメラの日付設定で、日付を設定してください。（☞P.158）
- カメラを接続してRidoc Desk Navigator Ltを開いたままでカメラの電源をオフ／オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意 --

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Caplio Software

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル]（XPの場合は [コントロールパネル]）を選択する

3 [アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は[プログラムの追加と削除] アイコン）をダブルクリックする

4 [Caplio Software］を選択し、[変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、[OK］をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

6 [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて、[はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル] (XPの場合は [コントロールパネル]）を表示する

3 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は[プログラムの追加と削除] アイコン）をダブルクリックする

4 ［Irodio Photo & Video Studio］を選択し、［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

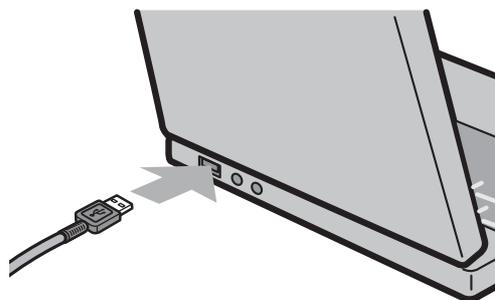
- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

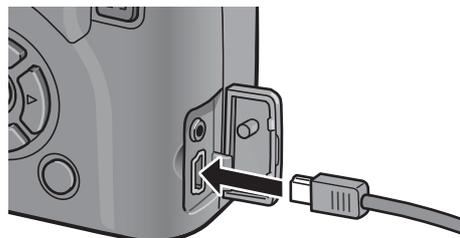
6 パソコンを再起動する

画像をパソコンに取り込む

ソフトウェアをパソコンにインストールしたら、カメラとパソコンを接続します。
なお、あらかじめご使用のソフトウェアに応じて、カメラのセットアップメニューの[USB接続]を変更してください。(☞P.154)

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。

4 RICOH Gate Laが起動して、自動的に画像の転送が開始される

5 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する（☞P.179）

メモ

- RICOH Gate Laの使い方についてはCD-ROM内の「使用説明書」（ソフトウェア編）」（PDFファイル）をご参照ください。(☞P.163)
- 画像の転送が開始されない場合は、パソコンを再起動して３～５の操作をもう一度お試しください。

ソフトウェアを使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 セットアップメニューの［USB接続］を［マスストレージ］に変更する（☞P.154）

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

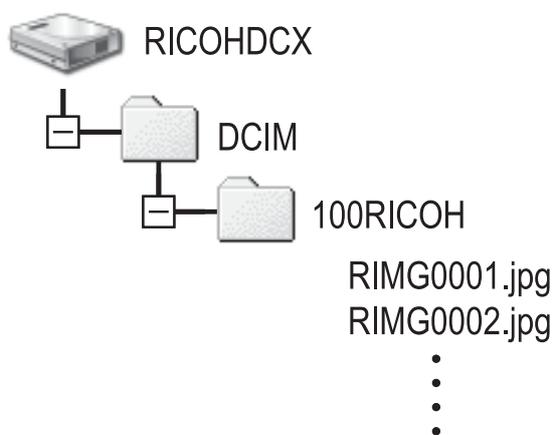
3 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

4 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、Windowsの場合は［マイコンピュータ］に、Macintoshの場合はデスクトップにドライブとして表示されます。

5 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

Windows XPでの表示例

注意

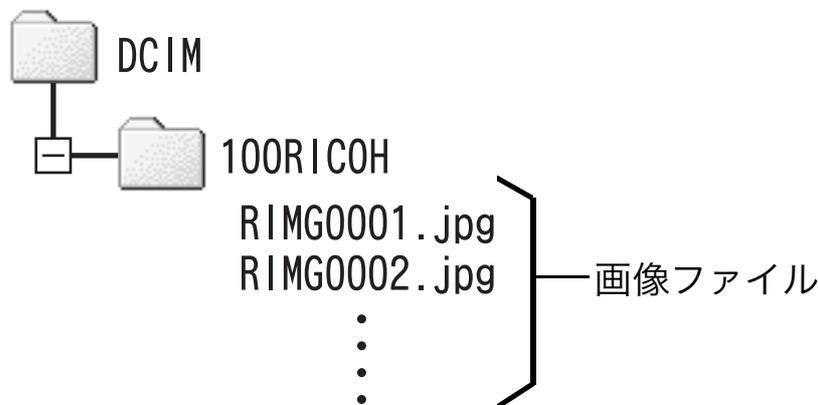
- Windows 98SEをご使用の場合、本カメラではマスストレージモードで接続できません。［オリジナル］に設定してください。（☞P.154）
- 転送中は電源をオフにしたりUSBケーブルを抜かないでください。
- 転送先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに転送するか、転送先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。

SDメモリーカードから画像を取り込む

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。
接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。

注意

Windows Vistaの「画像取り込み」機能を使用してパソコンに取り込んだ画像は、本機では表示できません。

オリジナル接続で画像を取り込む

カメラの［USB接続］を［オリジナル］に設定して画像を取り込む場合は、オリジナルドライバーを使います。（Windows 98SEをお使いの方や、Auto Documentリンクを使用する場合）

はじめてカメラとパソコンを接続したとき

はじめてカメラとパソコンをUSBケーブルで接続すると［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されます。（Macintosh、Windows 98SE/2000では表示されません。）
ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 ［ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）］を選択する

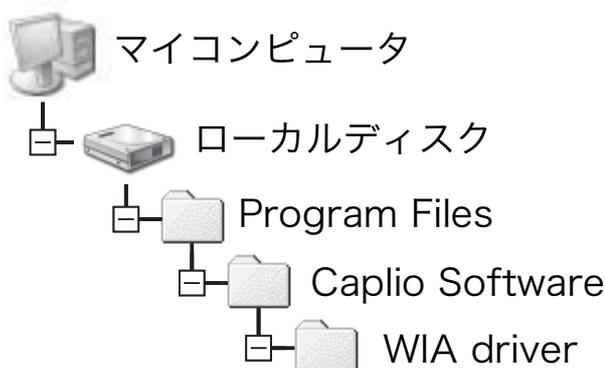
2 付属のCaplio Software CD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

- 自動的にWIAドライバーのインストールが開始されます。[新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示されたとき、すでにCD-ROMがパソコンにセットされていた場合は、［次へ］を選択するとインストールが開始されます。

3 以下の画面が表示された場合は［続行］を選択する

- 本製品は弊社にて十分なテストを行い、正常に動作することを確認しています。

メモ

- Windows Vistaの場合、途中、セキュリティやユーザーアカウントの確認画面が表示されることがありますが、概ねWindows XPの画面と同じです。
- WIAドライバーは、インストーラの初期設定では以下の場所にも保存されています。CD-ROMがお手元にない場合は、このフォルダを指定してください。

4 [RICOH Gate La]を選択し、[この動作には常にこのプログラムを使う] にチェックを入れて、[OK] をクリックする

- Windows XPの「スキャナとカメラのウィザード」機能を使ってカメラから画像を取り込む場合は、[Microsoft スキャナとカメラのウィザード] を選択してください。
- Auto Document リンクを使ってカメラから画像を取り込む場合は [Ridoc Auto Documentリンク] を選択してください。
- [この動作には常にこのプログラムを使う]にチェックを付けないと、取り込みの際に毎回 [GX100] 画面が表示され、取り込みの方法(RICOH Gate Laまたはスキャナとカメラのウィザード)が選択できます。
- Windows XP Service Pack2をお使いの方で、警告メッセージが表示された場合は、P.189をご覧ください。

メモ

- 接続がうまくいかないときは、ソフトウェアを削除し(☞P.172)、再度インストールを試してください。
- カメラから画像を取り込む場合は、十分に残量がある電池をセットしてください。または、電源にACアダプター(別売り)を使用することをお勧めします。
- パソコンに転送する際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。（表示はWindows XPに［マスストレージ］で接続した例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。）

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする

2 ［USB大容量記憶装置デバイス］を選び、［停止］をクリックする

3 ［USB 大容量記憶装置デバイス］が選ばれていることを確認して、［OK］をクリックする

4 ［OK］をクリックする

5 USBケーブルを取り外す

メモ

- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。
- マスストレージ接続時、必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.161をご覧ください。

このカメラは、以下のOSに対応しています。

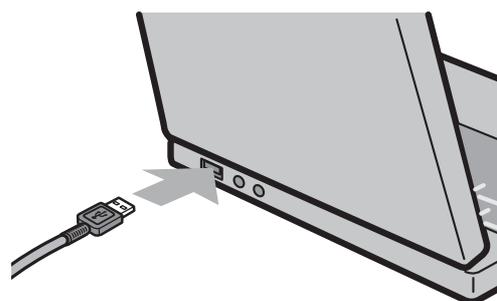
- Mac OS 9.0 ～ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ～ 10.4.8

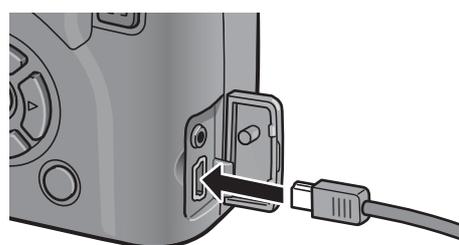
Mac OS 8.6には対応していません。

画像をパソコンに取り込む

1 セットアップメニューの［USB接続］を［マスストレージ］に設定する

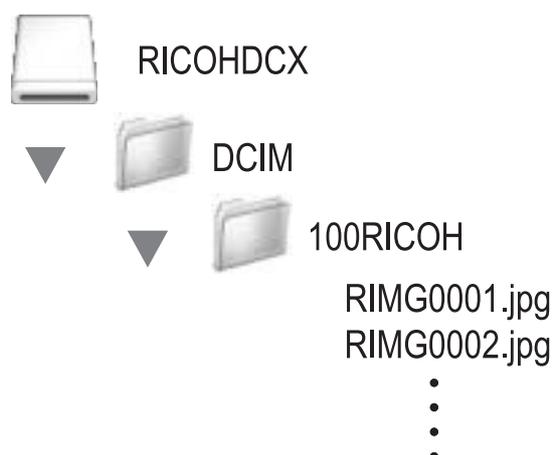
2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

4 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。

5 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

6

画像をパソコンに取り込む

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す

メモ

- Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。
- マスストレージ接続時、必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

液晶モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
CARDを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.30
セットアップメニューから日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.158
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.156 P.157
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.27
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.111
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.27
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.55 P.134 P.135
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	−
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.135
CARDを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.134
使用できないCARDです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.134
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
記録できません。	撮影可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.27
レンズキャップを外してください。	レンズキャップがついているため、電源がオンになりません。レンズキャップを外してください。	P.32
レンズキャップを外し、再生ボタンを押してください。	レンズキャップがついているため、電源がオンになりません。レンズキャップを外してから▶（再生）ボタンまたはPOWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにしてください。	P.32

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.29 P.195
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.25
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.195
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.32
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.30
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.32
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか､ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.29 P.30 P.195
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.25
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.30 P.195
充電したばかりなのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.25
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	P.30
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.29 P.30 P.195
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。または▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.32 P.51
	再生モードになっている。	▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.51
	シャッターボタンを押しきっていない。	シャッターボタンを押しきる。	P.37 P.38
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.134
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.55 P.30
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.30
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス／フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.43
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.27
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.144
液晶モニターに映らない。	電源が入っていない。または液晶モニターが暗い。	電源を入れる。または液晶モニターの明るさを調整する。	P.32 P.136
	液晶モニターがオフになっている。	VF/LCDボタンを押して、液晶モニターをオンにする。	P.58
	液晶ビューファインダーに切り替わっている。	VF/LCDボタンを押して、液晶モニターに切り替える。	P.58
	ビデオケーブル／AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／AVケーブルを抜く。	P.122
液晶ビューファインダーに映らない。	液晶ビューファインダーを完全に装着していない。	液晶ビューファインダーを完全に装着する。	ー

症状	原因	処置	参照先
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズまたはAF窓が汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	P.17
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.38
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.38 P.81
手ブレになる。	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。 手ブレ補正機能を使う。	P.35 P.103
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。 手ブレ補正機能を使う。	P.43 P.101 P.103
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	フラッシュがポップアップしていない。	⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを外側にスライドさせて、フラッシュをポップアップさせる。	P.43
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。また、液晶ビューファインダーの角度を元に戻して、フラッシュがポップアップするように調整する。	P.43
	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • ホワイトバランスブラケットを使用する設定 • 連写モード • 動画モード また、シーンモードでは、初期設定が発光禁止になっている。	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.43 P.91 P.84 P.105 P.201
	フラッシュが発光禁止になっている。	フラッシュをポップアップさせる。⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.43
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.29 P.30 P.195

症状	原因	処置	参照先
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、望遠時で約3.0m以上、広角時で約5.0m以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.43
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.97
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。また、液晶ビューファインダーの角度を元に戻して、フラッシュがポップアップするように調整する。	P.43
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.43
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。 露光時間を短く設定する。	P.97 P.69
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.136
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	フラッシュをポップアップさせる。⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.43
	露出が不足している。	露出補正を行う。 露光時間を長く設定する。	P.97 P.69
	液晶モニターの明るさが適切でない。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.136
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.98
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.58
AF動作中、液晶モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	－
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	－

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.51
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.122
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.160
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.30
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.30 P.134
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	ー
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	ー
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.29 P.30 P.195
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.32
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.111
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.27
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.27

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.30
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.29 P.30 P.195
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。	P.32
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.30 P.195
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.158
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.158
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.141
ブザー音が鳴らない。	消音が設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.143
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.160
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.122
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	ー

ソフトウェア／パソコンのトラブル

ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack2での警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2がインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下の警告メッセージが表示される場合があります。
こちらをご理解の上、以下を参考にしてください。

警告メッセージが表示されたら

1 名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

注意 --

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

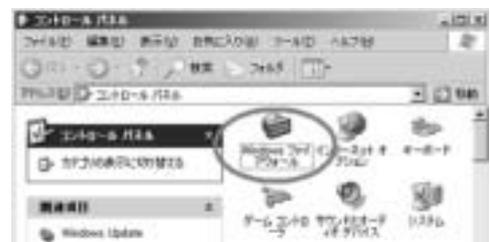
Windowsファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windowsファイアウォール］をダブルクリックする

- ［Windowsファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

7

付録

3 ［例外］タブをクリックする

4 ［プログラムおよびサービス］内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 ［プログラムの追加］ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する

［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

主な仕様

総合

ビデオ信号方式	NTSC方式、PAL方式
電源電圧	リチャージャブルバッテリー DB-60（3.7V）× 1本
	単四形アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、オキシライド乾電池×2本
	外部（ACアダプター）：3.8V
外形寸法	111.6mm（幅）× 58.0mm（高さ）× 25.0mm（奥行き）（突起部含まず）
質量	本体 約220g（電池／ストラップを除く） 付属品 約30g（電池／ストラップ）
三脚ネジ穴形状	1/4-20UNC
使用温度範囲	0℃～40℃
使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	-20℃～60°C

カメラ部

有効画素数	約1001万画素
使用撮像素子	1/1.75型原色CCD（総画素数1030万画素）
レンズ	
レンズ	3.0倍光学ズームレンズ 明るさ（F値）：F2.5（W)～4.4（T)
焦点距離	5.1～15.3mm（35mm換算24～72mm）
撮影距離	約0.3m～∞（広角）、約0.3m～∞（望遠）
マクロ撮影距離（レンズ先端より）	約0.01m～∞（広角）、約0.04m～∞（望遠）、 約0.01m～∞（ズームマクロ）
デジタルズーム	4.0倍
モニター表示部	
画面サイズ	2.5型
種類	透過型アモルファスシリコンTFT液晶
画素数	約23万画素
ホワイトバランス	AUTO／固定（屋外、曇天、白熱灯、蛍光灯、手動設定）
露出調整	
測光感度分布	マルチ測光（256分割）、中央重点測光、スポット測光
露出補正	マニュアル露出補正±2.0EV（1/3EVステップ）
測光方式	TTL-CCD測光方式
フラッシュ AE	あり（日中シンクロ　あり）
シャッタースピード	静止画：180、120、60、30、15、8、4、2、1～1/2000秒 ※撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。 動画：1/30～1/2000秒
ISO感度設定（標準出力感度）	AUTO、AUTO-HI、ISO80/ISO100/ISO200/ISO400/ISO800/ISO1600

距離調節	
AF方式	通常撮影領域：外部パッシブ・CCD方式 マクロ領域：CCD方式
AF測距範囲	通常撮影領域：約0.3m～∞、 マクロ時：約0.01m（W）、0.02m（M）、0.04m（T）、～∞
内蔵フラッシュ	
方式	フラッシュマティックとプリ発光方式併用
撮影距離	約0.2～5.0m（広角）、約0.15～3.0m（望遠）（ISO：AUTO）
動作モード	発光禁止／オート／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／ソフト発光
デート保持時間	約1週間

画像データ録再部

画素数（ピクセル）	
静止画	3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
文字	3648×2736、2048×1536
動画	640×480、320×240
ファイルフォーマット	
静止画	JPEG（Exif Ver.2.21）
文字	JPEG（Exif Ver.2.21）
動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
音声	WAV（Exif Ver.2.21 μ law）
カメラファイルシステム規格	DCF ※DCFはJEITAで標準化された『Design rule for Camera File System』規格の略称です。
圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
画像サイズ	
3648×2736	N:約2073KB／画面､F:約3608KB／画面､RAW:約14.4MB／画面
3648×2432	N:約1846KB／画面､F:約3210KB／画面､RAW:約12.8MB／画面
2736×2736	F：約2713KB／画面
3264×2448	N：約1665KB／画面
2592×1944	N：約1060KB／画面
2048×1536	N：約672KB／画面
1280×960	N：約356KB／画面
640×480	N：約83KB／画面

入出力端子

電源入力	3.8V（ACアダプター）
ビデオ出力	1.0Vp-p（75Ω）
USB端子	USB2.0 High-Speed (miniBタイプ)

記録再生可能なメモリーカードの種類

メモリー種類	SDメモリーカード､SDHCメモリーカード､マルチメディアカード

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質	画像サイズ	内蔵	64MB	128MB	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB
静止画	RAW	3648×2736	1	3	6	13	26	51	105	206
	F	3648×2736	6	15	31	63	127	244	495	973
	N	3648×2736	11	27	55	109	221	425	865	1699
	RAW	3648×2432	1	3	7	15	30	58	118	232
	F	3648×2432	7	17	35	70	142	274	558	1097
	N	3648×2432	13	30	61	122	247	476	960	1885
	F	2736×2736	8	20	42	83	169	325	660	1297
	N	3264×2448	14	33	68	136	275	530	1078	2117
	N	2592×1944	22	53	107	213	430	828	1661	3261
	N	2048×1536	35	83	169	338	682	1313	2671	5246
	N	1280×960	62	147	300	599	1208	2323	4726	9282
	N	640×480	276	644	1303	2598	5236	10071	20476	40206
文字		3648×2736	11	27	55	109	221	425	865	1699
		2048×1536	35	83	169	338	682	1313	2671	5246
動画	640×480 15コマ／秒		24秒	57秒	1分56秒	3分51秒	7分46秒	14分57 秒	30分24 秒	59分42秒
	640×480 30コマ／秒		12秒	28秒	58秒	1分56秒	3分55秒	7分31秒	15分19秒	30分4秒
	320×240 15コマ／秒		1分16秒	2分58秒	5分59秒	11分57秒	24分5秒	46分19秒	94分11秒	184分57秒
	320×240 30コマ／秒		39秒	1分31秒	3分4秒	6分n 7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	94分40秒

メモ

- 液晶モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の撮影可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

別売り品について

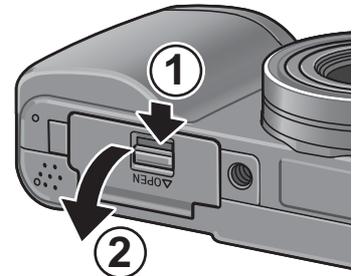
Caplio GX100では、下記の別売り品が使用できます。

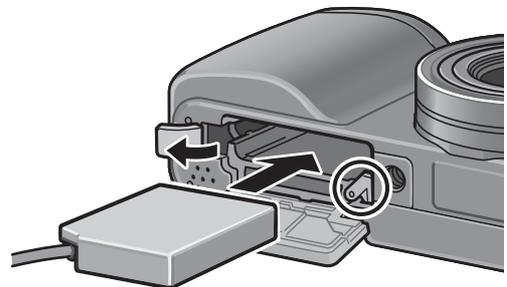
商品名	型名	備考
ACアダプター	AC-4c	家庭用コンセントから直接電源を供給するときに使用します。
リチャージャブルバッテリー	DB-60	本カメラで使用できる充電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-6	リチャージャブルバッテリー（DB-60）を充電するための充電器です。
ワイドコンバージョンレンズ	DW-6	さらに広角に撮影したいときに使用します。倍率0.79倍のワイドコンバージョンレンズです。19mm 相当（35mm判カメラ換算）での撮影が可能です。フード＆アダプターと併用して使用します（ケース付）。
フード＆アダプター	HA-2	太陽の光がレンズに当たるのを防ぐフードと、φ43mm汎用フィルターなどを装着する際のアダプターとのセットです。逆光時の撮影画質を向上させたいときなどに使用します。
ケーブルスイッチ	CA-1	カメラのシャッターボタンを操作します。半押し、一気押しともに操作可能です。
ネックストラップ	GS-1	2点吊ネックストラップです。
ソフトケース	SC-45	本カメラのケースです。

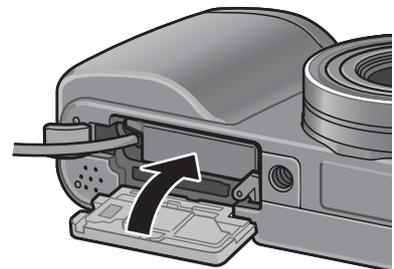
- 各別売り品の使用方法は、商品に付属の使用説明書を参照してください。
- ワイドコンバージョンレンズまたはフードを使用している場合、内蔵フラッシュは使用できません。
- ネックストラップST-1は、取り付けることができません。

ACアダプター（別売り）を使う

撮影や静止画を見る際に長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、ACアダプターを使うことをお勧めします。
すでにお使いのお客様は、ACアダプターをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

2 ACアダプター用バッテリーを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。

3 電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

5 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターをご使用の際は、電池残量マークがフルにならないことがあります。

ACアダプターを取り出すには

AC アダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

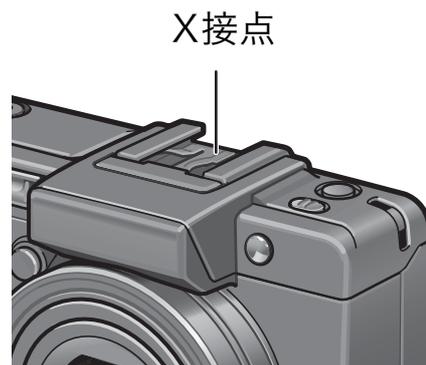
1 電源プラグをコンセントから抜く

2 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

3 ACアダプター用バッテリーを取り出す

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

外部フラッシュを使う

本カメラにはホットシューが装備されているので、外部フラッシュ（市販）を接続して使用できます。
外部フラッシュを接続するときは、次のように操作します。

1. フラッシュカバーを閉じる（☞P.17）
2. カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態で、外部フラッシュをホットシューに取り付ける
3. カメラの電源を入れ、モードダイヤルをAまたはMに合わせて、絞り値を設定する（☞P.68、P.69）
4. カメラのISO感度を［AUTO］以外に設定する
5. 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュを自動（オート）に設定し、F値とISO感度をカメラに合わせる
   - 外部フラッシュをカメラから取り外すときは、外部フラッシュの電源を切ってから行ってください。

注意 --

シャッタースピードが遅い場合は、手ブレすることがあります。

注意 --

- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを使用することはできません。傷や故障の恐れがあります。
- フラッシュ設定にかかわらず、ホットシューのX接点にフラッシュ発光信号が出力されますので、外部フラッシュのフラッシュ発光停止は、外部フラッシュ側のスイッチで発光停止処置を施してください。
- 外部フラッシュのF値とISO感度をカメラと同じ条件にしても、適正露出にならない場合があります。そのときは外部フラッシュ側のF値やISO感度を変更してください。
- カメラからは発光信号として、X接点に＋極性のパルスが出力されます。
- 市販のフラッシュにはX接点の極性が逆のものがまれにあり、このようなフラッシュを使用した場合、発光しないだけでなくカメラが故障する場合があります。端子の仕様については、外部フラッシュのメーカーにお問い合わせください。
- 撮影レンズの画角をカバーする照射角をもつ外部フラッシュを使用してください。
- 外部フラッシュの使用は、基本的に内蔵フラッシュの光量だけでは不足する距離（遠距離側）でご使用ください。近距離側では露出オーバーになることがあります。
- 特殊信号ピンを持つ外部フラッシュは使用しないでください。使用すると不適切な露出になったり、カメラの回路を破壊することがあります。
- 外部フラッシュ装着時は、液晶ビューファインダーを使用することはできません。

電源オフで設定値が初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。
次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値
撮影関連	画質・サイズ	○	N3648 (10M)
	フォーカス	○	マルチAF
	測光方式	○	マルチ
	連写	×	OFF
	画像設定	○	普通
	オートブラケット	×	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	音声付き撮影	×	OFF
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO感度	○	AUTO
	手ブレ補正	○	ON
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	発光禁止
	セルフタイマー	×	セルフ　オフ
	最大輝度	○	ー
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	2048 (3M)
	動画サイズ	○	320
	フレームレート	○	30コマ／秒
再生関連	動画、音声付き静止画再生時の音量	○	ー

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値
セットアップメニューから設定する項目	LCD輝度調節	○	ー
	マイセッティング登録	○	ー
	ステップズーム	○	OFF
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO 400
	オートパワーオフ	○	1分
	ブザー音	○	すべて
	操作音音量設定	○	中（■■□）
	画像確認時間	○	0.5秒
	ADJ.レバー設定1	○	露出補正
	ADJ.レバー設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.レバー設定3	○	ISO
	ADJ.レバー設定4	○	OFF
	ADJシャッターボタン確定	○	OFF
	ファンクションボタン設定	○	AF/MF
	AF補助光	○	ON
	RAW同時記録設定	○	FINE
	デジタルズーム切替	○	通常
	撮影設定警告	○	ON
	撮影アイコン拡大	○	OFF
	USB接続	○	マスストレージ
	CARD連続NO.	○	ON
	日時設定	○	ー
	LANGUAGE／言語	○	*
	ビデオ方式	○	*

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

シーンモードについて

シーンモードの種類によっては、通常の撮影モードと機能の働きが異なる場合があります。下表を参照してください。

モード名	フラッシュ	マクロ撮影
ポートレート	初期値：発光禁止	不可
スポーツ	初期値：発光禁止	不可
遠景	発光禁止に固定	不可
夜景	強制発光は選択不可 初期値：オート	不可
斜め補正	初期値：発光禁止	使用可
文字	初期値：発光禁止	使用可
ズームマクロ	初期値：発光禁止	常時マクロ撮影
高感度	初期値：発光禁止	使用可

シーンモードの撮影設定メニュー

設定項目	ポートレート	スポーツ	遠景	夜景	斜め補正	文字	ズームマクロ	高感度	参照先
画質・サイズ	○	○	○	○	○	−	○	○	P.77
文字濃度	−	−	−	−	−	○	−	−	P.63
サイズ	−	−	−	−	−	○	−	−	P.77
フォーカス	○	○	−	○	○	−	○	○	P.80
測光方式	−	−	−	−	○	−	○	−	P.83
連写	−	−	−	−	−	−	○	−	P.84
画像設定	−	−	−	−	○	−	○	−	P.88
オートブラケット	−	−	−	−	−	−	○	−	P.90
音声付き撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	P.95
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	P.96
露出補正	○	○	○	○	○	−	○	○	P.97
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	−	○	○	P.98
ISO感度	−	−	−	−	○	−	○	−	P.101
手ブレ補正	○	○	○	○	○	○	○	○	P.103

○ 設定可能　　　− 設定不可
各項目の選択肢については、P.74を参照してください。

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4c）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

保証書について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光しないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 液晶モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 液晶モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 液晶モニターを強く押さないでください。
- カメラを持ち運ぶときは、レンズや液晶モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 液晶モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 液晶モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。
  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障。
   ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障。
   ⑤ 浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、衝撃、落下、圧力等による自然故障以外の故障。
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であると否とにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   ＊ 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
   ＊ 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

あ

か

保証規定

1. 本製品が万一故障した場合はご購入日から満 1 年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か当社サービス窓口にお申し出ください。なお、お買い上げ店または当社サービス窓口にご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。また、お買い上げ店と当社間の運賃諸掛りにつきましては、輸送方法によって一部ご負担いただく場合があります。
2. 次の場合は、上記期間内でも保証の対象とはなりません。
   (1)使用上の誤り（使用説明書以外の誤操作等）により生じた故障。
   (2)当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
   (3)火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障。
   (4)浸水、落下、衝撃、泥、砂、圧力等による自然故障以外の故障。
   (5)保管上の不備（使用説明書に記載）や手入れの不備等による故障。
   (6)本保証書の添付のない場合。
   (7)販売店名、ご購入年月日等の記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合。
3. 保証の対象となる部分は本体のみでストラップ等の付属品類及び本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象とはなりません。
4. 本製品の故障に起因する付随的損害（記録・再生に要した諸費用及び、記録・再生により得べかりし利益の損失等）については補償しかねます。

ご注意

1. 本保証書は以上の保証規定により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
2. 当製品の修理に関するお問い合わせは、販売店又は最寄りのサービス窓口までご連絡ください。
3. 本保証書をお受け取りの際は、販売店名及び購入年月日等が記入されているかどうかをご確認ください。もし、記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げ店へお申し出ください。
4. 本保証書は紛失されましても再発行致しませんので大切に保存してください。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)

＜アフターサービスについて＞

1. 修理完了品には当社サービス窓口より修理伝票が発行されますので、修理品をお受け取りの際ご確認ください。
2. 部品の保有期間等アフターサービスに関する事項については、使用説明書に詳しく記載されていますのでご覧ください。
3. 保証期間経過後の修理等についてのお問い合わせは、当社サービス窓口をご利用ください。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。
デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

困ったときには

本書の「お困りのときは」（☞P.182）をご覧ください。それでも問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター	
	電話0120-000475　　FAX 0120-479417 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日を除く） ※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。
インターネットでもご相談をお受けしています。 http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html	
デジタルカメラ修理受付	
リコー修理受付センター （リコーロジスティクス株式会社）	FreeDial 0120 電話0120-053956 （携帯電話、PHSからの通話はできません） 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く） 宅配便を利用した修理品の受付センターです。
リコー銀座カメラサービスセンター ※持ち込み修理の受付です。	〒104-0061東京都中央区銀座6-14-7（第3リコービル） 電話03-3543-4187 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
デジタルカメラサービスセンター （リコーテクノシステムズ株式会社） ※持ち込み修理の受付です。	〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 （新横浜ファーストビル3階） 電話045-474-2586 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/	
Irodio Photo & Video Studioについて	
株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター	電話06-6633-3900 受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00 （年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）

株式会社リコー
〒104-8222
東京都中央区銀座8-13-1リコービル
電話：0120-000475（フリーダイヤル）
2007年6月

L739 1971B

JA Printed in China